

# Novell Lotus Notes\* 用の Identity Manager ドライバ

2.2

[www.novell.com](http://www.novell.com)

実装ガイド

2006 年 5 月 26 日

# N

Novell®

## 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書に起因する結果に関して、いかなる表示も行いません。また、本書の商品性、および特定用途への適合性について、いかなる黙示の保証も行いません。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの使用に起因する結果に関して、いかなる表示も行いません。また、商品性、および特定目的への適合性について、いかなる黙示の保証も行いません。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、取引対象製品の輸出、再輸出または輸入に関し、国内外の輸出管理規定に従うこと、および必要な許可、または分類に従うものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。本ソフトウェアの輸出については、[www.novell.co.jp/info/exports/expmtx.html](http://www.novell.co.jp/info/exports/expmtx.html) または [www.novell.com/ja-jp/company/exports/](http://www.novell.com/ja-jp/company/exports/) もあわせてご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに對し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2000-2006 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複製、写真複写、検索システムへの登録、転載することは、その形態を問わず禁止します。

米国 Novell, Inc. は、本ドキュメントで説明されている製品に組み込まれた技術に関する知的財産権を有します。これらの知的財産権は、<http://www.novell.com/company/legal/patents/> に記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.  
404 Wyman Street, Suite 500  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.  
[www.novell.com](http://www.novell.com)

オンラインマニュアル：本製品とその他の Novell 製品のオンラインマニュアルにアクセスする場合や、アップデート版を入手する場合は、[www.novell.com/ja-jp/documentation](http://www.novell.com/ja-jp/documentation) をご覧ください。

## **Novell の商標**

DirXML は、米国 Novell, Inc. の米国およびその他の国々における登録商標です。

eDirectory は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NDS は、米国 Novell, Inc. の米国およびその他の国々における登録商標です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の米国およびその他の国々における登録商標です。

Novell は、米国 Novell, Inc. の米国およびその他の国々における登録商標です。

Nsure は、米国 Novell, Inc. の商標です。

SUSE は、米国 Novell, Inc. の事業部である SUSE Linux AG の登録商標です。

## **第三者の商標**

第三者の商標は、それぞれの所有者に属します。



# 目次

このガイドについて	3
<b>1 概要</b>	<b>5</b>
1.1 用語の変更	5
1.2 新機能	5
1.2.1 ドライバの機能	5
1.2.2 Identity Manager の機能	7
1.3 Notes ドライバの基本	7
1.3.1 デフォルトのデータフロー	7
1.3.2 ポリシー	9
1.4 ドライバのコンポーネントと環境設定	9
<b>2 ドライバのインストールと環境設定</b>	<b>11</b>
2.1 ドライバをインストールする場所	11
2.1.1 ローカルインストール	11
2.1.2 リモートインストール	11
2.2 ドライバ要件	12
2.3 同期化に備えた Lotus Notes の準備	13
2.3.1 環境設定情報の収集	13
2.3.2 Lotus Notes アカウントとグループの作成	13
2.3.3 Lotus Notes インフラストラクチャでの証明者および ID ファイルへのアクセス権の付与	14
2.4 ドライバのセットアップ	14
2.4.1 ドライバシムのインストール	15
2.4.2 ドライバオブジェクトの作成とドライバ環境設定のインポート	22
2.4.3 ndsrep を使用したデータベースレプリケーションの設定	26
2.4.4 データの移行と再同期化	28
2.4.5 ドライバのアクティベーション	28
<b>3 アップグレード</b>	<b>29</b>
3.1 Windows でのアップグレード	29
3.1.1 アップグレードの準備	29
3.1.2 1.x から Identity Manager 3 へのドライバシムと環境設定のアップグレード	29
3.1.3 2.x から 3.0 へのドライバシムと環境設定のアップグレード	32
3.2 AIX、Linux、または Solaris でのアップグレード	33
3.2.1 Domino のアップグレード	33
<b>4 ドライバのカスタマイズ</b>	<b>35</b>
4.1 Notes オブジェクトを移動したときの eDirectory オブジェクトの配置の決定	35
4.2 使用する証明者の自動決定	37
4.3 名前付きパスワードの使用	38
4.4 ドライバパラメータの使用	39
4.4.1 ドライバオプション	39
4.4.2 購読者オプション	41
4.4.3 発行者オプション	46
4.5 カスタムドライバパラメータ	49

4.6	その他のサンプルポリシー	77
4.7	Names.nsf 以外のデータベースの同期	78
4.8	スキーママッピングのタイプとフォーム	78
4.9	移動 / 名前変更	79
4.9.1	購読者チャンネル	79
4.9.2	発行者チャンネル	81
4.9.3	AdminP を使用する場合の考慮事項	81
4.10	AdminP コマンドの指定	82
<b>A Movecfg.exe ユーティリティの使用</b>		<b>85</b>
A.1	前提条件	85
A.2	パッチファイルの使用例	86
A.3	Movecfg.exe ユーティリティの使用	87
A.4	トラブルシューティング	88
<b>B 新機能のサンプル</b>		<b>89</b>
B.1	ユーザの追加例	89
B.1.1	メタディレクトリエンジンによって生成された追加イベント	89
B.1.2	Notes ドライバシムによって受信された追加イベント	90
B.2	名前変更の例: ユーザの姓の変更	90
B.2.1	メタディレクトリエンジンによって生成された変更イベント	90
B.2.2	Notes ドライバシムによって受信された変更イベント	91
B.3	ユーザの移動例	91
B.3.1	メタディレクトリエンジンによって生成された移動イベント	91
B.3.2	Notes ドライバシムによって受信された移動イベント	92
B.4	ユーザの削除例	92
B.4.1	メタディレクトリエンジンによって生成された削除イベント	92
B.4.2	Notes ドライバシムによって受信された削除イベント	93
B.5	Domino サーバコンソールへのコマンドの送信例	93
B.5.1	ドライバシムによって受信された Domino コンソールコマンド	93
B.5.2	Notes ドライバシムによって返されたコマンド応答	93
B.6	複製 (Rep) 属性タグ	94
B.6.1	データベース複製の追加イベントのポリシールール	94
B.6.2	シムに送信される時のメールファイルデータベースの複製属性タグ	95
B.6.3	変更イベントのポリシールール (サンプル)	96
B.6.4	シムに送信される時の変更イベントの属性タグ	97
B.7	ACL エントリタグの例	98
B.7.1	ACLEntry パラメータを送信する追加イベントのポリシールール	98
B.7.2	Notes ドライバシムに送信される時の追加イベントの ACLEntry タグ	99
B.7.3	変更イベントのポリシールール (サンプル)	100
B.7.4	Notes ドライバシムに送信される時の変更イベント	100
B.8	Lotus Notes のフィールドフラグの設定と変更	101
B.8.1	作成ポリシールール (サンプル)	102
B.8.2	変更ポリシールール (サンプル)	103
B.8.3	追加 XDS ドキュメントの例	103
B.8.4	変更 XDS ドキュメントの例	104

# このガイドについて

Lotus Notes 用 Identity Manager ドライバは、eDirectory™ ツリー上のデータを、Domino\* ディレクトリに格納されているデータまたは別の Notes データベース上のデータと自動的に同期させるためのドライバです。この設定可能なソリューションで Lotus Notes と eDirectory を統合することにより、生産性を向上させ、ビジネスプロセスの合理化を図ることができます。

このガイドは、次の章で構成されています。

- ◆ 5 ページの第 1 章「概要」
- ◆ 11 ページの第 2 章「ドライバのインストールと環境設定」
- ◆ 29 ページの第 3 章「アップグレード」
- ◆ 35 ページの第 4 章「ドライバのカスタマイズ」
- ◆ 85 ページの付録 A 「Movecfg.exe ユーティリティの使用」
- ◆ 89 ページの付録 B 「新機能のサンプル」

## 対象読者

このマニュアルは、Lotus Notes 管理者や Novell® eDirectory の管理者などの Lotus Notes 用 Identity Manager ドライバを実装するユーザーを対象としています。

## ご意見やご要望

このマニュアルおよび本製品に含まれるその他のマニュアルに関するご意見やご要望をお聞かせください。オンラインヘルプの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または「[Novell Documentation Feedback \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html)」にアクセスして、ご意見をお寄せください。

## 最新のマニュアル

このマニュアルの最新のバージョンについては、[ドライバのマニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idmdrivers\)](http://www.novell.com/documentation/idmdrivers) を参照してください。

## その他のマニュアル

Identity Manager およびその他とドライバの使用に関するマニュアルについては、[Identity Manager Driver のマニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idm\)](http://www.novell.com/documentation/idm) を参照してください。

## 表記規則

本マニュアルでは、手順に含まれる複数の操作および相互参照パス内の項目を分けるために、大なり記号 (>) を使用しています。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (\*) は第三者の商標を示します。



# 概要

Lotus Notes 用 Identity Manager ドライバを使用すると、Novell® eDirectory™ ツリー上のデータを、Domino ディレクトリに格納されているデータまたは別の Notes データベース上のデータと同期させることができます。

Notes 用 Identity Manager ドライバは、本質的には、アイデンティティボールドと、Lotus Domino Toolkit for Java\* のオブジェクトメソッドとの間で、XML ドキュメント内に表現されているオブジェクトデータをマップする、API(アプリケーションプログラミングインタフェース) トランスレータです。

- ◆ 5 ページのセクション 1.1 「用語の変更」
- ◆ 5 ページのセクション 1.2 「新機能」
- ◆ 7 ページのセクション 1.3 「Notes ドライバの基本」
- ◆ 9 ページのセクション 1.4 「ドライバのコンポーネントと環境設定」

## 1.1 用語の変更

次の用語が、旧リリースから変わりました。

表 1-1 用語の変更

旧用語	新用語
DirXML®	Identity Manager
DirXML サーバ	メタディレクトリサーバ
DirXML エンジン	メタディレクトリエンジン
eDirectory	アイデンティティボールド (eDirectory 属性またはクラスを参照する場合は除く)

## 1.2 新機能

- ◆ 5 ページのセクション 1.2.1 「ドライバの機能」
- ◆ 7 ページのセクション 1.2.2 「Identity Manager の機能」

### 1.2.1 ドライバの機能

Identity Manager 3 の Lotus Notes v2.2 用 Identity Manager ドライバには、次の機能が追加されています。

期間内に追加されたドキュメントの拡充：

- ◆ Lotus Notes の ACL エントリ 「Add」と 「Modify」
- ◆ 購読者チャンネルの Lotus Notes フィールドフラグの設定機能と変更機能

エンタイトルメントのサポート改良によるインポート環境設定の更新:

- ◆ 環境設定ファイルに、ドライバパラメータの改良された形式が加われました (GCV スタイル形式)。
- ◆ エンタイトルメントのサポートが完全に DirXML スクリプトになり、ロジックが改善されました。
- ◆ ドライバのインストールに接続システム (リモートローダ) オプションが加われました。
- ◆ Notes ドライバを使用して、Notes クライアントとリモートローダを Domino サーバとは別のマシンにインストールできる、新しい環境設定オプションが加われました。

query-ex のサポート:

- ◆ query-ex シーケンスが開始されると、UNID リストを使用する NotesDriverShim によって、可能なすべてのクエリ応答がメモリにキャッシュされます。適切な query-ex コマンドを受け取ると、Notes UNID と関連付けられている該当する Notes フィールドが検索され、返されます。
- ◆ 新しいドライバパラメータ: <janitor-cleanup-interval> (integer 型)。Janitor クリーンアップは、未完了の query-ex シーケンスによる孤立したリソースをチェックして、解放します。この間隔 (interval) は、この Janitor サービスが実行される頻度を示します。

Lotus Notes ドキュメントのロックサポートオプション:

- ◆ ドライバパラメータのドライバオプション: <allow-document-locking> により、NotesDriverShim は、変更中の Notes データベースドキュメントをロックできます。このパラメータを使用できるのは、Notes 6.5 以降を使用していて、Notes データベースで [Allow document locking (ドキュメントのロックを許可する)] チェックボックスが有効な場合のみです。
- ◆ ドライバパラメータの購読者オプション: <notes-doc-lock-fail-action> は、Notes ドライバがドキュメントをロックできない場合に、Notes ドライバがメタディレクトリエンジンに返すアクション (ドキュメントのリターンコード) を指定します。

Notes データベース (db) レプリカの作成オプションと設定オプション:

- ◆ Notes ドライバ v2.2 では、データベースのレプリケーション設定とレプリケーションエントリ設定を適用できるようになりました。
- ◆ データベースレプリカの作成をインスタンス化し、レプリケーションの実行要求を発行できるようになりました。この機能拡張により、メールファイル (mailfile) が初めて作成されるときに、メールファイルのレプリカを作成できます。
- ◆ また、この機能拡張により、同期化する既存データベースのレプリケーション設定を変更したり、同期化したデータベース上でレプリケーション要求を実行したり、アクセス可能な Domino サーバ上に新しいレプリカを作成できるようになりました。

発行者チャンネルに、次の新しい DN 形式オプションが加われました。

- ◆ NOTES\_TYPED (デフォルト): CN=JoeUser/OU=Sales/O=ACME
- ◆ NOTES: JoeUser/Sales/ACME
- ◆ SLASH\_TYPED: \O=ACME\OU=Sales\CN=JoeUser
- ◆ SLASH: \ACME\Sales\JoeUser
- ◆ LDAP\_TYPED: CN=JoeUser,OU=Sales,O=ACME

- ◆ LDAP:JoeUser,Sales,ACME
- ◆ DOT\_TYPED:CN=JoeUser.OU=Sales.O=ACME
- ◆ DOT- JoeUser.Sales.ACME

よりセキュアな HTTPPassword 形式のサポート :

- ◆ Domino 6 では、Notes アドレス帳内の個人ドキュメント (レコード) に記録される HTTPPassword 属性に対して、よりセキュアなパスワードハッシュアルゴリズムが採用されています。Notes ドライバのこの最新バージョンは、このよりセキュアな HTTPPassword ハッシュ形式を使用するようになりました。

Domino 7 のサポート :

- ◆ Domino 7 専用の API は採用されていませんが、Domino 7 はテスト済みのプラットフォームとしてサポートされています。

改良されたリターンステータスドキュメントでのサポート :

- ◆ NotesDriverShim は、ユーザのメールファイルの作成といったドライバの追加タスクを示す XML 出力ステータスドキュメントを返すことができるようになりました。つまり、add コマンドにより、複数のステータスドキュメントが返されるようになりました。
- ◆ ステータスが返されるのは次の場合です。
  - ◆ ACL エントリの作成と更新
  - ◆ メールファイルの作成
  - ◆ データベースのレプリカの作成
  - ◆ データベースのレプリケーション要求の発行
  - ◆ データベースのレプリケーション設定の更新

## 1.2.2 Identity Manager の機能

Identity Manager の新機能については、『[Identity Manager 3.0 インストールガイド](#)』の「[Identity Manager 3 の新機能](#)」を参照してください。

## 1.3 Notes ドライバの基本

Identity Manager の基本については、『[Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド](#)』の「[Identity Manager 3.0 アーキテクチャの概要](#)」を参照してください。この概要には、一般的なドライバのアーキテクチャについての説明が含まれています。また、このガイドの「[Identity Manager ドライバを管理する](#)」も参照してください。

### 1.3.1 デフォルトのデータフロー

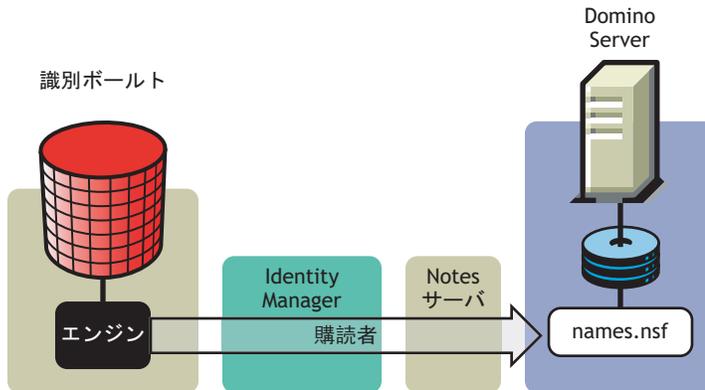
チャンネルとは、2つのシステム間でのデータの同期に使用されるルール、ポリシー、およびフィルタをまとめたものです。購読者チャンネルと発行者チャンネルは、それぞれデータフローの方向を示しています。購読者チャンネルは、アイデンティティポータル (eDirectory) からイベントを受け取り、このイベントを受信側システム (Lotus Notes) に送信します。発行者チャンネルは、Lotus Notes からイベントを受け取り、このイベントをアイデンティ

ディレクトリに送信します。購読者チャンネルと発行者チャンネルはお互い独立しているので、一方のチャンネル上でのアクションは、もう一方のチャンネルには影響を与えません。

### 購読者チャンネル

購読者チャンネルは、アイデンティティディレクトリから Lotus Notes への通信用チャンネルです。次の図は、このデータフローを示したものです。

図 1-1 購読者チャンネルのデータフロー

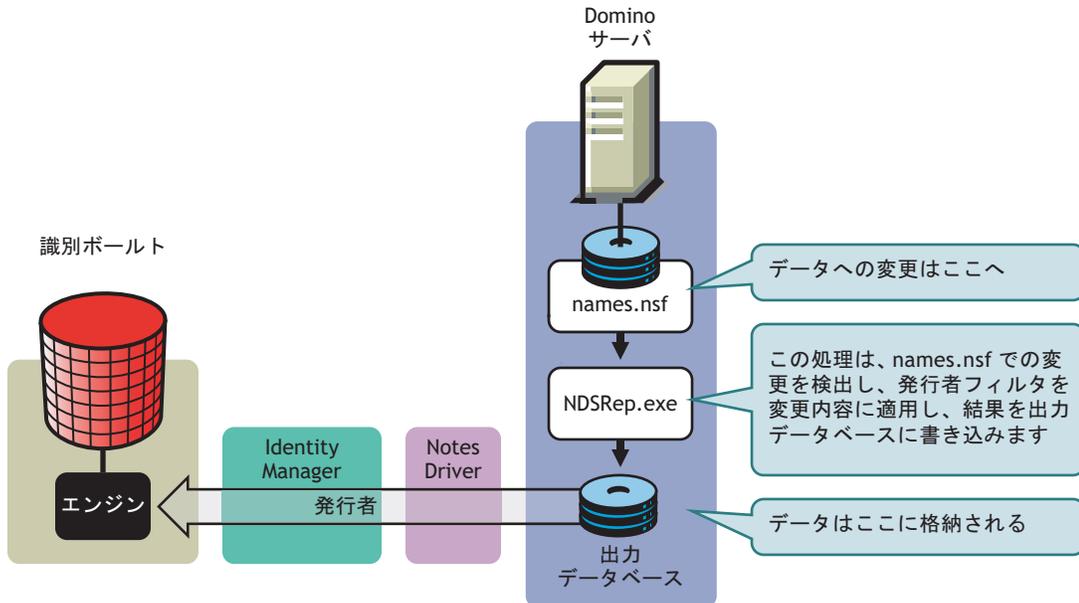


names.nsf 以外の Notes データベースを操作するようにドライバを設定することもできます。

### 発行者チャンネル

発行者チャンネルは、Lotus Notes からアイデンティティディレクトリへの通信用チャンネルです。次の図は、データが発行される時のデータフローを示したものです。

図 1-2 発行者チャンネルのデータフロー



## 1.3.2 ポリシー

ポリシーは、アイデンティティボールドとアプリケーション、データベース、またはディレクトリとの間におけるデータの同期化を制御する目的で使用されます。ポリシーは、チャンネル入力でのイベントを、チャンネル出力でのコマンドセットに変換します。Lotus Notes ドライバには、次の事前設定されたポリシーが含まれています。

- ◆ スキーママッピング：Notes アドレス帳用に定義されたマッピングです。
- ◆ 作成：デフォルトの作成ポリシーロジックは、発行者チャンネルと購読者チャンネルで同じです。ユーザオブジェクトを作成するには、名字と名前が必要です。グループオブジェクトを作成するには、説明属性、メンバーシップ属性、および所有者属性が必要です。
- ◆ 一致：デフォルトの一致ポリシーロジックは、発行者チャンネルと購読者チャンネルで同じです。eDirectory のユーザオブジェクトは、両方のディレクトリ内で名字と名前が一致する場合、Notes では同じオブジェクトであると見なされます。eDirectory のグループオブジェクトは、両方のディレクトリで CN が一致する場合、Notes では同じオブジェクトであると見なされます。
- ◆ 配置：購読者チャンネルのデフォルトの配置ポリシーでは、すべてのユーザオブジェクトをアイデンティティボールド上の指定のコンテナから Notes 上の指定の部門に配置し、すべてのグループオブジェクトをアイデンティティボールド上の指定のコンテナから Notes 上の指定の部門に配置します。通常は、発行者チャンネルでも同じ関係が保たれます。このデフォルトの配置ポリシーで使用されるコンテナ名と部門 (OU) 名は、デフォルトのドライバ環境設定をインポートするときに、該当するユーザ情報から収集されます。

## 1.4 ドライバのコンポーネントと環境設定

ドライバには、次のコンポーネントが含まれています。

- ◆ デフォルトのドライバ環境設定ファイル：ドライバ環境設定ファイルは、デフォルトのルール、スタイルシート、およびドライバパラメータをセットアップするためにインポートするファイルです。Notes ドライバのドライバ環境設定ファイルは Notes.xml です。加えて、英語以外の言語に対応した .xlf ファイルが付属しています。
- ◆ ドライバファイル：CommonDriverShim.jar と NotesDriverShim.jar は、Lotus Notes とアイデンティティボールド間の直接の同期化を管理する Java ファイルです。
- ◆ **ndsrep**：ndsrep は、データの同期化を行う Lotus Domino サーバのアドインプロセスです。ndsrep は、Notes データベース上で最後に成功した同期化の時刻を追跡し、そのタイムスタンプに基づいて Lotus Domino Server 上の変更をチェックします。その後、Notes データベースから変更を読み取り、変更が表しているイベントタイプを判別し、アイデンティティボールド内のドライバ環境設定の発行者フィルタで指定されているオブジェクトと属性に基づいて、その更新内容をフィルタリングします。
- ◆ **dsrepcfg.ntf**：Notes ドライバシムの初期起動時に必要な Notes データベースのテンプレート。Notes ドライバシムは、この Notes データベーステンプレートを使用して、発行者フィルタやその他ドライバ発行設定を決定するために ndsrep によって使用される dsrepcfg.nsf という環境設定データベースを作成します。



# ドライバのインストールと環境設定

# 2

ここでは、ドライバのインストールと環境設定の概要について説明します。インストール前に行うタスク、Lotus Domino サーバ側でのみ行うタスク、Novell® eDirectory™ と Identity Manager 側でのみ行うタスク、さらにインストール後に行うタスクがあります。このタスクの実行順序は重要です。次の順序で、タスクを実行してください。

- ◆ 11 ページのセクション 2.1 「ドライバをインストールする場所」
- ◆ 12 ページのセクション 2.2 「ドライバ要件」
- ◆ 13 ページのセクション 2.3 「同期化に備えた Lotus Notes の準備」
- ◆ 14 ページのセクション 2.4 「ドライバのセットアップ」

## 2.1 ドライバをインストールする場所

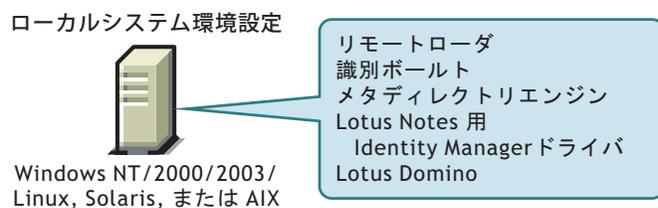
ドライバをローカルにインストールするか、リモートにインストールするか決定する必要があります。ドライバのインストール場所を決定したら、12 ページのセクション 2.2 「ドライバ要件」に進んでください。

### 2.1.1 ローカルインストール

ローカルインストールの場合、ドライバを、Lotus Domino サーバ、アイデンティティボールド、および Identity Manager と同じコンピュータ上にインストールします。

Lotus Notes 用 Identity Manager ドライバは、アイデンティティボールドと Identity Manager と同じコンピュータにインストールしている場合であっても、常にリモートローダを使用してロードすることをお勧めします。

図 2-1 ローカルシステム構成でのリモートローダの使用



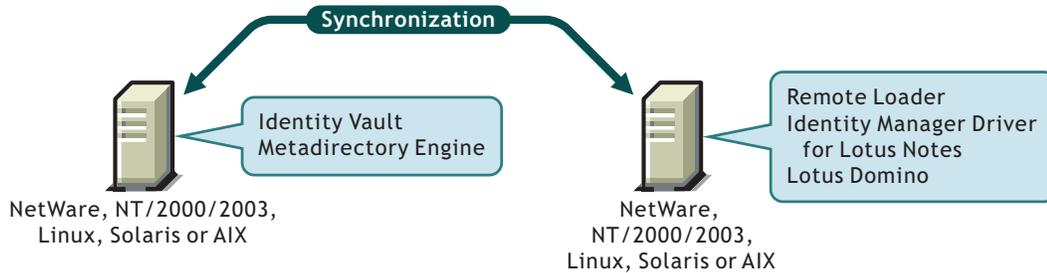
### 2.1.2 リモートインストール

リモートインストールでは、通常、Identity Manager とアイデンティティボールドがインストールされているコンピュータとは別のコンピュータにドライバをインストールしま

す。Domino とアイデンティティボールドが同じサーバ上にはない場合には、リモートインストールを行う必要があります。

図 2-2 Domino とアイデンティティボールドが別々のサーバ上にある場合

#### Remote System Configuration



Notes ドライバを AIX、Solaris、または Linux 上にインストールする場合には、Notes ドライバはリモートローダと同じ場所にインストールする必要があります。Domino サーバの稼働に悪影響を与える可能性のある、ドライバポリシーが原因のエラーの影響を最小限に抑えるため、Notes ドライバは、常にリモートローダから使用することをお勧めします。

## 2.2 ドライバ要件

Domino サーバから Lotus Notes ドライバを実行する場合、同じコンピュータ上で次のソフトウェアが実行されている必要があります。

- ◆ 次のオペレーティングシステムのいずれかと Lotus Notes R5.0.8 以降：
  - ◆ Windows\* NT\*
  - ◆ Windows 2000 Server
  - ◆ Windows 2000 Professional

オペレーティングシステムのバージョンは、Lotus Domino で必要とされるバージョンを使用してください。

- ◆ 次のオペレーティングシステムのいずれかと Lotus Notes R6 以降：
  - ◆ Windows NT
  - ◆ Windows 2000 Server
  - ◆ Windows 2000 Professional
  - ◆ Windows 2003
  - ◆ Solaris\*

Solaris 上でドライバを使用する場合は、Solaris 上の /etc/system ファイルに次の行を追加する必要があります。

```
set msgsys:msginfo_msgtql=1024
```

---

注：このヒントも含め、その他のヒントについても、Sun\* 発行のドキュメント「[“Domino on Solaris: Common Tuning Tips”](http://www.sun.com/third-party/global/lotus/technical) (<http://www.sun.com/third-party/global/lotus/technical>)」に記載されています。

---

- ◆ Linux\*

- ◆ AIX\*

Notes システムが AIX サーバ上にタスクをロードできない場合には、必要に応じて、AIX 5.2 対応の PTF 486444 を適用してください。

オペレーティングシステムのバージョンは、Lotus Domino で必要とされるバージョンを使用してください。

Lotus Notes クライアントだけがインストールされているコンピュータから Lotus Notes ドライバを実行する場合には、次のソフトウェアが必要です。

- ◆ Lotus Notes R5.0.8 以降
- ◆ Windows NT
- ◆ Windows 2000 Server
- ◆ Windows 2000 Professional

## 2.3 同期化に備えた Lotus Notes の準備

ここでは、Lotus Notes システムと Identity Manager が正常に連携するためのセットアップ作業について説明します。

- ◆ [13 ページのセクション 2.3.1 「環境設定情報の収集」](#)
- ◆ [13 ページのセクション 2.3.2 「Lotus Notes アカウントとグループの作成」](#)
- ◆ [14 ページのセクション 2.3.3 「Lotus Notes インフラストラクチャでの証明者および ID ファイルへのアクセス権の付与」](#)

### 2.3.1 環境設定情報の収集

Lotus Notes 用のドライバ環境設定をインポートする際、システム固有の多量の情報を指定する必要があります。これらの情報のうち、次の手順を実行する前に収集できる情報があれば、実行中に定義する情報もあります。

これらの情報については、[22 ページのセクション 2.4.2 「ドライバオブジェクトの作成とドライバ環境設定のインポート」](#)内の表を参照してください。

### 2.3.2 Lotus Notes アカウントとグループの作成

- 1 ドライバ専用の Notes ユーザ ID を作成して、ターゲットの Notes データベース (通常は names.nsf)、ndsrep によって作成される出力データベース (ndsrep.nsf)、および certlog.nsf に対してマネージャレベルの ACL アクセス権を付与します。names.nsf データベースと同期化する場合には、すべての ACL 役割 (GroupCreator、GroupModifier、NetCreator、NetModifier、PolicyCreator、PolicyModifier、PolicyReader、ServerCreator、ServerModifier、UserCreator、UserModifier) を選択しておく (有効にしておく) 必要があります。
- 2 アクセス拒否グループが作成されていない場合には、Lotus Domino Administrator ツールを使用してこのグループを作成します。このグループは、無効なユーザアカウントの格納に使用されます。
- 3 作成したアクセス拒否グループのユニバーサル ID (UNID) をコピーして、保存します。

この文字列は、ドライバがこのオブジェクトを識別するために使用します。ドライバ環境設定をインポートするときに、この ID を指定する必要があります。

この文字列は次の方法で取得します。

**3a** そのグループの [Document Properties (ドキュメントプロパティ)] を表示します (このオブジェクトを選択し、右クリックして、[Document Properties (ドキュメントプロパティ)] を選択します)。

**3b** [Meta (メタ)] タブ (右から 5 番目のタブ) をクリックします。

**3c** [Identifier (識別子)] フィールド内のテキストの最後に移動し、最後のスラッシュの直後から末尾までの文字列をコピーします。この文字列は常に英数字 32 文字です。

たとえば、[Identifier (識別子)] フィールド内のテキストが次のテキストである場合、Notes://myserver/87256E530082B5F4/85255E01001356A8852554C200753106/16A28402CCEB7A9C87256E9F007EDA9B UNID は次の文字列になります。  
16A28402CCEB7A9C87256E9F007EDA9B

**3d** [22 ページのセクション 2.4.2 「ドライバオブジェクトの作成とドライバ環境設定のインポート」](#) で説明されているように、ドライバ作成ウィザードを実行するときに使用できるように、この情報をファイルに保存しておきます。

### 2.3.3 Lotus Notes インフラストラクチャでの証明者および ID ファイルへのアクセス権の付与

Notes ドライバユーザには、次のファイルへのアクセス権が必要です。

- Notes 上でのドライバユーザ自身のユーザ Certifier ID ファイル
- ドライバがユーザを作成するために必要な証明者の Certifier ID ファイル
- サーバ ID ファイル (オプション。システム構成によって異なる)
- ドライバが新しいユーザ Certifier ID ファイルを作成する場所に対するファイルアクセス権 (オプション。ドライバにこの機能を持たせる場合には必要)

## 2.4 ドライバのセットアップ

ここでは、ドライバをインストールし、設定し、実行できるようにします。ドライバを更新する場合は、[29 ページの第 3 章 「アップグレード」](#) を参照してください。

- [15 ページのセクション 2.4.1 「ドライバシムのインストール」](#)

この章の中の他の手順を参照しています。ここでは、それぞれの手順を実行するタイミングが示されています。

- [22 ページのセクション 2.4.2 「ドライバオブジェクトの作成とドライバ環境設定のインポート」](#)
- [26 ページのセクション 2.4.3 「ndsrep を使用したデータベースレプリケーションの設定」](#)
- [28 ページのセクション 2.4.4 「データの移行と再同期化」](#)
- [28 ページのセクション 2.4.5 「ドライバのアクティベーション」](#)

通常、インストールした後に、証明書を処理するためのカスタマイズが必要です。詳細については、[35 ページの第 4 章 「ドライバのカスタマイズ」](#) を参照してください。

## 2.4.1 ドライバシムのインストール

- ◆ 15 ページの「Windows でのインストール」
- ◆ 17 ページの「AIX、Linux、または Solaris でのインストール」
- ◆ 20 ページの「インストールのトラブルシューティング」

### Windows でのインストール

- 1 リモートローダをインストールします。
- 2 ドライバシムのインストールにおいて、Identity Manager と同じマシン上でドライバを実行する場合でも、ドライバはリモートローダから実行することをお勧めします。  
インストール中に、[接続システムサーバ] を選択します。詳細については、『*Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド*』の「リモートローダの設定」を参照してください。  
ドライバシムに必要なファイルは、\Novell\RemoteLoader ディレクトリと \Novell\RemoteLoader\lib ディレクトリにインストールされます。  
ドライバシムは、メタディレクトリエンジンのインストールと同時にインストールすることも、後からインストールすることもできます。
  - 2a ドライバをメタディレクトリエンジンと同じマシン上でローカル実行する場合には、Identity Manager インストールプログラムを実行して、Lotus Notes 用 Identity Manager ドライバを選択します。  
詳細については、『*Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド*』の「Identity Manager ドライバの管理」を参照してください。
  - 2b ドライバをリモートで実行する場合には、ドライバシムとリモートローダを、ドライバを実行するシステム上にインストールします。詳細については、『*Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド*』の「接続システムの設定」を参照してください。
- 3 ドライバをセットアップするために、次のファイルを手動でコピーします。

ファイル名	コピー元	コピー先
ndsrep.exe	インストールされている場所： \novell\NDS または \Novell\RemoteLoader	Domino サーバの実行可能フォルダ (\Lotus\Domino)
dsrepcfg.ntf	インストールされている場所： \novell\NDS または \Novell\RemoteLoader	Domino サーバのデータフォルダ (Lotus\Domino\Data)
Notes.jar	\Lotus\Domino	リモートで実行する場合 \Novell\RemoteLoader\lib ローカルで実行する場合 \Novell\NDS\lib

- 4 Domino 共有ライブラリディレクトリ (たとえば c:\lotus\domino) を Windows システムパス上に置き、コンピュータを再起動して、ここで行った設定を有効にします。  
このディレクトリが Windows システムパス上にない場合、JVM\* は、nlsxbe.dll など、Notes.jar が必要とする Domino 共有ライブラリを検出できなくなる場合があります。

- 5 Domino サーバがデータベースの署名を必要とする場合には、Notes クライアントまたは Domino Administrator を使用して、dsrepcfg.ntf に Domino サーバのサーバ ID で署名します。
- 6 インストール後、22 ページのセクション 2.4.2 「ドライバオブジェクトの作成とドライバ環境設定のインポート」で説明されているように、ドライバオブジェクトを作成します。
- 7 リモートローダの初回起動用に、ドライバとリモートローダのパスワードを設定します。

22 ページのセクション 2.4.2 「ドライバオブジェクトの作成とドライバ環境設定のインポート」で説明されているように、このパスワードは、ドライバ環境設定をインポートするときに指定した **ドライバパスワード** と **リモートパスワード** と同じである必要があります。

- 8 iManager を使用してドライバを起動します。
  - 8a iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。
  - 8b ツリー全体を検索し、該当するドライバセットからドライバを探るか、コンテナを指定し、[検索] をクリックします。
  - 8c ドライバアイコンの右上隅にあるドライバステータスインジケータをクリックして、[ドライバの起動] をクリックします。
  - 8d パスワードを要求するプロンプトが表示されたら、ドライバに対して使用している Notes ユーザのパスワードを入力します。このプロンプトは、ドライバを最初に起動するときのみ表示されます。また、表示されるかどうかはドライバの環境設定によります。

ドライバは、初回起動時、次を実行します。

- ◆ Domino サーバ (インポート時にドライバパラメータで指定) を検索します。
- ◆ dsrepcfg.nsf を開きます。このファイルがない場合、ドライバは、ドライバ付属の dsrepcfg.ntf データベーステンプレートを使用して、dsrepcfg.nsf が自動的に作成されます。
- ◆ dsrepcfg.nsf に、該当する更新データベースファイル (通常は ndsrep.nsf) を指定する発行者パラメータとデータを書き込んで、ndsrep が読み取れるようにします。

---

**重要:** ドライバが実行されるマシン上に複数の notes.ini ファイルがあった場合、NotesDriverShim が正しい .ini を使用するよう、オペレーティングシステムの検索パス上にそのディレクトリを配置します。ドライバシムが間違った notes.ini ファイルで初期化された場合、ドライバシムは dsrepcfg.ntf を開くことができません。

dsrepcfg.ntf が見つからなかった場合、または最初の dsrepcfg.nsf 作成プロセスに失敗した場合、発行者チャンネルはシャットダウンし、**ステップ 9** を完了できません。

正しい notes.ini ファイルが検出されるように Windows システムパスを変更することにより、ドライバシムが正しく初期化されるようにします。

---

- 9 Domino コンソールから、ndsrep タスクを開始します。

```
load ndsrep instance
```

*instance* はドライバ名、または、このドライバに対して設定されている固有のインスタンス名である必要があります。ドライバ名にスペースが含まれている場合、ドライバ名を引用符で囲む必要があります。**ndsrep** がロードされた後、この **ndsrep** のインスタンスに対して TELL コマンドを発行するときは、常にそのインスタンス名を使用します。

ここで、Notes タスクビューアに、DirXML またはこれと似た名前のタスクが表示されます。

- 10 最初の環境設定および起動を検証した後、**ndsrep** が自動的にロードされるように、Domino サーバの **notes.ini** ファイルを更新します。

例：

```
ServerTasks=Update,Replica,Router,AMgr,AdminP,ndsrep notesdrv1,  
CalConn,Sched,HTTP,IMAP,POP3
```

ドライバ名にスペースが含まれている場合、ドライバ名を引用符で囲む必要があります。

初回起動に成功したら、Notes ドライバと **ndsrep** は、実際の作業構成に応じて、任意の順序で起動できます。

**ndsrep** の詳細については、26 ページのセクション 2.4.3 「**ndsrep** を使用したデータベースレプリケーションの設定」を参照してください。

- 11 ドライバのアクティベーションを行います。詳細については、28 ページのセクション 2.4.5 「**ドライバのアクティベーション**」を参照してください。

ドライバをまだ購入していない場合には、ドライバによって同期化するデータをテスト環境以外で使用しないようにしてください。

- 12 すべてのオブジェクトを一度に同期化する場合は、28 ページのセクション 2.4.4 「**データの移行と再同期化**」で説明されている手順に従う必要があります。

このことを行わない場合、同期化は、個々のオブジェクトに変更が発生したときに、オブジェクトごとに行われます。

- 13 通常、インストールした後に、証明書を処理するためのカスタマイズが必要です。詳細については、35 ページの第 4 章 「**ドライバのカスタマイズ**」を参照してください。

## AIX、Linux、または Solaris でのインストール

- 1 Identity Manager をインストールした後、ドライバを実行するシステム上にドライバシムとリモートローダをインストールします。

AIX、Linux、および Solaris へのインストールでは、Identity Manager と同じマシン上でドライバを実行する場合でも、ドライバはリモートローダを使用して実行する必要があります。

インストール中に、[接続システムサーバ] を選択します。詳細については、『*Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド*』の「**リモートローダの設定**」を参照してください。

ドライバシムに必要なファイルは `/usr/lib/dirxml` にインストールされます。

- 2 `/usr/lib/dirxml/classes/Notes.jar` が、現在の環境において正しいディレクトリにリンクされていることを確認します。

たとえば、次のように入力します。

```
ls -l /usr/lib/dirxml/classes/Notes.jar
```

たとえば、次のようにリンクされていることが必要です。

```
/usr/lib/dirxml/classes/Notes.jar から /opt/lotus/notes/latest/linux/Notes.jar へリンク
```

- 3 13 ページの「**Lotus Notes アカウントとグループの作成**」の手順により、リモートローダとドライバを実行するユーザを作成していることを確認します。  
root を使用して Notes ドライバ用にリモートローダを実行することはできません。
- 4 22 ページの「**ドライバオブジェクトの作成とドライバ環境設定のインポート**」を参照して、ドライバオブジェクトを作成します。ドライバはまだ起動しないでください。
- 5 Notes クライアントまたは Domino Administrator を使用して、dsrepcfg.ntf を Domino サーバのサーバ ID で署名します。
- 6 次のファイルを、インストールされている場所 (デフォルトでは /usr/lib/dirxml/rules/notes) から、Domino サーバ上のドライバを起動する場所 (/local/notesdata、/home/notes、または /user/bin など) にコピーします。この場所を実行検索パスに含めることをお勧めします。

ファイル名	説明
rdxml.startnotes	<p>このスクリプトは、Notes ドライバ用の Domino オペレーティングシステム環境変数を設定する findDomino スクリプトを呼び出します。次に、rdxml.startnotes スクリプトは、rdxml.confignotes ファイルで指定されている Notes ドライバパラメータでリモートローダを起動します。</p> <p>これらのスクリプトが現在の検索パス上にない場合は、次のいずれかを行う必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ findDomino スクリプトへのパスを含むように、rdxml.startnotes を変更します。</li><li>◆ /usr/bin に、findDomino のシンボリックリンクを作成します。</li></ul>
rdxml.stopnotes	<p>このスクリプトは、Notes ドライバを実行するリモートローダを停止します。</p>
findDomino	<p>このスクリプトは、rdxml.startnotes スクリプトから呼び出されます。rdxml.startnotes を起動すると、このスクリプトによって、Domino の UNIX* タイプのインストール場所を示す、オペレーティングシステム環境変数が設定されます。</p>
rdxml.confignotes (または、環境設定情報が保存されているファイル)	<p>この環境設定は、rdxml.startnotes スクリプトと rdxml.stopnotes スクリプトによって参照されます。</p> <p>実際の環境に合うように、rdxml.startnotes スクリプトの変更が必要になる場合もあります。たとえば、環境設定ファイルの名前を rdxml.confignotes 以外の名前に変更する場合は、スクリプトの最後の行を変更する必要があります。</p> <p>このファイル内で参照される環境設定ポートを変更することが必要な場合もあります。</p>

これらの3つのサンプルスクリプトとサンプル環境設定ファイルは、ドライバの起動方法を示す目的で提供されています。rdxml.startnotes を使用してドライバ用リモート

ローダを開始し、`rdxml.stopnotes` を使用してドライバ用リモートローダを停止できません。

サンプルスクリプトは、さまざまな状況に対応しています。実際の環境で動作しない場合には、適宜編集してください。サンプルスクリプトでは、トラブルシューティングに利用できるように、ドライバのリモートローダのトレースログが生成されるようになっています。

**7** **ステップ 6** の表に示されているように、実際の環境に合うように、スクリプトと環境設定ファイルを適宜変更します。

**8** **ステップ 6** で示されている 3 つのスクリプトが、実行可能なファイルアクセス権 (たとえば `rwxr-xr-x`) を持っていることを確認します。

**9** リモートローダの初回起動用に、ドライバとリモートローダのパスワードを設定します。

例:

```
cd driver_script_directory ./rdxml.startnotes -sp driver_password
remote_loader_password
```

**22 ページのセクション 2.4.2 「ドライバオブジェクトの作成とドライバ環境設定のインポート」** で説明されているように、このパスワードは、ドライバ環境設定をインポートするときに指定した **ドライバパスワード** と **リモートパスワード** と同じである必要があります。

**10** `rdxml.startnotes` を使用して、ドライバ用にリモートローダを開始します。

例:

```
cd driver_script_directory ./rdxml.startnotes
```

`driver_script_directory` は、**ステップ 6** でファイルをコピーしたディレクトリです。

**11** iManager を使用してドライバを起動します。

**11a** iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。

**11b** ドライバセット内でドライバを検索します。

**11c** ドライバアイコンの右上隅にあるドライバステータスインジケータをクリックして、[ドライバの起動] をクリックします。

ドライバを最初に起動するときには、次が実行されます。

- Domino サーバ (インポート時にドライバパラメータで指定) を検索します。
- `dsrepcfg.nsf` を開きます。このファイルがない場合、ドライバは、ドライバ付属の `dsrepcfg.ntf` データベーステンプレートを使用して、`dsrepcfg.nsf` を自動的に作成します。
- `dsrepcfg.nsf` に、該当する更新データベースファイル (通常は `ndsrep.nsf`) を指定する発行者パラメータとデータを書き込んで、`ndsrep` が読み取れるようにします。

---

注: `dsrepcfg.ntf` が見つからなかった場合、または最初の `dsrepcfg.nsf` 作成プロセスに失敗した場合、発行者チャンネルはシャットダウンし、**ステップ 12** を完了できません。

---

**12** Domino コンソールから、`ndsrep` タスクを開始します。

load ndsrep instance

*instance* はドライバ名、またはこのドライバに対して設定されている固有のインスタンス名である必要があります。ドライバ名にスペースが含まれている場合、ドライバ名を引用符で囲む必要があります。ndsrep がロードされた後、この ndsrep のインスタンスに対して TELL コマンドを発行するときは、常にこのインスタンス名を使用します。

ここで、Notes タスクビューアに、DirXML またはこれと似た名前のタスクが表示されます。

- 13** 最初の環境設定および起動を検証した後、ndsrep が自動的にロードされるように、Domino の notes.ini ファイルを更新します。

例：

```
ServerTasks=Update, Replica, Router, AMgr, AdminP, ndsrep notesdrv1, CalConn, Sched, HTTP, IMAP, POP3
```

ドライバ名にスペースが含まれている場合、ドライバ名を引用符で囲む必要があります。

初回起動に成功したら、Notes ドライバと ndsrep は、実際の作業構成に応じて、任意の順序で起動できます。

- 14** ドライバのアクティベーションを行います。詳細については、[28 ページのセクション 2.4.5 「ドライバのアクティベーション」](#)を参照してください。

ドライバをまだ購入していない場合には、ドライバによって同期化するデータをテスト環境以外で使用しないようにしてください。

- 15** すべてのオブジェクトを一度に同期化する場合は、[28 ページのセクション 2.4.4 「データの移行と再同期化」](#)で説明されている手順に従う必要があります。

オブジェクトを一度に同期化しない場合、次に各オブジェクトに変更が発生したときに、オブジェクトごとに同期化が行われます。

- 16** 通常、インストールした後に、証明書を処理するためのカスタマイズが必要です。詳細については、[35 ページの第 4 章 「ドライバのカスタマイズ」](#)を参照してください。

トラブルシューティングのヒントについては、[20 ページの 「インストールのトラブルシューティング」](#)を参照してください。

## インストールのトラブルシューティング

Windows の場合：

- ドライバは、初めて実行したとき、Domino サーバ (インポート時にドライバパラメータで指定) を検索し、ndsrep が読み込む発行者パラメータを書き込むために、dsrepcfg.nsf を開こうとします。dsrepcfg.nsf がいない場合、NotesDriverShim は、ドライバ付属のデータベーステンプレート dsrepcfg.ntf を使用して dsrepcfg.nsf を作成します。

dsrepcfg.nsf が作成され、適切な更新データベースファイル (通常、ndsrep.nsf) を指定するデータが含まれている場合、Domino コンソールから ndsrep をロードできます。

dsrepcfg.ntfが見つからなかった場合、または最初の dsrepcfg.nsf 作成プロセスに失敗した場合、発行者チャンネルはシャットダウンし、Domino コンソールから ndsrep タスクをロードできません。

Notes クライアントを使用すると、dsrepcfg.ntf テンプレートを使用して dsrepcfg.nsf データベースを作成できます。その後、Notes ドライバユーザがこのデータベースに対してマネージャレバルのアクセス権を持つように ACL を変更します。

AIX、Linux、および Solaris の場合：

- ◆ ドライバをインストールした後で Domino をアップグレードした場合、次のいずれかを行う必要があります。
  - ◆ 次のシンボリックリンクを確認し、必要に応じて手動で作成し直します。

表 2-1 確認するリンク

リンク先ファイル	作成するシンボリックリンク
Notes.jar	/usr/lib/dirxml/classes/Notes.jar 例： ln -s /opt/lotus/notes/latest/your_platform/Notes.jar/user/lib/dirxml/classes/Notes.jar
ndsrep	/opt/lotus/notes/latest/your_platform/ndsrep 例： ln -s /usr/lib/dirxml/rules/notes/ndsrep /opt/lotus/notes/latest/your_platform/ndsrep
dsrepcfg.ntf	/opt/lotus/notes/latest/your_platform/dsrepcfg.ntf 例： ln -s /usr/lib/dirxml/rules/notes/dsrepcfg.ntf /opt/lotus/notes/latest/your_platform/dsrepcfg.ntf

変数 *your\_platform* は、オペレーティングシステムを表します。フォルダ名は次の表のとおりです。

表 2-2 オペレーティングシステム別フォルダ名

オペレーティングシステム	フォルダ名
AIX	ibmpow
Linux	linux
Solaris	sunspa

- ◆ 特定のファイルをバックアップしてから、ドライバを再インストールします。ドライバシムを再インストールすると、シンボリックリンクが再生成されますが、その際、特定のファイルに対して上書きが行われます。これらのファイルに対して変更を加えていた場合には、バックアップを作成しておく必要があります。

次のファイルをバックアップしておきます。

rdxml.startnotes rdxml.stopnotes findDomino rdxml.confignotes (または、環境設定情報が保存されているファイル)

ドライバシムを再インストールしたら、バックアップを元の場所にコピーします。

- ◆ ドライバ付属のサンプルスクリプト (rdxml.startnotes、rdxml.stopnotes、findDomino) では、トラブルシューティングで使えるように、ドライバ用のリモートローダのトレースログが生成されます。

## 2.4.2 ドライバオブジェクトの作成とドライバ環境設定のインポート

ドライバ環境設定ファイルをインポートして、ポリシー、スタイルシート、フィルタなど、基本ドライバ環境設定に必要なすべての eDirectory オブジェクトを作成します。その後、業務上のニーズに合わせて、環境設定を適宜変更できます。

詳細については、『*Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド*』の「[ドライバオブジェクトの作成](#)」を参照してください。

次の情報を指定して、ウィザードを終了したら、[15 ページのセクション 2.4.1 「ドライバシムのインストール」](#)で説明されているように、ドライバを起動します。

サンプルドライバ環境設定では、新しい機能として、環境設定のインポート時の複雑さを軽減するための柔軟なプロンプト表示が採用されています。リモートローダから使用できるようにドライバをインストールする場合には、ウィザードに、これらの機能に対する情報を指定するための追加ページが表示されます。

表 2-3 役割ベースのエンタイトルメントのセットアップ

インポートプロンプト	説明
Notes ユーザ ID	このドライバが Notes 認証で使用する Notes ユーザ ID を、完全に修飾された標準形式 (cn=Notes Driver/o=Organization など) で入力します。  このユーザ ID は、入力データベースと出力データベースの両方に対して、管理権を持っている必要があります。この ID は、このドライバ専用の ID で、このドライバでのみ使用される ID として作成することをお勧めします。これにより、このユーザが使用されているときの Notes への変更に対してドライバが応答しないようにすることができます。
Notes ユーザ ID ファイル	このドライバが Notes の認証で使用する Notes ユーザに関連付けられる Notes ユーザ ID ファイルの (Domino サーバ上の) フルパスを入力します。
Notes ユーザパスワード	このドライバが (上のユーザ ID ファイルについて) Notes に対して認証を行うときに使用する Notes ユーザ ID のパスワードを入力します。
Domino サーバ	このドライバが認証を行う Domino サーバの名前を、完全に修飾された標準形式 (cn=NotesServer/o=Organization など) で入力します。

インポートプロンプト	説明
Notes サーバ ID ファイル	このドライバが認証を行う Notes サーバに関連付けられている Notes サーバ ID ファイルのフルパスを入力します。
デフォルトの Notes Certifier ID ファイル	このドライバがデフォルトの証明者で使用する、デフォルトの Notes Certifier ID の (Domino サーバ上の) フルパスを入力します。これは通常はルート証明者ですが、適切なアクセス権を持つ任意の証明者にすることもできます。
完全に修飾された Notes のデフォルトの証明者名	Notes のアドレス帳で検索される、デフォルトの完全に修飾された (型付き) Notes 証明者の名前を入力します (/o=acme)。
デフォルトの Notes Certifier 名	Notes のアドレス帳で検索される、デフォルトの Notes Certifier 名 (型なし) を入力します (/acme)。
デフォルトの Notes Certifier のパスワード	新規ユーザを証明するときにこのドライバが使用する、デフォルトの Notes Certifier ID のパスワードを入力します。  このパスワードは、名前付きパスワード機能を使用してセキュリティ保護されています。38 ページのセクション 4.3 「名前付きパスワードの使用」を参照してください。
Notes 組織名	Notes 組織の名前を入力します (これは通常、ツリーのルートのお= です)。
Notes ドメイン	Notes ドメインの名前を入力します。
ターゲットの Notes データベース	ターゲット Notes データベースの相対パスとファイル名 (Domino サーバ上) を入力します。パスは、Domino サーバのデータディレクトリとの相対パスである必要があります。
このデータベースは Notes アドレス帳で すか？	このドライバには、異なる Notes データベースと接続する機能があります。
Notes 変更ログデータベース	Notes 変更ログデータベースの相対パスとファイル名 (Domino サーバ上) を入力します。このファイルは ndsrep によって作成されます。パスは、Domino サーバのデータディレクトリとの相対パスである必要があります。
新しい Notes ユーザを認証しますか？	ドライバが、購読者チャネルの Notes に追加されるユーザを証明する必要があるかどうかを指示します。
Notes ID 保存パス	ドライバが新しいユーザ ID ファイルを作成する場所のパス (Domino サーバ上) を入力します。
Notes 証明書ログデータベース	Notes 証明書ログデータベースの相対パスとファイル名 (Domino サーバ上) を入力します。パスは、Domino サーバのデータディレクトリとの相対パスである必要があります。
ユーザ証明書でアドレス帳を更新します か？	購読者チャネル上の Notes で新規ユーザを認証するときに、Notes でアドレス帳のサーバエントリを更新するかどうかを指示します。
ユーザ ID ファイルを Notes のアドレス 帳に保存しますか？	購読者チャネルの Notes に追加されたユーザを証明するときに、Notes が新しいユーザ ID をアドレス帳に保存するかどうかを指示します。

インポートプロンプト	説明
Domino サーバは北米のサーバですか？	新規ユーザを証明するときに、このドライバがバインドする Domino サーバが北米の Domino サーバかどうかを指示します。これは暗号化レベルに影響します。128 ビット暗号化の場合は [はい] を選択します。
ID ファイルの有効期限	購読者チャンネルに追加されるユーザの証明時に、ドライバによって作成される ID ファイルの有効期間 (年単位) を入力します。
Notes のパスワードの長さ：	Notes の新規ユーザ ID のパスワードの最短の長さを入力します (0 ~ 16)。
デフォルトの Notes ユーザ ID のパスワード：	Notes の新規ユーザ ID のデフォルトのパスワードを入力します。
デフォルトの Notes HTTP パスワード	Notes の新規ユーザのデフォルトの HTTP パスワードを入力します。
メールファイルを作成しますか？	購読者チャンネル上で Notes に認証されたユーザのメールファイルをドライバに作成させるかどうかを指示します。
メールデータベース保存パス：	ドライバが新しいメールデータベースを作成する場所の相対パスを入力します。パスは、Domino データディレクトリとの相対パスである必要があります。
Notes メールデータベーステンプレート	新しいメールデータベースの作成時にこのドライバが使用する Notes メールデータベーステンプレートの (Domino サーバ上の) 相対パスおよびファイル名を入力します。パスは、Domino サーバのデータディレクトリとの相対パスである必要があります。
Notes メールサーバ	このドライバが新しいメールデータベースを作成する Notes メールサーバの名前を、完全に修飾された標準形式 (cn=NotesServer/o=Organization など) で入力します。
インターネットメールドメイン	インターネットの電子メールアドレスを生成するときに使用されるインターネットメールドメインを入力します。
アクセス拒否グループのユニバーサル Notes ID	アクセス拒否グループの Notes ユニバーサル ID を入力します。これは、Notes クライアントのグループのプロパティシートに示されている 32 文字の ID です。
発行者チャンネルのポーリングレート	発行者チャンネルが変更ログの更新をチェックする頻度をポーリング間隔 (秒単位) で入力します。
ユーザの発行者配置先パス	eDirectory ユーザが作成される eDirectory パスを入力します。
グループの発行者配置先パス	eDirectory グループが作成される eDirectory パスを入力します。
ユーザの購読者配置元パス	ユーザ変更を検出する eDirectory パス (サブツリーのルート) を入力します。
グループの購読者配置元パス：	グループ変更を検出する eDirectory パス (サブツリーのルート) を入力します。
イベントのループバックを検出しますか？	イベントのループバックを許可しない場合は [はい]、イベントのループバックを許可する場合は [いいえ] を選択します。

インポートプロンプト	説明
NDSREP のスケジュール単位	<b>ndsrep</b> ポーリング間隔のスケジュール単位を入力します。
NDSREP のスケジュール値	<b>ndsrep</b> ポーリング間隔のスケジュール値を入力します。
DN 形式	発行者チャンネルで使用される識別名の形式を入力します。
NDSREP Domino コンソールトレース設定	<b>Domino</b> コンソールトレース設定を入力します。
属性をチェックする	オブジェクトイベントごとにすべての属性をチェックするかどうかを指示します。
タイムスタンプを書き込む	同期されるオブジェクトごとにドライバのタイムスタンプを書き込むかどうかを指示します。
パスワードの障害を通知するユーザ	パスワードの障害の発生時に通知するユーザの名前を入力します。
Enable Entitlement features (エンタイトルメント機能の有効化)	<p>エンタイトルメントドライバを使用して、このドライバ環境設定により提供されるエンタイトルメント機能を有効にする場合には、[はい] を選択します。</p> <p>これは設計時に決定されています。『<b>Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド</b>』に記載されているエンタイトルメントについて十分に理解した後でない限り、このオプションに対して [はい] を選択しないでください。</p>
Force Remote Loader Connection (リモートローダによる接続を強制)	[リモート] を選択して、ドライバをリモートローダサービスで使用するよう設定するか、[ローカル] を選択して、ドライバをローカルで使用するよう設定します。リモートにするかローカルにするかの判断については、 <b>11 ページのセクション 2.1 「ドライバをインストールする場所</b> 」を参照してください。
リモートホスト名とポート	<p>リモートドライバの環境設定にのみ必要です。</p> <p>このドライバ用のリモートローダサービスがインストールされ、実行するホストの名前または IP アドレスとポート番号を入力します。デフォルトのポートは <b>8090</b> です。</p>
ドライバパスワード	<p>リモートドライバの環境設定にのみ必要です。</p> <p>ドライバオブジェクトパスワードは、リモートローダがメタディレクトリサーバに対して自身の認証を求めるときに使用されます。このパスワードには、<b>Identity Manager</b> リモートローダ上のドライバオブジェクトパスワードと同じパスワードを指定する必要があります。</p>
リモートパスワード	<p>リモートドライバの環境設定にのみ必要です。</p> <p>リモートローダインスタンスへのアクセスを制御するために、リモートローダのパスワードが使用されます。このパスワードには、<b>Identity Manager</b> リモートローダ上のリモートローダパスワードと同じパスワードを指定する必要があります。</p>

## 2.4.3 ndsrep を使用したデータベースレプリケーションの設定

ndsrep を使用したレプリケーションを設定するには、次の節で説明する手順に従います。

- ◆ 26 ページの「ndsrep の設定」
- ◆ 26 ページの「ndsrep のロードと実行」
- ◆ 27 ページの「ndsrep の複数のインスタンスのセットアップ」

### ndsrep の設定

- 1 15 ページのセクション 2.4.1 「ドライバシムのインストール」 の手順を読み、ndsrep およびドライバの起動について理解します。
- 2 15 ページのセクション 2.4.1 「ドライバシムのインストール」 で説明されているように、使用プラットフォームに必要なファイルが所定の場所にコピーされていることを確認します。
- 3 (Windows のみ) c:\lotus\domino (または、該当する Domino 実行可能フォルダ) をシステムパスに追加し、コンピュータを再起動します。
- 4 ndsrep をロードする前に、Lotus Notes 用 Identity Manager ドライバを少なくとも 1 回は起動しておきます。

### ndsrep のロードと実行

ndsrep のロードと実行は、必ず Domino サーバのサーバコンソールから行います。ndsrep プログラムは、出力データベース (デフォルトでは ndsrep.nsf) を作成し、Domino サーバのアドレス帳 (または別の Notes データベース) 上の変更を検出し、この変更を出力データベースにコピーします。

- ◆ **ndsrep** のロード : Domino サーバコンソールから ndsrep をロードします。

notes.ini 内の ServerTasks = ステートメントに ndsrep を追加し、Domino サーバを再起動します。

例 :

```
ServerTasks=Update,Replica,Router,AMgr,AdminP,ndsrep notesdrv1,  
CalConn,Sched,HTTP,IMAP,POP3
```

または

Notes のサーバコンソールウィンドウで次を入力します。

```
load ndsrep instance
```

いずれの場合でも、ドライバ名にスペースが含まれている場合は、ドライバ名を引用符で囲む必要があります。

- ◆ **ndsrep** の制御 : 次の表で説明されている TELL コマンドを使用します。

次の ndsrep TELL コマンドにより、ndsrep の即時アクションを実行できます。これらのコマンドは保存されず、ndsrep がアクションを実行するだけです。

TELL コマンド	説明
RefreshConfig	環境設定ストアから <b>ndsrep</b> 環境設定情報を読み込みます。
Replicate	更新レコードを即時チェックします。
Resume	タイマイイベントとレプリケーションの処理を再開します。
ShowConfig	コンソールウィンドウに <b>ndsrep</b> 環境設定情報を表示します。
ShowFilter	発行時に <b>ndsrep</b> が使用する更新レコード用フィルタの最初の 240 文字を表示します。
Suspend	<b>Resume</b> コマンドが発行されるまで、アクティビティを停止します。

### ndsrep の複数のインスタンスのセットアップ

1 つの Domino サーバに対して複数のドライバを実行するために複数の **ndsrep** インスタンスを実行することができます。**ndsrep** のロード時、パラメータとしてドライバインスタンス名を指定する必要があります。デフォルトでは、このインスタンス名はドライバの名前になります。

ドライバ名にスペースが含まれている場合、ドライバ名を引用符で囲む必要があります。

**ndsrep** と複数のインスタンスのセットアップについては次の注意点があります。

- ◆ **ndsrep** をロードするには、インスタンス名を指定する必要があります。

```
load ndsrep instance
```

**ndsrep** がロードされ、*instance* 値により TELL コマンドから参照されます。

- ◆ デフォルトでは、**ndsrep** はインスタンスの環境設定データを共通の Notes データベース (**dsrepcfg.nsf**) に保存します。
- ◆ 複数の **ndsrep** インスタンスが自動的にロードされるように **notes.ini** を変更するには、**notes.ini** の **ServerTask** 行に **ndsrep instance** を複数回挿入します。

例：

```
ServerTasks=Update,Replica,Router,AMgr,AdminP, ndsrep
notesdrv1,ndsrep notesdrv2,CalConn,Sched,HTTP,IMAP,POP3
```

- ◆ カスタム環境設定では、別の環境設定データベースを使用するように設定することもできます。このためには、**ndsrep** 環境設定パラメータを使用し、35 ページの第 4 章「ドライバのカスタマイズ」のパラメータの表内の「**NDSREP Configuration Database (NDSREP 環境設定データベース)**」と「**NDSREP Configuration Instance (NDSREP 環境設定インスタンス)**」で説明されている **-f filename** パラメータを使用して **ndsrep** をロードします。

## 2.4.4 データの移行と再同期化

Identity Manager では、データが変化するとデータが同期されます。すべてのデータを即時に同期する場合は、次のオプションから選択できます。

- ◆ **eDirectory** からのデータの移行：アイデンティティボールドからアプリケーションに移行するコンテナまたはオブジェクトを選択できます。オブジェクトを移行すると、メタディレクトリエンジンによって、一致、配置、および作成のすべてのルールと、購読者フィルタがそのオブジェクトに適用されます。
- ◆ **eDirectory** へのデータの移行：アプリケーションからアイデンティティボールドにオブジェクトを移行する際に Identity Manager が使用する条件を定義できます。オブジェクトを移行すると、メタディレクトリエンジンによって、一致、配置、および作成のすべてのルールと、発行者フィルタがそのオブジェクトに適用されます。オブジェクトは、クラスリストで指定した順序で、アイデンティティボールドに移行されます。
- ◆ **同期**：メタディレクトリエンジンが、購読者クラスフィルタを調べ、該当するクラスのすべてのオブジェクトを処理します。関連付けられているオブジェクトはマージされます。関連付けられていないオブジェクトは追加イベントとして処理されます。

いずれかのオプションを使用するには：

- 1 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。
- 2 Notes ドラバが含まれているドライバセットを検索して、ドライバアイコンをダブルクリックします。
- 3 該当する移行ボタンをクリックします。

## 2.4.5 ドライバのアクティベーション

インストール後 90 日以内にドライバのアクティベーションが必要です。アクティベーションを行わないと、ドライバを実行できなくなります。

有効にする方法の詳細については、『[Identity Manager 3.0 インストールガイド](#)』の「[Novell Identity Manager 製品を有効にする](#)」を参照してください。

# アップグレード

- 29 ページのセクション 3.1 「Windows でのアップグレード」
- 33 ページのセクション 3.2 「AIX、Linux、または Solaris でのアップグレード」

## 3.1 Windows でのアップグレード

- 29 ページのセクション 3.1.1 「アップグレードの準備」
- 29 ページのセクション 3.1.2 「1.x から Identity Manager 3 へのドライバシムと環境設定のアップグレード」
- 32 ページのセクション 3.1.3 「2.x から 3.0 へのドライバシムと環境設定のアップグレード」

### 3.1.1 アップグレードの準備

ドライバシムおよび環境設定に最新の修正が適用されていれば、新しいドライバシムは、既存のドライバ環境設定のまま機能します。使用しているドライバのバージョンについてのすべての TID および製品の更新を確認してください。

### 3.1.2 1.x から Identity Manager 3 へのドライバシムと環境設定のアップグレード

- 1 Identity Manager 3 をインストールする際、ユーティリティをインストールするオプションが選択されていることを確認します ( デフォルト設定 )。これにより、**ステップ 5** のアップグレードに必要な `movecfg.exe` ユーティリティがインストールされます。詳細については、『*Identity Manager 3.0 インストールガイド*』の「**Windows での接続システムオプションのインストール**」または「**UNIX/Linux での接続システムオプションのインストール**」を参照してください。

`movecfg.exe` ファイルは、`Identity_Manager_3_Linux_NW_Win.iso` または `Identity_Manager_3_Unix.iso` イメージ CD の Utilities ディレクトリからダウンロードすることもできます。

- 2 アップグレードされたドライバシムは、メタディレクトリエンジンのインストールと同時にでも、その後にでもインストールできます。後でドライバシムをインストールする場合には、Identity Manager インストールプログラムを実行し、Notes 用 Identity Manager ドライバ (Notes.xml) を選択します。詳細については、『*Identity Manager 3.0 インストールガイド*』の「**Identity Manager のインストール**」を参照してください。

前のドライバシムが新しいドライバシムに置き換えられます。

---

**重要:** 前のバージョンのメタディレクトリエンジンと新しいドライバとの併用はサポートされていません。

---

- 3 ウィザードを使用して、既存の環境設定を 3.0 形式に変換します。『*Identity Manager 3.0 インストールガイド*』の「**アップグレード**」を参照してください。
- 4 `ndsrep` の全インスタンスを Domino サーバコンソールからアンロードします。

- 5 `movecfg.exe` ユーティリティを使用して、環境設定パラメータの配置をアップグレードします。詳細については、85 ページの付録 A 「`Movecfg.exe` ユーティリティの使用」を参照してください。

86 ページのセクション A.2 「バッチファイルの使用例」で示されているように、バッチファイルを使用することもできます。

`movecfg.exe` ユーティリティは、Identity Manager のインストール時にユーティリティをインストールするオプションを選択している場合、`\utilities` ディレクトリにインストールされています。

例 (Windows の場合):

```
C:\novell\nds\DirXMLUtilities
```

---

重要: 複数の `ndsrep` インスタンスを作成している場合、`-ndsrep` パラメータを使用して、各インスタンスに対して `movecfg.exe` を実行する必要があります。

---

- 6 (Windows のみ) 次のファイルをコピーします。

- `ndsrep.exe` をインストールされている場所 (`\novell\NDS`) から Domino サーバ実行可能フォルダ (`\Lotus\Domino`) に手動でコピーします。
- `dsrepcfg.ntf` を、インストールされている場所 (`\novell\NDS`) から Domino サーバデータフォルダ (`\Lotus\Domino\Data`) に手動でコピーします。

Linux および Solaris では、このファイルは、パッケージインストールにより、`/usr/lib/dirxml/rules/notes` フォルダに配置され、このファイルのシンボリックリンクが `/local/notesdata` フォルダに作成されます。

- `Notes.jar` ファイルを、`\Lotus\Domino` ディレクトリから `\Novell\nds\lib` ディレクトリ (または、リモートローダを実行している場合、`\novell\remote\loader\lib` ディレクトリ) に手動でコピーします。

このファイルのコピーは、製品を更新する場合だけでなく、新しいリリースをインストールする場合にでも必要です。

- 7 `ndsrep` を自動的にロードするように、Domino サーバの `notes.ini` ファイルの `ServerTasks` 行を変更していた場合 (26 ページの「`ndsrep` のロードと実行」参照)、`ndsrep` のパラメータとしてインスタンス名 (デフォルトではドライバ名) を追加する必要があります。

例:

```
ServerTasks=Router, Replica, Update, Amgr, AdminP, maps, ndsrep  
notesdrv1, ndsrep notesdrv2
```

複数の `ndsrep` インスタンスがセットアップされている場合、各インスタンスの名前を追加する必要があります。ドライバ名にスペースが含まれている場合、ドライバ名を引用符で囲む必要があります。

たとえば、ドライバ名が `CN=Notes Driver` である場合、`notes.ini` は次のようになります。

```
ServerTasks=Router, Replica, Update, Amgr, AdminP, maps, ndsrep  
notesdrv1, ndsrep "Notes Driver"
```

- 8 ndsrep を再起動するか、Domino サーバを再起動します。
- 9 システムが新しいドライバシムファイルを使用するように、eDirectory™ とドライバをいったん停止し、再起動します。  
この時点で、ドライバは、Identity Manager 3 形式への変換以外、何も行わない状態で機能します。
- 10 複数の証明者用に名前付きパスワードを使用したり、グローバル構成値 (GCV) を使用するなど、ドライバ環境設定に対して変更を加えたい場合は、ここで行います。  
**35 ページの第 4 章「ドライバのカスタマイズ」**を参照してください。

---

注：新しいパラメータや、名前付きパスワードなどの新しい機能の使用例については、サンプルドライバ環境設定を参考にしてください。

---

- 11 Lotus Notes 6.0.3 を使用していて、AdminP プロセス機能を使用したい場合には、Allow Domino AdminP Support (Domino AdminP サポートの有効化) というドライバパラメータを購読者チャンネルに追加して、この機能を有効にする必要があります。  
例：

```
<allow-adminp-support display-name="Allow Domino AdminP Support">True</allow-adminp-support>
```

**41 ページのセクション 4.4.2「購読者オプション」**の「Allow Domino AdminP Support (Domino AdminP サポートの有効化)」を参照してください。

- 12 「Notes- 電子メールの返信アドレス」というサンプルポリシー (NotesReturnEmail.xml) を、ドライバ環境設定として購読者チャンネルの `g` コマンド変換 `f` ポリシーセットに追加することを検討してください。  
アイデンティティボールドの新規ユーザが Notes と同期化される時、このポリシーにより、Notes の電子メールアドレスがアイデンティティボールドにライトバックされます。1.x バージョンのドライバでは、この機能は異なる方法で実現されていました。3.0 バージョンでもこの機能を使用し続ける場合には、この新しいポリシーを使用する必要があります。  
**31 ページの「Notes の新規ユーザの電子メールアドレスをライトバックするポリシーをインポートする」**を参照してください。
- 13 ドライバのアクティベーションを行います。**28 ページのセクション 2.4.5「ドライバのアクティベーション」**を参照してください。
- 14 変更が完了したら、ドライバを再起動します。

### Notes の新規ユーザの電子メールアドレスをライトバックするポリシーをインポートする

このポリシーは、購読者チャンネルのユーザの追加イベントで、電子メールアドレスを生成するように設計されています。このポリシーでは、前バージョンのドライバとの下位互換性が保たれています。1.x バージョンのドライバでは、この機能は異なる方法で実現されていました。

3.0 バージョンにドライバ環境設定をアップグレードした後もこの機能を使用し続ける場合には、新しいポリシーを使用する必要があります。このポリシーは、2.1 バージョンのドライバ付属のサンプル環境設定にも含まれています。

このポリシーによって提供される電子メールアドレスのデフォルト形式は、名字、スペース、名前、およびポリシーのインポート時に指定されたドメイン名の連結になります。たとえば、`Joe User@mydomain.com` などです。ポリシーをインポートした後に編集することにより、電子メールアドレスの形式をカスタマイズできます。

- 1 iManager で、[Identity Manager ユーティリティ] > [ドライバのインポート] の順にクリックします。
- 2 既存のドライバが所属するドライバセットを選択します。
- 3 表示されるドライバ環境設定のリストで、[その他のポリシー] までスクロールし、[Notes- 電子メールの返信アドレス] のみを選択します。[次へ] をクリックします。インポートプロンプトのリストが表示されます。
- 4 既存のドライバの名前を選択します。
- 5 生成される電子メールアドレスのサフィックスとして使用されるドメイン名を指定します。  
たとえば、「mydomain.com」と指定します。
- 6 [次へ] をクリックします。  
[ドライバ名 your\_driver\_name はドライバセットにすでに存在しています。次のオプションのいずれかを選択します。] というメッセージが表示されます。
- 7 次の項目を選択します。
  - ◆ 該当ドライバで選択したポリシーのみを更新
  - ◆ Return Email Address (Subscriber - DirXML Script) (電子メールの返信アドレス(購読者 - DirXML スクリプト))
- 8 [次へ] をクリックし、[終了] をクリックしてウィザードを完了します。  
この時点では、新しいポリシーはドライバオブジェクトの下のポリシーオブジェクトとして作成されていますが、ドライバ環境設定の一部にはなっていません。ドライバ環境設定として関連付けるには、新しいポリシーをポリシーセットに手動で追加する必要があります。
- 9 新しいポリシーを購読者チャンネルの「コマンド変換」ポリシーセットに挿入します。
  - 9a [Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択し、更新するドライバが含まれているドライバセットを選択します。
  - 9b 更新したドライバをクリックします。ページが開いて、ドライバ環境設定がグラフィカル表示されます。
  - 9c 購読者チャンネルの「コマンド変換」ポリシーセットのアイコンをクリックします。
  - 9d [挿入] をクリックし、新しいポリシーを追加します。表示される [挿入] ページに [既存のポリシーを使用する] をクリックし、新しいポリシーオブジェクトをブラウズして選択します。[OK] をクリックします。
  - 9e ポリシーセット内に複数のポリシーがある場合、矢印ボタン   を使用して、新しいポリシーをリスト内の目的の場所に移動します。

### 3.1.3 2.x から 3.0 へのドライバシムと環境設定のアップグレード

- 1 ドライバを停止します。
- 2 新しいドライバシムをインストールします。

- 3 Lotus Notes 6.0.3 以降を使用していて、AdminP プロセス機能を使用したい場合には、Allow Domino AdminP Support (Domino AdminP サポートの有効化) というドライバパラメータを購読者チャンネルに追加して、この機能を有効にする必要があります。

例：

```
<allow-adminp-support display-name="Allow Domino AdminP Support">True</allow-adminp-support>
```

41 ページのセクション 4.4.2 「購読者オプション」の「Allow Domino AdminP Support (Domino AdminP サポートの有効化)」を参照してください。

- 4 NDSREP Console Trace Level (NDSREP コンソールトレースレベル) という発行者オプションドライバパラメータをドライバ環境設定に追加することを検討してください。46 ページのセクション 4.4.3 「発行者オプション」の「NDSREP Console Trace Level (NDSREP コンソールトレースレベル)」を参照してください。
- 5 その他ドライバ環境設定パラメータについては、35 ページの第 4 章「ドライバのカスタマイズ」を参照してください。
- 6 変更が完了したら、ドライバを再起動します。

## 3.2 AIX、Linux、または Solaris でのアップグレード

- ◆ 33 ページのセクション 3.2.1 「Domino のアップグレード」

### 3.2.1 Domino のアップグレード

AIX、Linux、または Solaris にドライバをインストールした後で Domino をアップグレードした場合、次のいずれかを行う必要があります。

- ◆ シンボリックリンクを確認し、必要に応じて手動で作成し直します。
- ◆ rdxml.startnotes、rdxml.stopnotes、findDomino、または rdxml.confignotes をカスタマイズしている場合には、これらのファイルをバックアップしてから、ドライバを再インストールします。ドライバシムを再インストールすると、シンボリックリンクが再生成されますが、その際、これらのファイルは上書きされます。

詳細については、20 ページの「インストールのトラブルシューティング」を参照してください。



# ドライバのカスタマイズ

ここでは、個々の業務上のニーズに合わせて、ドライバをカスタマイズする方法について説明します。

- ◆ 35 ページのセクション 4.1「Notes オブジェクトを移動したときの eDirectory オブジェクトの配置の決定」
- ◆ 37 ページのセクション 4.2 「使用する証明者の自動決定」
- ◆ 38 ページのセクション 4.3 「名前付きパスワードの使用」
- ◆ 39 ページのセクション 4.4 「ドライバパラメータの使用」
- ◆ 49 ページのセクション 4.5 「カスタムドライバパラメータ」
- ◆ 77 ページのセクション 4.6 「その他のサンプルポリシー」
- ◆ 78 ページのセクション 4.7 「Names.nsf 以外のデータベースの同期」
- ◆ 78 ページのセクション 4.8 「スキーママッピングのタイプとフォーム」
- ◆ 79 ページのセクション 4.9 「移動 / 名前変更」
- ◆ 82 ページのセクション 4.10 「AdminP コマンドの指定」

---

注：データ同期をカスタマイズする場合は、同期対象のオペレーティングシステムおよびアカウントの、サポートされている標準や規則の範囲で作業する必要があります。1つの環境では有効でも、別の環境では無効な文字が含まれているデータは、エラーになります。

---

## 4.1 Notes オブジェクトを移動したときの eDirectory オブジェクトの配置の決定

Identity Manager による移動は、親の関連付けキーまたは `dest-dn` との相対関係で行われます。Notes 上の名前空間は純粋に論理的であり、Notes の OU にアイデンティティボールトとの関連付けは存在しません。そのため、親の関連付けを提供できません。また、ドライバ側でも eDirectory™ の名前空間への参照を持たないので、親の `dest-dn` (ターゲット DN) を提供することはできません。したがって、ポリシーから、適切な親の `dest-dn` を指定する必要があります。

「Notes- 移動のサンプル」は、関連付けられた Notes オブジェクトが移動された場合に、eDirectory オブジェクトの配置を決定するためのロジックを含む、発行者チャンネルのポリシーです。

このポリシーは、前のバージョンのドライバに付属していた `placemove.xsl` というサンプルスタイルシートに含まれていた機能を提供するためのものです。

移動において、特定の `source dn` に対して `dest-dn` が設定されます。「Notes- 移動のサンプル」ポリシーをインポートした後は、ソースコンテナとターゲットコンテナ間の 1 つのマッピングが定義されるポリシーがインポートされている状態になります。このポリシーを編集して、追加マッピングを定義できます。

---

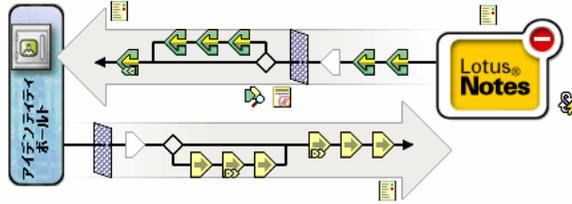
注 : Notes が FullName で CN と DN を管理する方法により、ndsrep では移動イベントと名前変更イベントとを区別できません。そのため、ndsrep は、フルネームが変更されたと判断すると、移動イベントと名前変更イベントの両方を生成します。

---

「Notes- 移動のサンプル」ポリシーをドライバ環境設定に追加するには：

- 1 iManager で、[Identity Manager ユーティリティ] > [ドライバのインポート] の順にクリックします。
- 2 既存のドライバが所属するドライバセットを選択します。
- 3 表示されるドライバ環境設定のリストで、[その他のポリシー] までスクロールし、[Notes- 移動のサンプル] のみを選択します。[次へ] をクリックします。  
インポートプロンプトのリストが表示されます。
- 4 既存の Notes ドライバの名前を選択します。
- 5 Notes 上のコンテナとアイデンティティボールド上の対応するコンテナを 1 つずつ指定します。  
インポートプロセスで、この情報が使用され、Notes コンテナと eDirectory コンテナ間の 1 つのマッピングペアが作成されます。
  - 5a 移動元となる Notes からソースコンテナを指定します。  
たとえば、「\MyOrganization\Engineering\Testing」と指定します。
  - 5b 移動先となるターゲットコンテナを選択します。  
たとえば、「Testing.MyOrganization」と指定します。
- 6 [次へ] をクリックします。  
[ドライバ名 your\_driver\_name はドライバセットにすでに存在しています。次のオプションのいずれかを選択します。] というメッセージが表示されます。
- 7 次の項目を選択します。
  - ◆ 該当ドライバで選択したポリシーのみを更新
  - ◆ Move Sample (Subscriber - DirXML Script) (移動のサンプル(購読者 - DirXMLスクリプト))
- 8 [次へ] をクリックし、[終了] をクリックしてウィザードを完了します。  
この時点では、新しいポリシーはドライバオブジェクトの下のポリシーオブジェクトとして作成されていますが、ドライバ環境設定の一部にはなっていません。ドライバ環境設定として関連付けるには、新しいポリシーをポリシーセットに手動で追加する必要があります。
- 9 新しいポリシーを発行者チャンネルのポリシーセットに挿入します。  
ポリシーは、ドライバ環境設定内の適切な場所に配置します。たとえば、「入力変換」ポリシーセットまたは「イベント変換」ポリシーセットなどに挿入します。
  - 9a [Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択し、更新するドライバが含まれているドライバセットを選択します。

- 9b 更新したドライバをクリックします。ページが開いて、ドライバ環境設定がグラフィカル表示されます。



- 9c 発行者チャンネル上のポリシーセットのアイコンをクリックします。
- 9d プラスボタンをクリックし、新しいポリシーを追加します。[ポリシーの作成] ページで [Make a copy of an existing policy (既存のポリシーのコピーを作成する)] をクリックし、新しいポリシーオブジェクトをブラウザして選択します。[OK] をクリックします。
- 9e ポリシーセット内に複数のポリシーがある場合、矢印ボタン   を使用して、新しいポリシーをリスト内の目的の場所に移動します。
- 10 ポリシーの XML を編集して、Notes と eDirectory 上のすべてのコンテナについてマッピングを定義します。  
コンテナの指定方法は、最初のコンテナペアを指定した **ステップ 5** を参照してください。

## 4.2 使用する証明者の自動決定

ほとんどの Notes 環境では複数の証明者が使用されることから、NotesDriverShim では、ポリシーを介して複数の証明者を使用できるようになっています。

Identity\_Manager\_3\_Linux\_NW\_Win.iso CD 上の `dirxml\drivers\lotusNotes\rules` ディレクトリにあるサンプル `Cert.xml` スタイルシートは、`<add>` タグの `src-dn` 属性に基づいて、使用する Notes Certifier を決定するロジックが含まれている「出力変換」スタイルシートです。他にも、`NotesCertifierSelectionSampleSS.xml` サンプルスタイルシートが用意されています。これらのスタイルシートは、Identity\_Manager\_3\_Unix.iso CD からインストールを行った場合、インストールされています。

`choose/when` ステートメントを編集して、Notes システム証明者構造をモデリングできます。ルート証明者の使用しか認められていない場合、`Cert.xml` を使用する必要はありません。ルート証明者情報は、ドライバパラメータ画面から指定できます。

`Cert.xml` を使用するには、まず、実際の環境設定に合うように、既存の `xsl:when` ステートメントを変更します。

```
<xsl:when test="string($dn) = '\dirxml-ds\provo\notes\eng'">
<xsl:attribute name="cert-id">c:\lotus\domino\data\eng.id</
xsl:attribute> <xsl:attribute name="cert-pwd">certify2eng</
xsl:attribute> <xsl:attribute name="user-pwd">new2notes</xsl:attribute
</xsl:when>
```

組織の証明者構造をモデリングするのに必要なだけ `xsl:when` ステートメントを追加してください。

次に、xsl:otherwise 内の cert-id と cert-pwd を変更して、ルート証明者情報を指定します。

```
<xsl:otherwise> <xsl:attribute name="cert-id">d:\lotus\domino\data\cert.id</xsl:attribute> <xsl:attribute name="cert-pwd">certify2notes</xsl:attribute> </xsl:otherwise>
```

Cert.xsl は XML ドキュメントの add タグに属性を追加することによって、証明者情報を伝えます。NotesDriverShim はこれらの属性を検出できなかった場合、初期化時に渡されたドライバパラメータからルート証明者情報を取得します。

---

注 : Cert.xsl には、その他のドライバパラメータの上書き方法も示されています。これらのパラメータの詳細については、[49 ページのセクション 4.5 「カスタムドライバパラメータ」](#)を参照してください。

---

## 4.3 名前付きパスワードの使用

Identity Manager 2 付属のメタディレクトリエンジンから、ドライバポリシー内で使用することが必要なパスワードを安全に保存するための新しい方法が導入されました。サンプルドライバ環境設定にはこの例が示されています。このドライバ環境設定は Identity Manager 3 でも使用できます。

この機能の 1 つの利用法として、各 Notes 証明者用のパスワードを保存するという方法があります。たとえば、**Human Resources (人事)**、**Engineering (エンジニアリング)**、および **Marketing (マーケティング)** に証明者があった場合、名前付きパスワードを使用して、各証明者 ID のパスワードをドライバパラメータに安全に保存することができます。ドライバ環境設定で、**[XML の編集]** ボタンをクリックし、次のようにドライバパラメータを指定します。

```
<cert-id-password display-name="Certifier Password" is-sensitive="true" type="password-ref">HR</cert-id-password>
```

```
<cert-id-password display-name="Certifier Password" is-sensitive="true" type="password-ref">Engineering</cert-id-password>
```

```
<cert-id-password display-name="Certifier Password" is-sensitive="true" type="password-ref">Marketing</cert-id-password>
```

ドライバパラメータのグラフィカルインタフェースに戻ったら、これら各パスワードに対して、パスワードと確認用パスワードを入力するプロンプトが表示されます。これらパスワードは、ドライバ環境設定とともに保存され、暗号化されます。これらのパスワードは、ドライバポリシー内では名前参照できます。

名前付きパスワードの使用例については、サンプル環境設定と、[77 ページのセクション 4.6 「その他のサンプルポリシー」](#)で示されている NotesCertifierSelectionSampleSS.xsl サンプリスタイルシートも参照してください。

## 4.4 ドライバパラメータの使用

ドライバパラメータを変更するには、[ドライバパラメータ] ページを編集します。

- 1 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順にクリックします。
- 2 ドライバセットからドライバを探します。
- 3 ドライバアイコンをクリックして、[Driver Overview (ドライバの概要)] ページを開きます。
- 4 ドライバアイコンをもう一度クリックして [オブジェクトの変更] ページを開きます。
- 5 [ドライバ環境設定] をクリックします。
- 6 以下の表内の情報を使用して、ドライバパラメータをアップグレードします。
  - ◆ 39 ページのセクション 4.4.1 「ドライバオプション」
  - ◆ 41 ページのセクション 4.4.2 「購読者オプション」
  - ◆ 46 ページのセクション 4.4.3 「発行者オプション」

### 4.4.1 ドライバオプション

次の表の 3 番目の列には、ドライバパラメータの XML エディタに貼り付けることができる XML テキストが示されています。この XML テキストは、そのパラメータを表示するのに必要なテキストです。「説明」列の情報を <description> </description> パラメータ間に配置することもできます。

表 4-1 ドライバパラメータ

パラメータ	説明	ドライバパラメータを定義する XML
デフォルトの証明者 ID ファイル	ユーザオブジェクトを Notes のアドレス帳に登録する際に使用されるデフォルトの Notes Certifier ID ファイル。このファイルのフルパスは、Domino をホストするオペレーティングシステムに合ったパスで指定する必要があります。	<pre>&lt;definition display-name="Default Certifier ID File" name="cert-id-file" type="string"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;c:\lotus654\domino\data\ids\people\ndriver.id&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
デフォルトの証明者 ID のパスワード	ユーザオブジェクトを Notes のアドレス帳に登録する際に使用されるデフォルトの Notes Certifier ID ファイルのパスワード。  type="password-ref" 属性を使用すると、パスワードは暗号化され、ドライバ環境設定に安全に保存されます。この方法でパスワードを安全に保存した場合、指定したキー名 (この例では defaultCertPwd) を使用してメタディレクトリエンジンまたはドライバから参照できます。	<pre>&lt;definition display-name="Default Certifier Password" is-sensitive="true" name="cert-id-password" type="password-ref"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;defaultCertPwd&lt;/value&gt; &lt;pwd-value removePwd="false"&gt; &lt;/pwd-value&gt;&lt;/definition&gt;</pre>

パラメータ	説明	ドライバパラメータを定義する XML
Directory File or Input Database (ディレクトリファイルまたは入力データベース)	アイデンティティボールドと同期化するデータベースのファイル名。この項目は、フルパスで指定する必要はありません。	<pre>&lt;definition display-name="Directory File" name="directory-file" type="string"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt;  &lt;value&gt;names.nsf&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Notes Address Book (Notes のアドレス帳?)	入力データベース (ディレクトリファイル) が Notes のアドレス帳である場合は「True」を指定し、そうでない場合は「False」を指定します。	<pre>&lt;definition display-name="Notes Address Book?" name="is-directory" type="boolean"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt;  &lt;value&gt;&gt;true&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Notes ドメイン名	ドライバの実行対象である Notes ドメインの名前。これは、Notes 組織名と異なっている場合があるので、サーバ名から派生させることはできません。	<pre>&lt;definition display-name="Notes Domain Name" name="notes-domain" type="string"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt;  &lt;value&gt;PROVO1&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
サーバ ID ファイル	このドライバが認証を行う Notes サーバに関連付けられる Notes サーバ ID ファイル (オプション)。このファイルのフルパスは、Domino をホストするオペレーティングシステムに合ったパスで指定する必要があります。この ID ファイルは、サーバ ID ファイルでなくても構いません。パスワードを持たない (どこからもアクセスされる必要のない) ID ファイルを指定することもできます。	<pre>&lt;definition display-name="Domino Server ID File" name="server-id-file" type="string"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt;  &lt;value&gt;c:\lotus654\domino\data\server.id&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Update File or ndsrep polling cache (更新ファイルまたは ndsrep のポーリングキャッシュ)	アイデンティティボールドに発行する必要があるデータベースの変更をキャッシュするデータベースのファイル名。デフォルトでは ndsrep.nsf です。この項目は、フルパスで指定する必要はありません。	<pre>&lt;definition display-name="Update File" name="update-file" type="string"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt;  &lt;value&gt;ndsrep.nsf&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre> <p>ドライバの Domino アドインプロセス ndsrep は、このデータベースを作成します。このデータベース内に、フィルタリングされた更新が、Notes ドライバの発行者チャンネルで使用されるまでキャッシュされます。</p>
Notes ユーザ ID ファイル	このドライバが表す Notes ユーザに関連付けられる Notes ユーザ ID ファイル (必須)。このファイルのフルパスは、Domino をホストするオペレーティングシステムに合ったパスで指定する必要があります。このユーザ ID ファイルに関連付けられるパスワードは、[ドライバ環境設定] > [認証] > [Specify the application password (アプリケーションのパスワードを指定してください)] から、入力します。	<pre>&lt;definition display-name="Notes Driver User ID File" name="user-id-file" type="string"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt;  &lt;value&gt;c:\lotus654\domino\data\ids\people\ndriver.id&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>

パラメータ	説明	ドライバパラメータを定義する XML
Janitor Cleanup Interval (janitor クリーンアップの間隔)	janitor クリーンアップは、未完了の query-ex シーケンスによって孤立したリソースをチェックし、解放します。この間隔は、この janitor サービスが実行される頻度を示します。	<pre>&lt;definition display-name="Janitor Cleanup Interval (in minutes)" name="janitor-cleanup-interval" type="integer"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt;  &lt;value&gt;30&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Allow Document Locking (ドキュメントのロックを許可する)	Notes ドライバシムにより、編集中の Notes データベースドキュメントをロックできるようにします。このパラメータは、Notes 6.5 以降を使用し、Notes データベースで [Allow document locking (ドキュメントのロックを許可する)] チェックボックスが有効な場合のみ有効です。	<pre>&lt;definition display-name="Allow Document Locking" name="allow-document-locking" type="boolean"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt;  &lt;value&gt;true&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>

## 4.4.2 購読者オプション

次の表の 3 番目の列には、ドライバパラメータの XML エディタに貼り付けることができる XML テキストが示されています。この XML テキストは、そのパラメータを示すのに必要なだけのテキストです。「説明」列の情報を <description> </description> パラメータ間に配置することもできます。

表 4-2 購読者チャンネルのパラメータ

パラメータ	説明	ドライバパラメータを定義する XML
Allow Domino AdminP Support (Domino AdminP サポートの有効化)	<p>AdminP 機能の使用をサポートします。AdminP 機能は、Notes 6.0.3 以降を使用している場合のみサポートされます。</p> <p>Lotus Notes 6.0.3 以降を使用していて、AdminP 機能を使用したい場合には、このパラメータを追加し、「true」に設定する必要があります。</p> <p>このパラメータがドライバパラメータに含まれていない場合、デフォルト設定は「false」です。</p> <p>このパラメータは、<a href="#">49 ページのセクション 4.5 「カスタムドライバパラメータ」</a>で説明されている「<a href="#">Allow AdminP Support (AdminP サポートの有効化)</a>」属性を使用して、コマンドベースで上書きすることができます。</p>	<pre>&lt;definition display-name="Allow Domino AdminP Support" name="allow-adminp-support" type="boolean"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt;  &lt;value&gt;true&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>

パラメータ	説明	ドライバパラメータを定義する XML
Certify/Register Users (ユーザの認証 / 登録)	<p>このパラメータは、Notes ユーザアカウントの作成におけるドライバのデフォルト動作を指定します。「Yes」を指定すると、add イベントを受け取ったとき、デフォルトで、ドライバは、各ユーザに対して認証と ID ファイルの作成を行うことにより、Notes アドレス帳にユーザを登録します。</p> <p>このデフォルト設定は、XML &lt;certify-user&gt; 属性タグにより上書きできます。</p>	<pre>&lt;definition display-name="Certify (register) Notes Users" name="cert-users" type="boolean"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;true&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Create Mail DB (メール DB の作成)	<p>このパラメータは、電子メールアカウントの作成に関するドライバのデフォルト動作を指定します。「True」を指定すると、新規ユーザの追加時、デフォルトで、ドライバは Notes メールデータベースを作成します。</p> <p>このデフォルト設定は、XML 属性タグ &lt;create-mail&gt; により上書きできます。</p>	<pre>&lt;definition display-name="Create User E-Mail Box" name="create-mail" tmpId="238" type="boolean"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;true&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Default HTTP Password (デフォルトの HTTP パスワード)	<p>新しく作成された Notes ユーザに対して設定されるデフォルトの Notes Web (HTTP) パスワード。</p> <p>このデフォルト設定は、XML 属性タグ &lt;user-pwd&gt; により上書きできます。</p>	<pre>&lt;definition display-name="Default HTTP Password" name="default-http-password" type="string"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;notesweb&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Default Notes Password (デフォルトの Notes パスワード)	<p>新しく作成された Notes ユーザに対するデフォルトの Notes ユーザ ID パスワード。</p> <p>このデフォルト設定は、XML 属性タグ &lt;user-pwd&gt; により上書きできます。</p>	<pre>&lt;definition display-name="Default Notes Password" name="default-password" type="string"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;notes&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Expiration Term (有効期限)	<p>新しく作成された Notes ユーザ ID ファイルのデフォルトの有効期限 (年単位)。</p> <p>このデフォルト設定は、XML 属性タグ &lt;expire-term&gt; により上書きできます。</p>	<pre>&lt;definition display-name="Default User ID File/Registration Expiration Term (in years)" name="expiration-term" type="integer"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;2&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Failed Command Reply Status (失敗コマンドの返答ステータス)	<p>このパラメータがドライバパラメータに含まれていない場合、デフォルト設定は「Retry」です。</p> <p>指定可能な値は「Success」、「Warning」、「Error」、「Retry」、および「Fatal」です。</p> <p>このパラメータは、クリティカルな状況のトラブルシューティング時に使用できません。</p>	<pre>&lt;definition display-name="Retry Status Return Code" name="retry-status-return" type="enum"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;retry&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>

パラメータ	説明	ドライバパラメータを定義する XML
ID File Storage Location (ID ファイルの保存場所)	このパラメータは、ユーザオブジェクトが登録され、ID ファイルが作成されたときに、使用されるデフォルトの Notes ユーザ ID ファイル (Certifier) の保存場所を指定します。新しい ID ファイルは、この場所に保存されます。このフォルダのフルパスは、Domino をホストするオペレーティングシステムに合ったパスで指定する必要があります。  このデフォルト設定は、XML 属性タグ <user-id-path> により上書きできます。	<definition display-name="User ID File Storage Location" name="cert-path" type="string"> <description> </description>  <value>c:\lotus654\domino\data\ids\people</value> </definition>
Internet Mail Domain Name (インターネットメールドメイン名)	バージョン 2.0 で廃止されました。	<definition display-name="Internet Mail Domain" name="account.email.InternetDomainName" type="string"> <description> </description>  <value><variable-ref var-name="base.Notes.INetMailDomain"/></value> </definition>
Add User E-Mail ACL Level (ユーザ電子メールの ACL レベルの追加)	新しく作成されたユーザオブジェクトの新しく作成されるメールファイルに対するデフォルトの ACL 設定。有効な値は、「NOACCESS」、「DEPOSITOR」、「READER」、「AUTHOR」、「EDITOR」、「DESIGNER」、および「MANAGER」です。ACL 設定が指定されていない場合は、デフォルト値は「MANAGER」です。  このデフォルト設定は、XML 属性タグ <mailfile-acl-level> により上書きできます。	<definition display-name="Add User E-Mail:E-Mail Database ACL Setting" name="account.email.aclsetting" type="enum"> <description> </description>  <value>default</value> </definition>
User Mail File Storage Location (ユーザメールファイルの保存場所)	ドライバによって作成されたメールファイルが保存されるパス。これは、Domino データ保存場所との相対パスになります。たとえば、パラメータが「mail」に設定されている場合、Linux 上で実行している Domino サーバ上に作成された新しいメールファイルは、/local/notesdata/mail フォルダに保存されます。	<definition display-name="User Mail File Storage Location" name="mailfile-path" type="string"> <description> </description>  <value>mail</value> </definition>
Notes Password Strength (Notes パスワードの長さ)	新しく作成された Notes ユーザ ID ファイルに対するパスワードのデフォルトの最小長 (0 ~ 16 文字)。  このデフォルト設定は、XML 属性タグ <minimum-pwd-len> により上書きできます。	<definition display-name="Notes Password Strength (0 - 16)" name="minimum-pwd-len" type="integer"> <description> </description>  <value>2</value> </definition>

パラメータ	説明	ドライバパラメータを定義する XML
Is Domino Server North American? (Domino サーバは北米ですか?)	北米サーバのユーザ ID ファイル (Certifier) プロパティ。Domino サーバが北米にある場合のみ「True」を設定してください。Domino の登録要件に従うと、ユーザ ID ファイルの作成にはこの属性が必須です。	<pre>&lt;definition display-name="Is Domino Server North American?" name="north-american-flag" type="boolean"&gt; &lt;description&gt; &lt;/ description&gt;  &lt;value&gt;&gt;true&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Domino Mail Server Name (Domino メールサーバ名)	<p>メールファイルが格納される Domino サーバの DN。</p> <p>このデフォルト設定は、XML &lt;mailserver&gt; 要素を add イベント要素の子要素として使用することにより、上書きできます。</p>	<pre>&lt;definition display- name="Domino Mail Server Name" name="mail-server" type="string"&gt; &lt;description&gt; &lt;/ description&gt;  &lt;value&gt;CN=blackcap/O=novell&lt;/ value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Notes Document Save Failure Return Code (Notes ドキュメント保存失敗時のリターンコード)	<p>このパラメータがドライバパラメータに含まれていない場合、デフォルト値は「warning」です。</p> <p>指定可能な値は「success」、「warning」、「error」、「retry」、および「fatal」です。</p> <p>このパラメータは、トラブルシューティング時に使用でき、&lt;retry-status-return&gt; で上書きできます。</p>	<pre>&lt;definition display-name="Notes Document Save Failure Return Code" name="notes-save-fail- action" type="enum"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt;  &lt;value&gt;warning&lt;/value&gt; &lt;/ definition&gt;</pre>
Allow Notes Web (HTTP) Password Set (Notes Web (HTTP) パスワードの設定を許可する)	このパラメータが「true」に設定されている場合、Notes ドライバは、ユーザオブジェクトの Web (HTTP) パスワード属性を設定したり変更したりできます。このパラメータを「false」に設定した場合、Notes ドライバは、ユーザオブジェクトの Web (HTTP) パスワード属性を設定または変更できなくなります。デフォルト設定は「true」です。	<pre>&lt;definition display-name="Allow Notes Web (HTTP) Password Set" name="allow-http-password- set" type="boolean"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt;  &lt;value&gt;true&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Registration/ Certification Log File (登録/証明書ログファイル)	ユーザオブジェクトの Notes アドレス帳への登録を記録する Notes 証明書ログファイル。この項目は、フルパスで指定する必要はありません。	<pre>&lt;definition display- name="Registration/Certification Log File" name="cert-log" type="string"&gt; &lt;description&gt; &lt;/ description&gt;  &lt;value&gt;certlog.nsf&lt;/value&gt; &lt;/ definition&gt;</pre>

パラメータ	説明	ドライバパラメータを定義する XML
Store User ID in Address Book ( ユーザ ID をアドレス帳に保存する )	<p>このフラグは、登録時に Notes アドレス帳内の各ユーザオブジェクトにユーザ ID ファイルを添付するかどうかについてのドライバのデフォルト動作を指定します。</p> <p>「True」に設定すると、Notes アドレス帳に登録されるユーザオブジェクトにユーザ ID ファイルが添付されます。</p> <p>「False」に設定すると、Notes アドレス帳に登録されるユーザオブジェクトにユーザ ID ファイルは付きません。</p> <p>このデフォルト設定は、XML 属性タグ <code>&lt;store-useridfile-in-ab&gt;</code> により上書きできます。</p>	<pre>&lt;definition display-name="Store User ID File in Address Book" name="store-id-ab-flag" type="boolean"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;&gt;true&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
E-Mail File Template ( 電子メールファイルのテンプレート )	<p>ユーザの電子メールアカウントの作成時、ドライバが新しいメールデータベースを作成する際に使用される .ntf データベースのテンプレート。このテンプレートは、Domino サーバの Domino データフォルダにあり、アクセス可能である必要があります。</p>	<pre>&lt;definition display-name="Mail File Template" name="mailfile-template" type="string"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;mail654.ntf&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Add Registered Users To Address Book ( 登録したユーザをアドレス帳に追加 )	<p>このパラメータは、Notes アドレス帳への登録ユーザオブジェクトの追加に関するドライバのデフォルト動作を指定します。「True」に設定すると、登録されるユーザがアドレス帳に追加されます。「False」に設定すると、ユーザは登録されても ( ユーザの Certifier ID ファイルが作成されます )、そのユーザオブジェクトは Notes アドレス帳に追加されません。</p> <p>このデフォルト設定は、XML 属性タグ <code>&lt;update-addressbook&gt;</code> により上書きできます。</p>	<pre>&lt;definition display-name="Add Registered Users to Address Book" name="update-ab-flag" type="boolean"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;&gt;true&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Document Lock Failure Action ( ドキュメントロック失敗時のアクション )	<p>Notes ドライバがドキュメントをロックできない場合に、Notes ドライバがメタディレクトリエンジンに返すアクション ( ドキュメントのリターンコード ) を指定します。指定可能な値は「retry ( デフォルト )」、「warning」、「error」、「fatal」、および「success」です。</p> <p>このパラメータは、<code>&lt;retry-status-return&gt;</code> で上書きできます。</p>	<pre>&lt;definition display-name="Document Lock Failure Action" name="notes-doc-lock-fail-action" type="enum"&gt; &lt;value&gt;retry&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>

パラメータ	説明	ドライバパラメータを定義する XML
Number of File Creation Collision Retry Attempts (ファイル競合時のファイル名への追加数値)	ファイル名の競合を解決するために、ファイル名に追加する数の最高値 ( 正の整数 ) を指定します。ファイル名の競合のため、メールファイルまたはそのレプリカを作成できない場合、NotesDriverShim は、ファイル名の最後に整数値を追加し、再度ファイルを作成しようとします。たとえば、メールファイル JohnDoe.nsf が存在している場合、NotesDriverShim は、JohnDoe1.nsf を作成します。この値を 0 に設定した場合、ファイル名の競合が発生した後にファイルは作成されません。	<pre>&lt;definition display-name="Number of File Creation Collision Retry Attempts" name="db-creation-max-collisions" type="integer"&gt; &lt;value&gt;5&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>

### 4.4.3 発行者オプション

次の表の 3 番目の列には、ドライバパラメータの XML エディタに貼り付けることができる XML テキストが示されています。この XML テキストは、そのパラメータを示すのに必要なだけのテキストです。「説明」列の情報を <description> </description> パラメータ間に配置することもできます。

表 4-3 発行者チャンネルのパラメータ

パラメータ	説明	ドライバパラメータを定義する XML
Check Attributes ( 属性をチェックする )	ndsrep の属性のチェックと発行用パラメータ。Notes オブジェクトの変更時、発行者フィルタで変更された属性のみを発行者チャンネル経由でアイデンティティボールドに送信する場合は「True」に設定します。Notes オブジェクトの変更時、発行者フィルタで指定されているすべての同期属性を発行者チャンネル経由でアイデンティティボールドに送信する場合は「False」に設定します。  デフォルト値は「True」です。	<pre>&lt;definition display-name="Check Attributes?" name="check-attribs-flag" type="boolean"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;true&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
DN Format (DN フォーマット)	ndsrep で使用される識別名フォーマット。有効な値は、NOTES_TYPED、NOTES、SLASH_TYPED、SLASH、LDAP、LDAP_TYPED、DOT、および DOT_TYPED です。デフォルト値は NOTES_TYPED です。	<pre>&lt;definition display-name="DN FORMAT" name="dn-format" type="enum"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;NOTES_TYPED&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Enable Loop Back Detection (ループバック検出の有効化)	ループバック検出のパラメータ。ループバック検出を有効にするには、「True」を設定します。ループバック検出を無効にするには、「False」を設定します。	<pre>&lt;definition display-name="Enable Loop Back Detection" name="loop-detect-flag" type="boolean"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;true&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>

パラメータ	説明	ドライバパラメータを定義する XML
NDSREP Configuration Database (NDSREP 環境設定データベース)	<p>ドライバによって作成および保持される <b>ndsrep</b> 環境設定データベースのファイル名。このパラメータは、ドライバシムが発行オプションを書き込む <b>.nsf</b> データベースを指定します。</p> <p>このファイル名のフルパスは、<b>Domino</b> をホストするオペレーティングシステムに合ったパスで指定する必要があります。このパラメータを使用する場合は、<b>ndsrep</b> を <b>-f filename</b> パラメータでロードする必要があります。</p> <p>たとえば、次のように <b>ndsrep</b> をロードします。</p> <pre>load ndsrep NotesDriver2 -f /home/notes/mycfg.nsf</pre> <p>このパラメータがない場合、デフォルトでは、環境設定データベースのファイル名は <b>dsrepcfg.nsf</b> になり、<b>Domino</b> データフォルダに置かれます。</p> <p>ドライバ名にスペースが含まれている場合、ドライバ名を引用符で囲む必要があります。</p>	<pre>&lt;definition display-name="NDSREP Configuration database" name="config-db-name" type="string"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;mycfg.nsf&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
NDSREP Configuration Instance (NDSREP 環境設定インスタンス)	<p>ドライバが <b>ndsrep</b> 環境設定データベース内に作成し、保持する <b>ndsrep</b> 環境設定インスタンス名。このパラメータは、ドライバシムが発行オプションを読み込んだり書き込んだりするデータベース文書を指定します。このパラメータを設定した場合、<b>ndsrep</b> は、このインスタンス名がパラメータとなってロードされたときに、この環境設定インスタンスの設定を使用します。</p> <p>このパラメータが設定されていない場合、デフォルトでは、環境設定インスタンスはドライバ名 (<b>eDirectory</b> 内のドライバ <b>RDN</b>) になります。</p> <p>たとえば、次のように <b>ndsrep</b> をロードします。</p> <pre>load ndsrep NotesDriver2</pre> <p>ドライバ名にスペースが含まれている場合、ドライバ名を引用符で囲む必要があります。</p>	<pre>&lt;definition display-name="NDSREP Configuration Instance" name="instance-id" type="string"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;NotesDriver2&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>

パラメータ	説明	ドライバパラメータを定義する XML
NDSREP Console Trace Level (NDSREP コンソールトレースレベル)	指定可能な値は「SILENT」、「NORMAL」、「VERBOSE」、または「DEBUG」です。  このパラメータが設定されていない場合、デフォルト設定は「NORMAL」です。	<pre>&lt;definition display-name="NDSREP Domino Console Trace Level" name="ndsrep-console-trace-level" type="enum"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;NORMAL&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
NDSREP Schedule Units (NDSREP のスケジュール単位)	ndsrep のポーリング間隔の単位。有効な値は、「SECONDS」、「MINUTES」、「HOURS」、「DAYS」、および「YEARS」です。デフォルト値は「SECONDS」です。	<pre>&lt;definition display-name="NDSREP Polling Units" name="schedule-units" type="enum"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;SECONDS&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
NDSREP Schedule Value (NDSREP のスケジュール値)	ndsrep のポーリング間隔値。この値は、<schedule-units> 環境設定パラメータと共に使用します。	<pre>&lt;definition display-name="NDSREP Polling interval" name="schedule-value" type="integer"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;30&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Polling Interval (ポーリング間隔)	Notes ドライバシムの発行者チャンネルのポーリング間隔を「SECONDS」、「MINUTES」、「HOURS」、または「DAYS」で指定します。	<pre>&lt;definition display-name="Polling Interval (in seconds)" name="polling-interval" type="integer"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;30&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Publication Heartbeat Interval (in seconds) (発行ハートビート間隔 (秒))	発行ハートビート間隔を秒単位で指定します。このパラメータは、<pub-heartbeat-interval> より間隔を細かく設定したい場合に使用します。この指定間隔でドキュメントが発行者チャンネル上に送信されなかった場合、ドライバがハートビートドキュメントを送信します。値が 0 の場合、ハートビートドキュメントは送信されません。  このパラメータが設定されていない場合、デフォルトでは、発行ハートビート間隔は 0 になります。	<pre>&lt;definition display-name="Heartbeat Interval (in seconds)" name="pub-heartbeat-interval-seconds" type="integer"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;0&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>
Publication Heartbeat Interval (発行ハートビート間隔)	発行ハートビート間隔を分単位で指定します。この指定間隔でドキュメントが発行者チャンネル上に送信されなかった場合、ドライバがハートビートドキュメントを送信します。値が 0 の場合、ハートビートドキュメントは送信されません。  このパラメータが設定されていない場合、デフォルトでは、発行ハートビート間隔は 0 になります。	<pre>&lt;definition display-name="Heartbeat Interval (in minutes)" name="pub-heartbeat-interval" type="integer"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;0&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>

パラメータ	説明	ドライバパラメータを定義する XML
Write Time Stamps? (タイムスタンプを書き込みますか?)	同期される Notes に対して ndsrep が特殊なドライバタイムスタンプを書き込むかどうかを指定します。同期されるすべての Notes オブジェクトに対して ndsrep が特殊なドライバタイムスタンプを書き込むようにする場合は、「True」を設定します。この特殊なドライバタイムスタンプは、Notes オブジェクト属性の更新を正確に判断するのに使用されます。ndsrep が、既存の Notes オブジェクトのタイムスタンプに基づいて Notes オブジェクトの属性の更新を判断するようにしたい場合は、「False」を設定します。  デフォルト値は「True」です。	<pre>&lt;definition display-name="Write Time Stamps?" name="write-timestamps-flag" type="boolean"&gt; &lt;description&gt; &lt;/description&gt; &lt;value&gt;true&lt;/value&gt; &lt;/definition&gt;</pre>

## 4.5 カスタムドライバパラメータ

ポリシー内でカスタムドライバパラメータを使用することによって、多くのドライバ環境設定パラメータを上書きできます。

2つの上書き例を [37 ページのセクション 4.2 「使用する証明者の自動決定」](#) で紹介しています。Cert.xml サンプルスタイルシートでは、Certifier ID と Certifier パスワードが <add> XML 要素の属性として渡されます。ドライバは、これらのパラメータを検出し、ドライバパラメータのデフォルト値ではなく、渡される値を使用します。カスタムドライバパラメータは、以下の表の「有効な使用法」列で示されている方法で適用されます。

デフォルト環境設定パラメータを上書きする属性が存在する場合、イベントタイプには関係なく、その対応する文書に適用されます。これらのパラメータは Lotus Notes の文書上のアイテムにマップされるため、これらの上書きは、XML ドキュメント内のイベント要素の属性タグまたはイベント要素の <add-value> 子要素として渡されます。

他の例が、AddAccountNotesOptions.xml スタイルシート内のサンプルドライバ環境設定に含まれています。ここでは、NotesConfig2GCV.xml に指定されているグローバル構成値 (GCV) を使用して、適用する設定が決定されます。

「Yes」値と「No」値を使用する項目には、「True」値または「False」値も使用できます。

Notes ドライバ 2.2 は、同期化される (購読者チャンネルのみ) Lotus Notes データベース (.nsf) の ACL レコード上の ACLEntry を追加または変更できます。同様に、ユーザに対して NotesDriverShim が作成する新しいメールファイルの ACL も、作成時、特定の設定で変更できます。これらのパラメータも、次の表に含まれています。

2.1.2 以上の Notes ドライバでは、データベースのレプリケーション設定とレプリケーションエントリ設定を適用できるようになりました。Notes ドライバは、データベースレプリカを作成できるだけでなく、メールファイルが初めて作成されるときにメールファイルレプリカも作成できるレプリケーションを要求できるようになりました。

また、この機能拡張により、同期化する既存データベースのレプリケーション設定を変更したり、同期化したデータベース上でレプリケーション要求を実行したり、アクセス可能な Domino サーバ上に新しいレプリカを作成できるようになりました。

以下の表では、データベースのレプリケーションオプションを適切に設定するために NotesDriverShim に送信される XDS ドキュメント内の add コマンド要素または modify コマンド要素の一部として追加できる XML タグが示されています。メールファイルレプリケーション設定用の XML タグ ( 接頭辞 mailfile- が付く ) は、add コマンド要素内でのみ使用できます。これらの属性は、以下の表では、Rep 属性と MailFile Rep 属性として分類されています。

表 4-4 ドライバオプション、購読者オプション、および発行者オプションを上書きするカスタムパラメータ

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
ACL Administration Server (ACL 管理サーバ)	acl-administration-server	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  文字列：識別 Notes オブジェクト名 (つまり "CN=Server1/O=myOrg")	このデータベース上で保守を実行できる管理サーバの名前。この値は、有効な Domino 管理サーバの Notes 識別名である必要があります。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
ACL Admin Name Modifier (ACL Admin 名前の変更)	acl-admin-names	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール：true または false	ACL isAdminNames プロパティは、管理サーバがこのデータベースの names フィールドを変更できるかどうかを示します。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
ACL Admin Reader-Author Modifier (ACL Admin 読者 / 作成者の変更)	acl-admin-reader-author	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール：true または false	ACL isAdminReaderAuthor プロパティは、管理サーバがこのデータベースの読者フィールドと作成者フィールドを変更できるかどうかを示します。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
ACL Admin Reader-Author (ACL Admin 読者 / 作成者)	acl-entry-admin-reader-author	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール：true または false	admin-reader-author 属性を設定するかどうかを示します。
ACL Admin Server (ACL Admin サーバ)	acl-entry-admin-server	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール：true または false	admin-server 属性を設定するかどうかを示します。「true」に設定した場合、この設定が「ACL Administration Server (ACL 管理サーバ)」プロパティを上書きし、このエントリの名前が「ACL Administration Server (ACL 管理サーバ)」プロパティに設定されます。「acl-administration-server」を参照してください。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
ACL Create Personal Folder (ACL パーソナルフォルダの作成)	acl-entry-can-create-personal-folder	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	can-create-personal-folder 属性を設定するかどうかを示します。
ACL Create Shared Folder (ACL 共有フォルダの作成)	acl-entry-can-create-personal-folder	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	can-create-shared-folder 属性を設定するかどうかを示します。
ACL Create Documents (ACL ドキュメントの作成)	acl-entry-can-create-documents	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	can-create-documents 属性を設定するかどうかを示します。
ACL Create LS Or Java Agent (ACL LS または Java の作成)	acl-entry-can-create-ls-or-java-agent	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	can-create-LS-or-Java 属性を設定するかどうかを示します。
ACL Create Personal Agent (ACL パーソナルエージェントの作成)	acl-entry-can-create-personal-agent	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	can-create-personal-agent 属性を設定するかどうかを示します。
ACL Replicate Or Copy Documents (ACL ドキュメントの複製またはコピー)	acl-entry-can-replicate-or-copy-documents	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	can-replicate-or-copy-documents 属性を設定するかどうかを示します。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
ACL Delete Documents (ACL ドキュメントの削除)	acl-entry-can-delete-documents	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	can-delete-documents 属性を設定するかどうかを示します。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
ACL Entry Level (ACL エントリレベル)	acl-entry-level	<add>、<modify>、 または <delete> の 各コマンド要素の 属性として。  文字列または整数	ACLEntry レベルを指定します。有効な文字列：  MANAGER DESIGNER EDITOR AUTHOR READER DEPOSITOR NOACCESS
ACL Entry Name (ACL エントリ名)	acl-entry-name	<add>、<modify>、 または <delete> の 各コマンド要素の 属性として。  文字列：識別 Notes オブジェク ト名 (つまり “CN=John Doe/ OU=myOrgUnit/ O=myOrg”)	ACLEntry の名前。設定されていない場合、デフォルト値は、同期化対象の現在のオブジェクトの Notes 識別名 (FullName) になります。
ACL Entry Remove (ACL エントリの削除)	acl-entry-remove	<add>、<modify>、 または <delete> の 各コマンド要素の 属性として。  ブール：true また は false	ACLEntry をデータベースの ACL レコードから削除するかどうかを示します。
ACL Extended Access (ACL 拡張アクセス)	acl-extended-access	<add>、<modify>、 または <delete> の 各コマンド要素の 属性として。  ブール：true また は false	ACL isExtendedAccess プロパティは、このデータベースに対して拡張アクセスを有効にするかどうかを指定します。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
ACL Internet Level (ACL インターネットレベル)	acl-internet-level	<add>、<modify>、 または <delete> の 各コマンド要素の 属性として。  文字列または整数	このデータベースの最大インターネットアクセスレベル。有効な文字列：  MANAGER DESIGNER EDITOR AUTHOR READER DEPOSITOR NOACCESS
ACL Public Reader (ACL パブリックリーダー)	acl-entry-public-reader	<add>、<modify>、 または <delete> の 各コマンド要素の 属性として。  ブール：true また は false	public-reader 属性を設定するかどうかを示します。
ACL Public Writer (ACL パブリックライター)	acl-entry-public-writer	<add>、<modify>、 または <delete> の 各コマンド要素の 属性として。  ブール：true また は false	パブリックライター属性を設定するかどうかを示します。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
ACL Server (ACL サーバ)	acl-entry-server	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	ACLEntry サーバ属性を設定するかどうかを示します。
ACL Uniform Access (ACL 統一アクセス)	acl-uniform-access	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	ACL isUniformAccess プロパティは、このデータベースの全レプリカに対して同じ ACL を設定するかどうかを指定します。
ACL User Type (ACL ユーザタイプ)	acl-entry-user-type	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  文字列または整数	ACLEntry ユーザタイプを指定します。有効な文字列:  MIXED_GROUP PERSON PERSON_GROUP SERVER SERVER_GROUP UNSPECIFIED
ACL Enable Role (ACL 役割の有効化)	acl-entry-enable-role	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  文字列	ACL に設定する役割を指定します。
ACL Disable Role (ACL 役割の無効化)	acl-entry-disable-role	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  文字列	ACL に設定する役割を指定します。
Administration Process Server (管理プロセスサーバ)	adminp-server	<add>、<modify>、<move>、<delete>、または <domino-console-command> の各イベント要素の属性として。  文字列	管理プロセスセッションを構築する Domino サーバ、つまりコンソールコマンドを送信する Domino サーバを指定します。デフォルト値は、ドライバパラメータで指定されているローカルサーバです。例: adminp-server="myserver1/acme"。Notes 6.0.3 以降が必要です。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Allow AdminP Support (AdminP サポートの有効化)	allow-adminp-support	<add>、<modify>、<move>、<rename>、または <delete> の各イベント要素の属性として。  ブール: true または false	Notes ドライバシムが受信するコマンドで、AdminP 要求の発行を許可するかどうかを指定します。この属性値は「True」または「False」になります。「購読者オプション」で説明した <allow-adminp-support> ドライバパラメータを使用しない場合、デフォルト値は「False」です。この属性は、コマンドベースで「 <b>Allow Domino AdminP Support (Domino AdminP サポートの有効化)</b> 」(41 ページのセクション 4.4.2 「購読者オプション」参照)を上書きするのに使用できます。例: allow-adminp-support="True".Notes 6.0.3 以降が必要です。
Alternate Full Name (代替フルネーム)	AltFullName	<add> イベントの <add-value> 子要素として  文字列	この要素は、新規ユーザ登録時に Notes の「代替フルネーム」属性を指定します。他のユーザ属性と同様、この属性は、eDirectory の属性を使用して同期化したり、スタイルシートに挿入したりできます。ユーザの AltFullName の設定については、Lotus Notes のマニュアルを参照してください。
Alternate Organization Unit (代替部門)	alt-org-unit	<add> イベント要素の属性として。  文字列	Notes に新規ユーザを登録するときの代替部門を指定します。
Alternate Organization Unit Language (代替部門言語)	alt-org-unit-lang	<add> イベント要素の属性として。  文字列	Notes に新規ユーザを登録するときの代替部門言語を指定します。
Certification Expiration Date (証明書の有効期限)	cert-expire-date	<add>、<modify>、または <move> の各イベント要素の属性として。  文字列	ユーザ Certifier の有効期限を指定します。この属性は、ドライバパラメータで指定されているデフォルトの有効期限を上書きします。これは、移動、名前変更、または再認証など、ユーザの再証明の原因となる AdminP 要求が起こるイベントを処理するとき、または新規 Notes ユーザ作成時の追加イベントで Notes ドライバシムが使用する属性です。日付は、Domino Server のロケールに合った形式を使用したテキストで指定してください。たとえば、英語では、「cert-expire-date="1 July 2010"」と指定します。この属性の代替属性は expire-term です。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Certifier ID File (Certifier ID ファイル)	cert-id	<add> イベント要素の属性として。  文字列	このタグは、ユーザオブジェクトを Notes のアドレス帳に登録する際に使用される Notes Certifier ID ファイルを指定します。このファイルのフルパスは、Domino をホストするオペレーティングシステムに合ったパスで指定する必要があります。ドライバ環境設定の「デフォルトの Notes Certifier ID ファイル」パラメータ <cert-id-file> を上書きします。
Certifier ID File Parameter Reference (Certifier ID ファイルパラメータリファレンス)	drv-param-cert-id	<add> イベント要素の属性として。  文字列	このタグは、Certifier ID ファイルの <cert-id> タグの代わりに使用できます。このタグは、このユーザオブジェクトを Notes アドレス帳に登録する際に使用される Notes Certifier ID ファイルを指定します。ドライバパラメータタグには、任意の名前を付けることができますが、Certifier ID ファイルのフルパスは、Domino をホストするオペレーティングシステムに合ったパスで指定する必要があります。ドライバ環境設定の「デフォルトの Notes Certifier ID ファイル」パラメータ <cert-id-file> を上書きします。
Certifier Name (Certifier 名)	certifier-name	<move> イベント要素の属性として。  文字列	古い Certifier から新しい Certifier に Notes ユーザを移動する際に必要となる Certifier 名を指定します。値は、ユーザが移動する新しい Certifier の名前になります。この属性は、old-cert-id またはその代替属性の 1 つ、old-cert-pwd またはその代替属性の 1 つ、cert-id またはその代替属性の 1 つ、および cert-pwd またはその代替属性の 1 つと共に使用する必要があります。cert-id は、certifier-name に属している必要があります。例: certifier-name="/mktg/acme"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Certifier Password (Certifier パスワード)	cert-pwd	<add> イベント要素の属性として。  文字列	このタグは、Certifier ID ファイルと共に使用される Notes Certifier ID パスワードを指定します。パスワード値はクリアテキストで渡されます。Notes Certifier ID ファイルとそのパスワードは、ユーザオブジェクトを Notes アドレス帳に登録する際に使用されます。ドライバ環境設定の「デフォルトの Notes Certifier ID ファイルのパスワード」パラメータ <cert-id-password> を上書きします。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Certifier Password Key Name Reference (Certifier パスワードキー名リファレンス)	named-cert-pwd	<add> イベント要素の属性として。  文字列	このタグは、 <b>Certifier</b> パスワード <cert-pwd> タグの代わりに使用できます。このタグは、ユーザオブジェクトを <b>Notes</b> アドレス帳に登録する際に使用される <b>Certifier ID</b> ファイルと共に使用される <b>Notes Certifier ID</b> パスワードを格納する名前付きパスワードキー名を指定します。 <b>Notes Certifier ID</b> ファイルとそのパスワードは、ユーザオブジェクトを <b>Notes</b> アドレス帳に登録する際に使用されます。ドライバ環境設定の「デフォルトの <b>Notes Certifier ID</b> ファイルのパスワード」パラメータ <cert-id-password> を上書きします。
Certifier Password Parameter Reference (Certifier パスワードパラメータリファレンス)	drv-param-cert-pwd	<add> イベント要素の属性として。  文字列	このタグは、 <b>Certifier</b> パスワード <cert-pwd> タグの代わりに使用できます。このタグは、ユーザオブジェクトを <b>Notes</b> アドレス帳に登録する際に使用される <b>Certifier ID</b> ファイルと共に使用される <b>Notes Certifier ID</b> パスワードを格納するドライバパラメータを指定します。このドライバパラメータタグには、任意の名前を付けることができますが、この値により <b>Certifier ID</b> ファイルのパスワードが示されます。参照されるドライバパラメータは、クリアテキストパスワードでも暗号化される名前付きパスワードでも構いません。 <b>Notes Certifier ID</b> ファイルとそのパスワードは、ユーザオブジェクトを <b>Notes</b> アドレス帳に登録する際に使用されます。ドライバ環境設定の「デフォルトの <b>Notes Certifier ID</b> ファイルのパスワード」パラメータ <cert-id-password> を上書きします。
Certify User Flag (ユーザ認証フラグ)	certify-user	<add> イベント要素の属性として。  文字列	このタグは、 <b>Notes</b> ユーザアカウントの作成におけるドライバの動作を指定します。「 <b>Yes</b> 」または「 <b>No</b> 」で指定します。「 <b>Yes</b> 」を指定すると、ドライバは、このユーザを認証してユーザを <b>Notes</b> アドレス帳に登録します (つまり、ユーザの <b>ID</b> ファイルを作成します)。  ドライバ環境設定のデフォルトのユーザ認証フラグ <cert-users> を上書きします。
Create Mail File Flag (メールファイルの作成フラグ)	create-mail	<add> イベント要素の属性として。  ブール: true または false	このタグは、このユーザの電子メールアカウントを作成するかどうかを示します。「 <b>Yes</b> 」または「 <b>No</b> 」で指定します。「 <b>Yes</b> 」を指定すると、ドライバは、この新規ユーザを追加 (作成) するとき、 <b>Notes</b> メールデータベースを作成しようとします。ドライバ環境設定のデフォルトのメールファイルの作成フラグ <create-mail> を上書きします。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Database Inheritance for Mail File Template (メールファイルテンプレートのデータベース継承)	mail-file-inherit-flag	<add> イベント要素の属性として。  ブール: true または false	このタグは、特定のテンプレートを更新するときに、そのテンプレートに基づいたデータベース構造も更新するかどうかを指定します。「Yes」または「No」で指定します。  デフォルト値は (このタグが指定されていない状態では) 「Yes」です (つまり「True」です)。  既存のデータベース設計に影響なくメールファイルテンプレートを変更したい場合には、「No」または「False」と設定してください。
Delete Windows Group (Windows グループの削除)	delete-windows-group	<delete class="group"> イベント要素の属性として。  ブール: true または false	同期化される Windows グループを Windows から削除するかどうかを指定します。値は「True」または「False」です。Domino は、ユーザとグループの Windows システムとの同期化機能を独自に持っています。Notes ドライバシムが AdminP を使用してグループの削除を要求した場合、この削除は Windows と同期されることにもなります。この属性のデフォルト値は「False」です。例: delete-windows-group="True"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Delete Windows User (Windows ユーザの削除)	delete-windows-user	<delete class="user"> イベント要素の属性として。  ブール: true または false	同期化される Windows ユーザを Windows から削除するかどうかを指定します。値は「True」または「False」です。Domino は、ユーザとグループの Windows システムとの同期化機能を独自に持っています。Notes ドライバシムが AdminP を使用してユーザの削除を要求した場合、この削除は Windows と同期されることにもなります。この属性のデフォルト値は「False」です。例: delete-windows-user="True"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Deny Access Group ID (アクセス拒否グループの ID)	deny-access-group-id	<delete> イベント要素の属性として。  文字列	delete イベントに対して Notes アクセス拒否グループ UNID を指定します。Notes ドライバシムが AdminP を使用して、Notes からユーザを削除する場合、その AdminP ユーザの削除要求にアクセス拒否グループ名を添付することができます。このようにすると、削除されたユーザ名は、指定されたアクセス拒否グループに挿入されます。代替属性は deny-access-group-name です。例: deny-access-group-id="7EFB951A3574521F87256E540001F140"。Notes 6.0.3 以降が必要です。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Deny Access Group Name (アクセス拒否グループ名)	deny-access-group-name	<delete> イベント要素の属性として。  文字列	delete イベントに対して Notes アクセス拒否グループ名を指定します。Notes ドライバシムが AdminP を使用して、Notes からユーザを削除する場合、その AdminP ユーザの削除要求にアクセス拒否グループ名を添付することができます。このようにすると、削除されたユーザ名は、指定されたアクセス拒否グループに挿入されます。代替属性は deny-access-group-id です。例: deny-access-group-name="Deny Access"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Domino Console Command (Domino コンソールコマンド)	tell-adminp-process	<add>、<modify>、<move>、<delete> の各イベント要素の属性として。  文字列	Notes ドライバシムが AdminP 要求を実行した後で実行する Domino コンソールコマンドを指定します。Domino コンソールコマンドを実行するには、Notes ドライバユーザが、それに必要な Domino コンソール特権を持っている必要があります。例: tell-adminp-process="tell adminp process new"。Notes 6.0.3 以降が必要です。  <b>82 ページのセクション 4.10 「AdminP コマンドの指定」</b> を参照してください。
Driver Parameter Old Certifier ID (古い Certifier ID ドライバパラメータ)	drv-param-old-cert-id	<move> イベント要素の属性として。  文字列	古い Certifier から新しい Certifier に Notes ユーザを移動する際に必要となる古い Certifier ID ファイル名を示すドライバパラメータを指定します。値は、ドライバパラメータタグになります。この属性の代替属性は old-cert-id です。この属性は、certifier-name、old-cert-pwd またはその代替属性の 1 つ、cert-id またはその代替属性の 1 つ、および cert-pwd またはその代替属性の 1 つと共に使用する必要があります。例: drv-param-old-cert-id="mktg-cert-id-file"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Driver Parameter Old Certifier Password (古い Certifier パスワード ドライバパラメータ)	drv-param-old-cert-pwd	<move> イベント要素の属性として。  文字列	古い Certifier から新しい Certifier に Notes ユーザを移動する際に必要となる古い Certifier ID ファイルのパスワードを示すドライバパラメータを指定します。値は、ドライバパラメータタグになります。この属性の代替属性は named-old-cert-pwd または old-cert-pwd です。この属性は、certifier-name、old-cert-id またはその代替属性の 1 つ、cert-id またはその代替属性の 1 つ、および cert-pwd またはその代替属性の 1 つと共に使用する必要があります。例: drv-param-old-cert-pwd="mktg-cert-id-password"。Notes 6.0.3 以降が必要です。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Enforce Unique Short Name (一意の短縮名の使用)	enforce-unique-short-name	<add> イベント要素の属性として。  文字列	Notes に新規ユーザを登録する際に、一意の短縮名を使用するかどうかを指定します。値は「True」または「False」です。デフォルト値は「False」です。「True」と指定した場合、Notes へのユーザ登録時に、新規ユーザの短縮名がすでに存在していると、短縮名の重複が発生しないように、その新しいユーザ情報が、同じ短縮名の既存の Notes ユーザに上書きされます。例: enforce-unique-short-name="True"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Extended OU (拡張 OU)	extended-ou	<add>、または <modify> の各イベント要素の属性として。  文字列	ユーザの登録時、選択された Certifier に基づいて生成された DN に、このタグの値が追加されます。
Group Membership Removal (グループメンバーシップの削除)	remove-all-group-membership	<modify>、または <delete> の各イベント要素の属性として。  ブール: true または false	このタグは、Notes データベース内の "Deny List" (GroupType=3) タイプ以外のすべてのグループのメンバーシップリストから、このユーザオブジェクトを削除するかどうかを示します。有効値は「Yes」と「No」です。このタグが指定されていない場合は、デフォルト値は「No」になります。このタグは、Notes アドレス帳内のユーザオブジェクトのみに適用されます。
ID File Name (ID ファイル名)	user-id-file	<add> イベント要素の属性として。  文字列	このタグは、ユーザ ID ファイルとして使用されるファイル名を指定します。ファイル名にはパスは含まれません。このタグが指定されていない場合、デフォルトのファイル名は、そのユーザの名属性と姓属性を使用して Notes ドライバによって生成されます (FirstNameLastName.id)。
ID File Path (ID ファイルパス)	user-id-path	<add> イベント要素の属性として。  文字列	このタグは、ユーザの ID ファイルが作成されるときに使用される Notes ユーザ ID ファイルの保存場所を示すファイルパスを指定します。新しい ID ファイルは、この場所に保存されます。このフォルダのフルパスは、Domino をホストするオペレーティングシステムに合ったパスで指定する必要があります。ドライバ環境設定のデフォルトの Notes ユーザ ID 証明書保存場所パラメータ <cert-path> を上書きします。
Immediate (今すぐ)	immediate	<delete> イベント要素の属性として  ブール: true または false	AdminP によって実行される delete イベントが、即座に Notes アドレス帳 (NAB) からユーザを削除するのか、スケジュールされた間隔で AdminP 要求が処理されるまで待機するのかを指定します。指定可能な値は「True」または「False」です。デフォルト値は「False」です。例: immediate="True"。Notes 6.0.3 以降が必要です。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
InternetAddress (インターネットアドレス)	InternetAddress	<add> イベントの <add-value> 子要素として。  文字列	この要素は、Notes アドレス帳内のユーザのインターネット電子メールアドレスを指定します。
Language of Alternate Full Name (代替フルネームの言語)	AltFullNameLanguage	<add> イベントの <add-value> 子要素として。  文字列	この要素は、新規ユーザ登録時に代替フルネーム用に使用される言語を指定します。他のユーザ属性と同様、この属性は、eDirectory の属性を使用して同期化したり、スタイルシートに挿入したりできます。ユーザの AltFullNameLanguage の設定については、Lotus Notes のマニュアルを参照してください。
Mail File Size Quota (メールファイルサイズの割り当て)	mail-file-quota	<add> イベント要素の属性として。  整数	このタグは、作成時に電子メールデータベースファイルに適用されるメールファイルの割り当てサイズ (KB 単位) を指定します。
メールサーバ	mail-server	<add> イベント要素の属性として。  文字列	新規ユーザのメールファイルを作成するのに使用されるメールサーバを指定します。この属性は、ドライバパラメータで指定される値を上書きします。例: mail-server="CN=ms2/O=acme"
Mail System (メールシステム)	mail-system	<add> イベント要素の属性として。  文字列または整数	作成される新規ユーザに対するメールシステムのタイプを指定します。有効値は「NOTES」、「POP」、「INTERNET」、「OTHER」、「NONE」です。デフォルト値は「NOTES」です。Notes 6.0.3 以降が必要です。
MailDomain	MailDomain	<add> イベントの <add-value> 子要素として。  文字列	この要素は、電子メールデータベースファイルを作成するときの Notes メールドメインの名前を指定します。
MailFile	MailFile	<add> イベントの <add-value> 子要素として。  文字列	この要素は、ユーザの電子メールデータベースファイルを作成するときを使用されるファイル名を指定します。ファイル名にパスは含まれません。このタグが指定されていない場合、デフォルトのファイル名は、そのユーザの名属性と姓属性を使用して Notes ドライバによって生成されます (FirstNameLastName.nsf)。
MailFile ACL Administration Server (MailFile ACL 管理サーバ)	mailfile-acl-administration-server	<add> 子要素の属性として。  文字列: 識別 Notes オブジェクト名 (つまり "CN=Server1/O=myOrg")	このデータベース上で保守を実行できる管理サーバの名前。この値は、有効な Domino 管理サーバの Notes 識別名である必要があります。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
MailFile ACL Admin Names (MailFile ACL Admin 名前)	mailfile-acl-admin-names	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	ACL isAdminNames プロパティは、管理サーバがこのデータベースの names フィールドを変更できるかどうかを示します。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
MailFile ACL Admin Reader Author (MailFile ACL Admin 読者 / 作成者)	mailfile-acl-admin-reader-author	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	ACL isAdminReaderAuthor プロパティは、管理サーバがこのデータベースの読者フィールドと作成者フィールドを変更できるかどうかを示します。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
MailFile ACL Control (MailFile ACL 制御)	mailfile-acl-level	<add> イベント要素の属性として。	新しく作成されたユーザオブジェクトの新しく作成されるメールファイルに対するデフォルトの ACL 設定。有効値は、「NOACCESS」、「DEPOSITOR」、「READER」、「AUTHOR」、「EDITOR」、「DESIGNER」、および「MANAGER」です。値は、Java ACL 定数または役割名で指定できます。各値については、 <a href="#">77 ページの表 4-5</a> を参照してください。この属性は、証明書属性が計算され設定されたときと同じルールで追加する必要があります。また同じ XSL 構造を使用して追加する必要もあります。ドライバ環境設定では、デフォルトの Mail File ACL Level パラメータ、<mailfile-acl-level> を上書きします。
MailFile ACL Entry Name (MailFile ACL エントリ名)	mailfile-acl-entry-name	<add> 子要素の属性として。 文字列: 識別 Notes オブジェクト名 (つまり "CN=John Doe/OU=myOrgUnit/O=myOrg")	ACLEntry の名前。設定されていない場合、デフォルト値は、同期化対象の現在のオブジェクトの Notes 識別名 (FullName) になります。
MailFile ACL Entry Remove (MailFile ACL エントリの削除)	mailfile-acl-entry-remove	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	ACLEntry をメールファイルデータベースの ACL レコードから削除するかどうかを示します。
MailFile ACL Entry Public Reader (MailFile ACL エントリパブリックリーダー)	mailfile-acl-entry-public-reader	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	public-reader 属性を設定するかどうかを示します。
MailFile ACL Entry Public Writer (MailFile ACL エントリパブリックライター)	mailfile-acl-entry-public-writer	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	public-writer 属性を設定するかどうかを示します。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
MailFile ACL Entry Server (MailFile ACL エントリサーバ)	mailfile-acl-entry-server	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	ACLEntry サーバ属性を設定するかどうかを示します。
MailFile ACL Entry Level (MailFile ACL エントリレベル)	mailfile-acl-entry-level	<add> 子要素の属性として。 文字列または整数	mailfile-acl-level と同じです。ACLEntry レベルを指定します。有効な文字列: MANAGER DESIGNER EDITOR AUTHOR READER DEPOSITOR NOACCESS
MailFile ACL Entry User Type (MailFile ACL エントリユーザタイプ)	mailfile-acl-entry-user-type	<add> 子要素の属性として。 文字列または整数	ACLEntry ユーザタイプを指定します。有効な文字列: MIXED_GROUP PERSON PERSON_GROUP SERVER SERVER_GROUP UNSPECIFIED
MailFile ACL Entry Enable Role (MailFile ACL エントリ役割の有効化)	mailfile-acl-entry-enable-role	<add> 子要素の属性として。 文字列	ACL に設定する役割を指定します (デフォルトでは、役割は設定されません)。
MailFile ACL Entry Disable Role (MailFile ACL エントリ役割の無効化)	mailfile-acl-entry-disable-role	<add> 子要素の属性として。 文字列	ACL に設定する役割を指定します (デフォルトでは、役割は設定されません)。
MailFile ACL Entry Admin Reader-Author (MailFile ACL エントリ Admin 読者 / 作成者)	mailfile-acl-entry-admin-reader-author	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	admin-reader-author 属性を設定するかどうかを示します。
MailFile ACL Entry Admin Server (MailFile ACL エントリ Admin サーバ)	mailfile-acl-entry-admin-server	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	admin-server 属性を設定するかどうかを示します。「true」に設定した場合、この設定が「ACL Administration Server (ACL 管理サーバ)」プロパティを上書きし、このエントリの名前が「ACL Administration Server (ACL 管理サーバ)」プロパティに設定されます。「acl-administration-server」を参照してください。
MailFile ACL Entry Create Documents (MailFile ACL エントリドキュメントの作成)	mailfile-acl-entry-can-create-documents	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	can-create-documents 属性を設定するかどうかを示します。
MailFile ACL Entry Create LS Or Java Agent (MailFile ACL エントリ LS または Java エージェントの作成)	mailfile-acl-entry-can-create-ls-or-java-agent	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	can-create-LS-or-Java 属性を設定するかどうかを示します。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
MailFile ACL Entry Create Personal Agent (MailFile ACL エントリパーソナルエージェントの作成)	mailfile-acl-entry-can-create-personal-agent	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	can-create-personal-agent 属性を設定するかどうかを示します。
MailFile ACL Entry Create Personal Folder (MailFile ACL エントリパーソナルフォルダの作成)	mailfile-acl-entry-can-create-personal-folder	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	can-create-personal-folder 属性を設定するかどうかを示します。
MailFile ACL Entry Create Shared Folder (MailFile ACL エントリ共有フォルダの作成)	mailfile-acl-entry-can-create-shared-folder	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	can-create-shared-folder 属性を設定するかどうかを示します。
MailFile ACL Entry Delete Documents (MailFile ACL エントリドキュメントの削除)	mailfile-acl-entry-can-delete-documents	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	can-delete-documents 属性を設定するかどうかを示します。
MailFile ACL Entry Replicate Or Copy Documents (MailFile ACL エントリドキュメントの複製またはコピー)	mailfile-acl-entry-can-replicate-or-copy-documents	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	can-replicate-or-copy-documents 属性を設定するかどうかを示します。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
MailFile ACL Extended Access (MailFile ACL 拡張アクセス)	mailfile-acl-extended-access	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	ACL isExtendedAccess プロパティは、このデータベースに対して拡張アクセスを有効にするかどうかを指定します。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
MailFile ACL Internet Level (MailFile ACL インターネットレベル)	mailfile-acl-internet-level	<add> 子要素の属性として。 文字列または整数	このデータベースの最大インターネットアクセスレベル。有効な文字列: MANAGER DESIGNER EDITOR AUTHOR READER DEPOSITOR NOACCESS
MailFile ACL Manager ID (MailFile ACL 管理者 ID)	mail-acl-manager-id	<add> イベント要素の属性として。	新しく作成されたユーザのメールファイルの ACL に対する管理者資格情報とするユーザの UNID を指定します。代替属性は mail-acl-manager-name です。例: mail-acl-manager-id="BB888BB0C35D13EC87256EA8006296CE"

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
MailFile ACL Manager Name (MailFile ACL 管理者名)	mail-acl-manager-name	<add> イベント要素の属性として。	新しく作成されたユーザのメールファイルの ACL に対する管理者資格情報とするユーザの名前を指定します。代替属性は mail-acl-manager-id です。例: mail-acl-manager-name="CN=Notes Admin/O=acme"
MailFile ACL Uniform Access (MailFile ACL 統一アクセス)	mailfile-acl-uniform-access	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	ACL isUniformAccess プロパティは、このデータベースの全レプリカに対して同じ ACL を設定するかどうかを指定します。
MailFile Action (MailFile アクション)	mail-file-action	<delete> イベント要素の属性として	削除されたユーザのメールボックスに対して実行する AdminP アクションを指定します。このアクションは、AdminP のユーザの削除要求に含まれます。有効な値は、「ALL」、「HOME」、および「NONE」です。デフォルト値は「NONE」です。「ALL」を指定すると、ホームメールサーバ上のメールボックスとすべてのメールボックスレプリカを削除します。「HOME」を指定すると、ホームメールサーバ上のメールボックスだけを削除します。AdminP のメールボックスの削除要求はすべて、実行前に Domino 管理者によって承認されている必要があります。例: mail-file-action="ALL"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
MailFile Quota Warning Threshold (MailFile 割り当て警告のしきい値)	mail-quota-warning-threshold	<add> イベント要素の属性として。	このタグは、作成時に電子メールデータベースファイルに適用されるメールファイルの割り当て警告のしきい値 (KB 単位) を指定します。例: mail-quota-warning-threshold="120000"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
MailFile Subdirectory (MailFile サブディレクトリ)	mail-file-subdir	<add> イベント要素の属性として。	新規ユーザのメールファイルが作成される Domino サーバのデータディレクトリ直下のサブディレクトリを指定します。例: mail-file-subdir="mail-dbs"
MailFile Template (MailFile テンプレート)	mailfile-template	<add> イベント要素の属性として	このタグは、電子メールアカウントに対してユーザの新しいメールファイルを作成するときに使用される .ntf データベーステンプレートのファイル名を指定します。このテンプレートは、Domino サーバの Domino データフォルダ内にあり、アクセス可能であることが必要です。ドライバ環境設定のデフォルトのメールファイルのテンプレート <mailfile-template> を上書きします。
MailFile Calendar Profile Create (MailFile カレンダープロファイルの作成)	mailfile-calprofile-create	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	「True」に設定した場合、新しいメールファイルは、カレンダープロファイルドキュメントで作成され、所有者フィールドが挿入されます。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
MailFile Calendar Profile Owner (MailFile カレンダープロファイル所有者)	mailfile-calprofile-owner	<p>&lt;add&gt; 子要素の属性として。</p> <p>文字列: メールファイルの所有者にする識別 Notes オブジェクト名 (たとえば "CN=John Doe/OU=myOrgUnit/O=myOrg")。</p>	<p>メールファイルの所有者 (メールファイルの [ ツール ]&gt;[ 初期設定 ] 内) を特定のユーザ名に設定します。デフォルトでは、<b>mailfile-calprofile-create</b> が「true」であれば、メールファイルの所有者は、新しく作成された Notes ユーザの名前になります。</p>
MailFile Rep New Server (MailFile Rep 新規用サーバ)	mailfile-rep-new-server	<p>&lt;add&gt; 子要素の属性として。</p> <p>文字列: 新規レプリカが作成される Domino サーバの識別名 (CN=server1/O=acme など)。</p>	<p>新規レプリカが作成される Domino サーバの名前。ネットワークからこの Domino サーバにアクセスできる必要があります。データベースのサイズによっては、この操作に時間がかかる場合があります。<b>mailfile-rep-new-db-name</b> と共に使用できます。</p>
MailFile Rep New DB Name (MailFile Rep 新規用 DB 名)	mailfile-rep-new-db-name	<p>&lt;add&gt; 子要素の属性として。</p> <p>文字列: 新規レプリカのファイル名 (mail/JohnDoeRep2.nsf など)。</p>	<p>新しく作成されるレプリカのファイル名。<b>mailfile-rep-new-db-name</b> が指定されていない場合、元のデータベースのファイル名が使用されます。新規ファイルのデフォルトの保存場所は Domino サーバのデータフォルダです。<b>mailfile-rep-new-server</b> と共に使用できます。</p>
MailFile Rep Source Server (MailFile Rep ソースサーバ)	mailfile-rep-src-server	<p>&lt;add&gt; 子要素の属性として。</p> <p>文字列: レプリカ Domino ソースサーバの識別名 (CN=server2/O=acme など)。</p>	<p>レプリケーションオブジェクト内のレプリケーションエントリの Domino ソースサーバを指定します。ソースサーバが指定されている状態で、ソースサーバと送信先サーバがレプリケーションエントリリストになれば、新しいレプリケーションエントリが作成されます。このパラメータが指定されていない場合、ソースサーバのデフォルト値は、「any server」です (ハイフン (-) は「any server」の意味です)。<b>mailfile-rep-dest-server</b> と共に使用します。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。</p>
MailFile Rep Destination Server (MailFile Rep 送信先サーバ)	mailfile-rep-dest-server	<p>&lt;add&gt; 子要素の属性として。</p> <p>文字列: レプリカ Domino 送信先サーバの識別名 (CN=server1/O=acme など)。</p>	<p>レプリケーションオブジェクト内のレプリケーションエントリの Domino 送信先サーバを指定します。送信先サーバが指定されている状態で、ソースサーバと送信先サーバがレプリケーションエントリリストになれば、新しいレプリケーションエントリが作成されます。このパラメータが指定されていない場合、送信先サーバのデフォルト値は、「any server」になります (ハイフン (-) は「any server」の意味です)。<b>mailfile-rep-src-server</b> と共に使用します。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。</p>

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
MailFile Rep Formula (MailFile Rep 式)	mailfile-rep-formula	<add> 子要素の属性として。 文字列: レプリケーション式	レプリケーションエントリ用のレプリケーション式を指定します。デフォルトでは、新規レプリケーションエントリには、@All 式が含まれます。この式は、有効なレプリケーション式であることが必要です。mailfile-rep-src-server または mailfile-rep-dest-server と共に使用できます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
MailFile Rep Include ACL (MailFile Rep ACL の含有)	mailfile-rep-include-acl	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	レプリケーションエントリのレプリケーションに ACL を含めるかどうかを指定します。「true」に設定すると ACL が含まれます。「false」に設定すると ACL は含まれません。mailfile-rep-src-server または mailfile-rep-dest-server と併用されます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
MailFile Rep Include Agents (MailFile Rep エージェントの含有)	mailfile-rep-include-agents	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	レプリケーションエントリのレプリケーションにエージェントを含めるかどうかを指定します。「true」に設定するとエージェントが含まれます。「false」に設定するとエージェントは含まれません。mailfile-rep-src-server または mailfile-rep-dest-server と併用されます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
MailFile Rep Include Documents (MailFile Rep ドキュメントの含有)	mailfile-rep-include-documents	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	レプリケーションエントリのレプリケーションにドキュメントを含めるかどうかを指定します。「true」に設定するとドキュメントが含まれます。「false」に設定するとドキュメントは含まれません。mailfile-rep-src-server または mailfile-rep-dest-server と併用されます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
MailFile Rep Include Forms (MailFile Rep フォームの含有)	mailfile-rep-include-forms	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	レプリケーションエントリのレプリケーションにフォームを含めるかどうかを指定します。「true」に設定するとフォームが含まれます。「false」に設定するとフォームは含まれません。mailfile-rep-src-server または mailfile-rep-dest-server と併用されます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
MailFile Rep Include Formulas (MailFile Rep 式の含有)	mailfile-rep-include-formulas	<add> 子要素の属性として。 ブール: true または false	レプリケーションエントリのレプリケーションに式を含めるかどうかを指定します。「true」に設定すると式が含まれます。「false」に設定すると式は含まれません。mailfile-rep-src-server または mailfile-rep-dest-server と併用されます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
MailFile Rep View List (MailFile Rep ビューリスト)	mailfile-rep-view-list	<add> 子要素の属性として。  文字列: ビューリスト	レプリケーションエントリ用に複製するビュー名のリストを指定します。指定する文字列は、ビューリストです。「Inbox; Sent; Calendar; Meetings」などのように、ビュー名間をセミコロンで区切ります。mailfile-rep-src-server または mailfile-rep-dest-server と併用されます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
MailFile Rep Cutoff Interval (MailFile Rep カットオフ間隔)	mailfile-rep-cutoff-interval	<add> 子要素の属性として。  整数: 数値	CutoffDelete プロパティが設定されている場合にドキュメントが自動的に削除されるまでの日数を指定します (「mailfile-rep-cutoff-delete」参照)。
MailFile Rep Don't Send Local Security Updates (MailFile Rep ローカルセキュリティ更新を送信しない)	mailfile-rep-dont-send-local-security-updates	<add> 子要素の属性として。  ブール: true または false	ローカルセキュリティ (暗号化) 更新を送信するかどうかを指定します。「true」に設定すると、ローカルセキュリティ更新は送信されません。「false」に設定すると、送信されます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
MailFile Rep Abstract (MailFile Rep 抽象)	mailfile-rep-abstract	<add> 子要素の属性として。  ブール: true または false	複製時、大きなドキュメントをカットし、添付ファイルを削除するかどうかを指定します。「true」に設定すると、大きなドキュメントはカットされ、添付ファイルは削除されます。「false」に設定すると、大きなドキュメントもすべて複製されます。
MailFile Rep Cutoff Delete (MailFile Rep カットオフ削除)	mailfile-rep-cutoff-delete	<add> 子要素の属性として。  ブール: true または false	カットオフ日より古いドキュメントを自動的に削除するかどうかを指定します。カットオフ日は、今日の日付からカットオフ間隔 (mailfile-rep-cutoff-interval) を引いた日になります。「true」を設定すると、カットオフ日より古いドキュメントが自動的に削除されます。「false」を設定すると、古いドキュメントの削除は行われません。
MailFile Rep Disabled (MailFile Rep 無効化)	mailfile-rep-disabled	<add> 子要素の属性として。  ブール: true または false	レプリケーションを無効にするかどうかを指定します。「true」に設定するとレプリケーションが無効になり、「false」に設定するとレプリケーションは有効になります。
MailFile Rep Ignore Deletes (MailFile Rep 削除の無視)	mailfile-rep-ignore-deletes	<add> 子要素の属性として。  ブール: true または false	発信削除を他のデータベースに複製するかしないかを指定します。「true」に設定すると、発信削除は複製されません。「false」に設定すると、発信削除も複製されます。
MailFile Rep Ignore Destination Deletes (MailFile Rep 着信削除の無視)	mailfile-rep-ignore-dest-deletes	<add> 子要素の属性として。  ブール: true または false	着信削除を現在のデータベースに複製するかしないかを指定します。「true」に設定すると、着信削除は複製されません。「false」に設定すると、着信削除も複製されます。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
MailFile Rep Priority (MailFile Rep 優先度)	mailfile-rep-priority	<add> 子要素の属性として。  文字列または整数	レプリケーションの優先度を指定します。選択肢は「HIGH」、「MED」、および「LOW」です。デフォルト値は「MED」です。
MailFile Rep Clear History (MailFile Rep 履歴のクリア)	mailfile-rep-clear-history	<add> 子要素の属性として。  ブール: true または false	「true」に設定すると、レプリケーションオブジェクトからレプリケーション履歴が削除されます。「false」に設定すると、何も起こりません。
MailFile Rep Entry Remove (MailFile Rep エントリの削除)	mailfile-rep-entry-remove	<add> 子要素の属性として。  ブール: true または false	「true」に設定すると、レプリケーションオブジェクトから現在のレプリケーションエントリが削除されます。「false」に設定すると、何も起こりません。mailfile-rep-src-server または mailfile-rep-dest-server と併用されます。
MailFile Rep Immediate (MailFile Rep 今すぐ)	mailfile-rep-immediate	<add> 子要素の属性として。  文字列: レプリカ Domino 送信先サーバの識別名 (CN=server1/O=acme など)	既存のデータベースレプリカがある指定された Domino サーバに対して、データベースのレプリケーションを今すぐ開始することを示します。
MailServer	MailServer	<add> イベントの <add-value> 子要素として。  文字列	この要素は、電子メールアカウント (メールデータベースファイル) の作成時にメールファイルを作成する Notes サーバの名前を指定します。
Name Expiration Date (名前有効期限)	name-expire-date	<modify> イベント要素の属性として。  文字列	AdminP がユーザを移動した後の古いユーザ名の有効期限を指定します。この属性は、非認証 (Web) ユーザを移動する場合のみ有効です。この属性を使用して、デフォルトの有効期限である 21 日を上書きします。日付は、Domino Server のロケールに合った形式のテキストで指定してください。たとえば、英語では、「name-expire-date="1 July 2010"」と指定します。この属性の代替属性は name-expiration-days です。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Name Expiration Days (名前有効期限日数)	name-expiration-days	<modify> イベント要素の属性として。  整数	AdminP がユーザを移動した後、有効期限までに古いユーザ名を使用できる日数を指定します。この属性は、非認証 (Web) ユーザを移動する場合のみ有効です。この属性を使用して、デフォルトの有効期限である 21 日を上書きします。この属性の代替属性は name-expiration-date です。例: name-expiration-days="14"。Notes 6.0.3 以降が必要です。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Named Old Certifier Password (名前付き古い Certifier パスワード)	named-old-cert-pwd	<move> イベント要素の属性として。  文字列	古い Certifier から新しい Certifier に Notes ユーザを移動する際に必要となる古い Certifier ID ファイルの名前付きパスワードを指定します。この値は、ドライバ環境設定から取得される名前付きパスワードです。この属性の代替属性は <code>drv-param-old-cert-pwd</code> または <code>old-cert-pwd</code> です。この属性は、 <code>certifier-name</code> 、 <code>old-cert-id</code> またはその代替属性の 1 つ、 <code>cert-id</code> またはその代替属性の 1 つ、および <code>cert-pwd</code> またはその代替属性の 1 つと共に使用する必要があります。例: <code>named-old-cert-pwd="mktgNamedPwd"</code> 。Notes 6.0.3 以降が必要です。
No ID File (ID ファイルなし)	no-id-file	<add> イベント要素の属性として。  ブール: true または false	新規ユーザの Notes への登録で ID ファイルを作成するかどうかを指定します。値は「True」または「False」です。デフォルト値は「False」です。例: <code>no-id-file="True"</code> 。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Notes Explicit Policy Name (Notes 明示的なポリシー名)	notes-policy-name	<add> イベント要素の属性として。  文字列	ユーザの登録時に、ユーザに添付する明示的なポリシー名を指定します。この属性は、Notes 登録ポリシーを実行したり、登録時にその他のポリシーを実行するものではありません。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Notes HTTP Password (Notes HTTP パスワード)	HTTPPassword	<add> イベントまたは <modify> イベントの <add-value> 子要素として。  文字列	この要素は、Notes に対するユーザの Web (HTTP) パスワードを指定します。この設定は、「Web (HTTP) パスワードの設定を許可する」パラメータ <allow-http-password-set> が「No」(つまり「False」) の場合は無視されます。
Notes Password Strength (Notes パスワードの長さ)	minimum-pwd-len	<add> イベント要素の属性として。  整数: 1 ~ 16	このタグは、新しく登録されたユーザのユーザ ID ファイルに適用するパスワード長を指定します。値は 0 ~ 16 の数値です。ドライバ環境設定のデフォルトの「Notes ユーザ ID 最短パスワード長」パラメータ <minimum-pwd-len> を上書きします。
Notes Password (Notes パスワード)	user-pwd	<add> イベント要素の属性として。  文字列	ユーザの ID ファイル (Certifier) を作成する際に使用されるユーザの Notes パスワード。ドライバ環境設定のデフォルトの「Notes パスワード」パラメータ <default-password> を上書きします。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Notes Password Change Interval (Notes パスワード変更間隔)	notes-password-change-interval	<add> イベント要素、または <modify> イベント要素の属性として。  整数	<b>Notes</b> ユーザのパスワードの変更間隔を指定します。この属性の値は数値です。変更間隔値は、ユーザが新しいパスワードの指定が必要となるまでの日数を指定します。デフォルト値は「0」です。この属性が、ユーザの追加イベントまたは変更イベントに追加されると、AdminP パスワード情報の設定要求が生成されます。例：notes-password-change-interval="120"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Notes Password Check Setting (Notes パスワードチェック設定)	notes-password-check-setting	<add> イベント要素、または <modify> イベント要素の属性として。  文字列または整数	<b>Notes</b> ユーザのパスワードのチェック設定を指定します。この属性が、ユーザの追加イベントまたは変更イベントに追加されると、AdminP パスワード情報の設定要求が生成されます。有効値は、「PWD_CHK_CHECKPASSWORD」、「PWD_CHK_DONTCHECKPASSWORD」、および「PWD_CHK_LOCKOUT」です。例：notes-password-check-setting="PWD_CHK_CHECKPASSWORD"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Notes Password Force Change (Notes パスワード強制変更)	notes-password-force-change	<add> イベント要素、または <modify> イベント要素の属性として。  ブール：true または false	次回ログイン時、Notes ユーザに強制的にパスワードの変更を要求するかどうかを指定します。この属性の値は「True」または「False」です。「True」に設定した場合、ユーザは、次回ログイン時、必ずパスワードを変更する必要があります。「False」（デフォルト）に設定した場合、ユーザは、次回ログイン時、パスワードの変更を要求されません。この属性が、ユーザの追加イベントまたは変更イベントに追加されると、AdminP パスワード情報の設定要求が生成されます。例：notes-password-force-change="True"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Notes Password Grace Period (Notes パスワード変更の猶予期間)	notes-password-grace-period	<add> イベント要素、または <modify> イベント要素の属性として。  整数	<b>Notes</b> ユーザのパスワードの変更の猶予期間を指定します。この属性の値は数値です。変更の猶予期間は、古いパスワードが、有効期限後、有効である日数を指定します。デフォルト値は「0」です。この属性が、ユーザの追加イベントまたは変更イベントに追加されると、AdminP パスワード情報の設定要求が生成されます。例：notes-password-grace-period="10"。Notes 6.0.3 以降が必要です。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Old Certification ID (古い証明書 ID)	old-cert-id	<move> イベント要素の属性として  文字列	古い Certifier から新しい Certifier に Notes ユーザを移動する際に必要となる古い Certifier ID ファイルを指定します。値は、古い Certifier ID ファイルのフルパスとファイル名になります。この属性の代替属性は attribute is drv-param-old-cert-id です。  この属性は、certifier-name、old-cert-pwd またはその代替属性の 1 つ、cert-id またはその代替属性の 1 つ、および cert-pwd またはその代替属性の 1 つと共に使用する必要があります。例： old-cert-id="c:\lotus\domino\data\mktgcert.id"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Old Certification Password (古い証明書パスワード)	old-cert-pwd	<move> イベント要素の属性として。  文字列	古い Certifier から新しい Certifier に Notes ユーザを移動する際に必要となる古い Certifier ID ファイルのパスワードを指定します。値は、パスワード文字列になります。この属性の代替属性は drv-param-old-cert-pwd または named-old-cert-pwd です。この属性は、certifier-name、old-cert-id またはその代替属性の 1 つ、cert-id またはその代替属性の 1 つ、および cert-pwd またはその代替属性の 1 つと共に使用する必要があります。例：old-cert-pwd="mktg-password1"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Rep New Server (Rep 新規用サーバ)	rep-new-server	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  文字列：新規レプリカが作成される Domino サーバの識別名 (CN=server1/O=acme など)。	新規レプリカが作成される Domino サーバの名前。ネットワークからこの Domino サーバにアクセスできることが必要です。データベースのサイズによっては、この操作に時間がかかる場合があります。rep-new-db-name と共に使用できます。
Rep New Database Name (Rep 新規用データベース名)	rep-new-db-name	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  文字列：新規レプリカのファイル名 (mail/JohnDoeRep2.nsf など)。	新しく作成されるレプリカのファイル名。rep-new-db-name が指定されていない場合、元のデータベースのファイル名が使用されます。新規ファイルのデフォルトの保存場所は Domino サーバのデータフォルダです。rep-new-server と共に使用できます。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Rep Source Server (Rep ソースサーバ)	rep-src-server	<p>&lt;add&gt;、&lt;modify&gt;、または &lt;delete&gt; の各コマンド要素の属性として。</p> <p>文字列: レプリカ Domino ソースサーバの識別名 (CN=server2/O=acme など)。</p>	<p>レプリケーションオブジェクト内のレプリケーションエントリの Domino ソースサーバを指定します。送信先サーバが指定されている状態で、ソースサーバと送信先サーバがレプリケーションエントリリストになれば、新しいレプリケーションエントリが作成されます。このパラメータが指定されていない場合、ソースサーバのデフォルト値は、「any server」になります (ハイフン (-) は「any server」の意味です)。rep-dest-server と共に使用します。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。</p>
Rep Destination Server (Rep 送信先サーバ)	rep-dest-server	<p>&lt;add&gt;、&lt;modify&gt;、または &lt;delete&gt; の各コマンド要素の属性として。</p> <p>文字列: レプリカ Domino 送信先サーバの識別名 (CN=server1/O=acme など)。</p>	<p>レプリケーションオブジェクト内のレプリケーションエントリの Domino 送信先サーバを指定します。送信先サーバが指定されている状態で、ソースサーバと送信先サーバがレプリケーションエントリリストになれば、新しいレプリケーションエントリが作成されます。このパラメータが指定されていない場合、送信先サーバのデフォルト値は、「any server」になります (ハイフン (-) は「any server」の意味です)。rep-src-server と共に使用します。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。</p>
Rep Formula (Rep 式)	rep-formula	<p>&lt;add&gt;、&lt;modify&gt;、または &lt;delete&gt; の各コマンド要素の属性として。</p> <p>文字列: レプリケーション式</p>	<p>レプリケーションエントリ用のレプリケーション式を指定します。デフォルトでは、新規レプリケーションエントリには、@All 式が含まれます。この式は、有効なレプリケーション式であることが必要です。rep-src-server または rep-dest-server と共に使用できます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。</p>
Rep Include ACL (Rep ACL 含有)	rep-include-acl	<p>&lt;add&gt;、&lt;modify&gt;、または &lt;delete&gt; の各コマンド要素の属性として。</p> <p>ブール: true または false</p>	<p>レプリケーションエントリのレプリケーションに ACL を含めるかどうかを指定します。「true」に設定すると ACL が含まれます。「false」に設定すると ACL は含まれません。rep-src-server または rep-dest-server と共に使用できます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。</p>
Rep Include Agents (Rep エージェントの含有)	rep-include-agents	<p>&lt;add&gt;、&lt;modify&gt;、または &lt;delete&gt; の各コマンド要素の属性として。</p> <p>ブール: true または false</p>	<p>レプリケーションエントリのレプリケーションにエージェントを含めるかどうかを指定します。「true」に設定するとエージェントが含まれます。「false」に設定するとエージェントは含まれません。rep-src-server または rep-dest-server と共に使用できます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。</p>

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Rep Include Documents (Rep ドキュメントの含有)	rep-include-documents	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	レプリケーションエントリのレプリケーションにドキュメントを含めるかどうかを指定します。「true」に設定するとドキュメントが含まれます。「false」に設定するとドキュメントは含まれません。rep-src-server または rep-dest-server と共に使用できます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
Rep Include Forms (Rep フォームの含有)	rep-include-forms	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	レプリケーションエントリのレプリケーションにフォームを含めるかどうかを指定します。「true」に設定するとフォームが含まれます。「false」に設定するとフォームは含まれません。rep-src-server または rep-dest-server と共に使用できます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
Rep Include Formulas (Rep 式の含有)	rep-include-formulas	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	レプリケーションエントリのレプリケーションに式を含めるかどうかを指定します。「true」に設定すると式が含まれます。「false」に設定すると式は含まれません。rep-src-server または rep-dest-server と共に使用できます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
Rep View List (Rep ビューリスト)	rep-view-list	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  文字列: ビューリスト	レプリケーションエントリ用に複製するビュー名のリストを指定します。指定する文字列は、ビューリストです。「Inbox; Sent; Calendar; Meetings」などのように、ビュー名間をセミコロンで区切ります。rep-src-server または rep-dest-server と共に使用できます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
Rep Cutoff Interval (Rep カットオフ間隔)	rep-cutoff-interval	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  整数: 数値	CutoffDelete プロパティが設定されている場合にドキュメントが自動的に削除されるまでの日数を指定します (「rep-cutoff-delete」参照)。
Rep Don't Send Local Security Updates (Rep ローカルセキュリティ更新を送信しない)	rep-dont-send-local-security-updates	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	ローカルセキュリティ (暗号化) 更新を送信するかどうかを指定します。「true」に設定すると、ローカルセキュリティ更新は送信されません。「false」に設定すると、送信されます。Domino 6.0.3 以降でのみ使用できます。
Rep Abstract (Rep 抽象)	rep-abstract	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	複製時、大きなドキュメントをカットし、添付ファイルを削除するかどうかを指定します。「true」に設定すると、大きなドキュメントはカットされ、添付ファイルは削除されます。「false」に設定すると、大きなドキュメントもすべて複製されます。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Rep Cutoff Delete (Rep カットオフ削除)	rep-cutoff-delete	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	カットオフ日より古いドキュメントを自動的に削除するかどうかを指定します。カットオフ日は、今日の日付からカットオフ間隔 (rep-cutoff-interval) を引いた日になります。「true」を設定すると、カットオフ日より古いドキュメントが自動的に削除されます。「false」を設定すると、古いドキュメントの削除は行われません。
Rep Disabled (Rep 無効化)	rep-disabled	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	レプリケーションを無効にするかどうかを指定します。「true」に設定するとレプリケーションが無効になり、「false」に設定するとレプリケーションは有効になります。
Rep Ignore Deletes (Rep 削除の無視)	rep-ignore-deletes	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	発信削除を他のデータベースに複製するかしないかを指定します。「true」に設定すると、発信削除は複製されません。「false」に設定すると、発信削除も複製されます。
Rep Ignore Destination Deletes (Rep 着信削除の無視)	rep-ignore-dest-deletes	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	着信削除を現在のデータベースに複製するかしないかを指定します。「true」に設定すると、着信削除は複製されません。「false」に設定すると、着信削除も複製されます。
Rep Priority (Rep 優先度)	rep-priority	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  文字列: HIGH、MED、LOW	レプリケーションの優先度を指定します。デフォルト値は「MED」です。
Rep Clear History (Rep 履歴のクリア)	rep-clear-history	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	「true」に設定すると、レプリケーションオブジェクトからレプリケーション履歴が消去されます。「false」に設定すると、何も起こりません。
Rep Entry Remove (Rep エントリの削除)	rep-entry-remove	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  ブール: true または false	「true」に設定すると、レプリケーションオブジェクトから現在のレプリケーションエントリが消去されます。「false」に設定すると、何も起こりません。rep-src-server または rep-dest-server と共に使用できます。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Rep Immediate (Rep 今すぐ)	rep-immediate	<add>、<modify>、または <delete> の各コマンド要素の属性として。  文字列: レプリカ Domino 送信先 サーバの識別名 (CN=server1/Acme など)。	既存のデータベースレプリカがある指定された Domino サーバに対して、データベースのレプリケーションを今すぐ開始することを示します。
Recertify User (ユーザの再認証)	recertify-user	<modify> イベント要素の属性として。  ブール: true または false	ユーザの再認証要求を AdminP に送信します。この属性の値は「True」または「False」です。適切な Certifier ID 属性と対応するパスワード属性 (cert-id、cert-pwd、またはその同等属性) が指定されている必要があります。そうでない場合、デフォルト Certifier が使用されます。  この属性は、cert-id またはその代替属性、および cert-pwd またはその代替属性の 1 つと共に使用する必要があります。ユーザの Certifier の新しい有効期限を指定する場合には、expire-term 要素または cert-expire-date 要素と共に使用できます。例: recertify-user="True"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Registered Users in Notes Address Book (登録したユーザを Notes アドレス帳に追加)	update-addressbook	<add> イベント要素の属性として。  ブール: true または false	このタグは、登録したユーザオブジェクトを Notes アドレス帳に追加するかどうかを指定します。「Yes」に設定すると、登録されたユーザはアドレス帳に追加されます。「No」に設定すると、ユーザが登録されても (つまりユーザの Certifier ID ファイルが作成されます)、そのユーザオブジェクトは Notes アドレス帳に追加されません。  ドライバ環境設定のデフォルトの「アドレス帳の更新」パラメータ <update-ab-flag> を上書きします。
Roaming Cleanup Period (ローミングクリーンアップ期間)	roaming-cleanup-period	<add> イベント要素の属性として。  整数	ローミングユーザのクリーンアップ設定が「CLEANUP_EVERY_NDAYS」の場合、ローミングユーザの Notes クライアントのクリーンアップ間隔日数を指定します。この属性は、「roaming-user="True,"」と「roaming-cleanup-setting="EVERY_NDAYS"」と共に使用する必要があります。例: roaming-cleanup-period="90"。Notes 6.0.3 以降が必要です。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
Roaming Cleanup Setting (ローミングクリーンアップ設定)	roaming-cleanup-setting	<add> イベント要素の属性として。 文字列	<b>Notes</b> クライアントデータのローミングユーザクリーンアッププロセスを指定します。有効な値は、「AT_SHUTDOWN」、「EVERY_NDAYS」、「NEVER」、および「PROMPT」です。デフォルト値は「NEVER」です。この属性は、「roaming-user="True"」と共に使用する必要があります。例: roaming-cleanup-setting="AT_SHUTDOWN"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Roaming Server (ローミングサーバ)	roaming-server	<add> イベント要素の属性として。 文字列	ローミングユーザデータを格納する Domino サーバの名前を指定します。この属性は、「roaming-user="True"」と共に使用する必要があります。例: roaming-server="CN=myserver2/O=acme"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Roaming Subdirectory (ローミングサブディレクトリ)	roaming-subdir	<add> イベント要素の属性として。 文字列	ユーザローミングデータが格納される Domino サーバのデータディレクトリ直下のサブディレクトリを指定します。値の最後の文字は、ファイルパスの区切り文字 (/ または \) にしてください。例: roaming-subdir="roamdata"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Roaming User (ローミングユーザ)	roaming-user	<add> イベント要素の属性として。 ブール: true または false	<b>Notes</b> 登録プロセスで、このユーザをローミングユーザとして作成するかどうかを指定します。値は「True」または「False」です。デフォルト値は「False」です。例: roaming-user="True"。Notes 6.0.3 以降が必要です。
Store User ID File In Notes Address Book (ユーザ ID ファイルの Notes アドレス帳への保存)	store-useridfile-in-ab	<add> イベント要素の属性として。 ブール: true または false	このタグは、登録時に、Notes アドレス帳内のユーザオブジェクトに、対応するユーザ ID ファイルを添付するかどうかを指定します。「Yes」に設定すると、Notes アドレス帳内のこの登録されたユーザオブジェクトに、ユーザ ID ファイルが添付されます。「No」に設定すると、Notes アドレス帳内のこの登録されたユーザオブジェクトに、ユーザ ID ファイルは添付されません。ドライバ環境設定のデフォルトの「アドレス帳へのユーザ ID の保存」パラメータ <store-id-ab-flag> を上書きします。
Synchronize Internet Password (インターネットパスワードの同期化)	sync-internet-password	<add> イベント要素の属性として。 ブール: true または false	ユーザのインターネットパスワード (HTTP パスワード) を、Domino サーバのバックグラウンドプロセスにより、ユーザの Notes クライアント ID パスワードと同期させるかどうかを指定します。値は「True」または「False」です。デフォルト値は「False」です。例: sync-internet-password="True"。Notes 6.0.3 以降は必要です。

パラメータ	XML タグ	有効な使用法と値	説明
User ID file certifier type ( ユーザ ID ファイルの Certifier タイプ )	cert-id-type	<add> イベント要素の属性として。 文字列	このタグは、ユーザ登録時のユーザ ID ファイルが作成される時に使用される、ユーザ ID ファイルの Certifier タイプを指定します。有効な値は、「ID_FLAT」、 「ID_HIERARCHICAL」、および 「ID_CERTIFIER」です。このタグが指定されていない場合、デフォルトの Certifier タイプは「ID_HIERARCHICAL」です。
User ID file Expiration Term ( ユーザ ID ファイルの有効期限 )	expire-term	<add> イベント要素の属性として。 整数	このタグは、このユーザの Notes ユーザ ID ファイルの有効期限 ( 年単位 ) を指定します。ドライバ環境設定のデフォルトの「有効期限」パラメータ <expiration-term> を上書きします。

表 4-5 ACL の種類と対応する Java ACL 定数

ACL の種類	Notes Java ACL 定数
NOACCESS DEPOSITOR READER	ACL.LEVEL_NOACCESS ACL.LEVEL_DEPOSITOR ACL.LEVEL_READER
AUTHOR EDITOR DESIGNER	ACL.LEVEL_AUTHOR ACL.LEVEL_EDITOR ACL.LEVEL_DESIGNER
MANAGER	ACL.LEVEL_MANAGER

## 4.6 その他のサンプルポリシー

スタイルシートは、XML ドキュメントの変換や変更を定義するための XSLT ドキュメントです。ルール、ポリシー、およびスタイルシートの設定と作成は、iManager から行えます。

Identity Manager には、次のサンプルが付属しています。

- ◆ **NotesMoveSample.xml:** このサンプルポリシーは、関連付けられた Notes オブジェクトが移動された場合に、eDirectory オブジェクトの配置を決定するためのロジックを格納する、発行者チャンネルのポリシーです。

ドライバインポートウィザードでは、このポリシーは「Notes- 移動のサンプル」という名前が表示され、[その他のポリシー] の下で使用できます。35 ページのセクション 4.1 「Notes オブジェクトを移動したときの eDirectory オブジェクトの配置の決定」を参照してください。

- ◆ **NotesReturnEmail.xml:** このサンプルポリシーは、購読者チャンネルのユーザの追加イベントで、電子メールアドレスを生成するように設計されたコマンド変換ポリシーです。

このポリシーは、ドライバシムと環境設定を 1.x から 3 へアップグレードする場合にのみ必要です ( このポリシーは、バージョン 2.1 以降のドライバで提供されているサンプルの環境設定の一部です )。

ドライバインポートウィザードでは、このポリシーは「Notes- 電子メールの返信アドレス」という名前が表示され、[その他のポリシー] の下で使用できます。31 ページの「Notes の新規ユーザの電子メールアドレスをライトバックするポリシーをインポートする」を参照してください。

- ◆ **Cert.xml:** <add> タグの src-dn 属性に基づいて、使用する Notes 証明者を決定するためのロジックを格納している、出力変換スタイルシートです。  
詳細については、[37 ページのセクション 4.2 「使用する証明者の自動決定」](#)を参照してください。
- ◆ **Override.xml.** パラメータを上書きする属性の使用例を示します。[49 ページのセクション 4.5 「カスタムドライバパラメータ」](#)の表を参照してください。
- ◆ **Placemove.xml:** Lotus Notes からアイデンティティボールドへの移動を同期する場合に、抱合的な配置を決定するためのロジックを格納する、入力変換スタイルシートです。  
詳細については、[35 ページのセクション 4.1 「Notes オブジェクトを移動したときの eDirectory オブジェクトの配置の決定」](#)を参照してください。
- ◆ **AddUniqueName.xml.** Notes ユーザに対して一意の名前がどのように作成されるかを簡単に示します。
- ◆ **EntitlementGrpCmdCompletionSS.xml.** サンプルの環境設定をインポートする場合に、役割ベースエンタイトルメントを使用すると、このスタイルシートが含まれます。この例では、<operation-data> 要素のペイロードを処理する方法を示します。
- ◆ **NotesCertifierSelectionSampleSS.xml.** Cert.xml に基づき、複数の Notes 証明者を使用する方法を例示します。名前付きパスワードを使用して、複数の方法をデモします。[37 ページのセクション 4.2 「使用する証明者の自動決定」](#) および [38 ページのセクション 4.3 「名前付きパスワードの使用」](#)を参照してください。

---

注：これらのサンプルの多くは、製品の配布時に nt/dirxml/drivers/lotusNotes/rules に配置されています。この中のいくつかは、サンプルのドライバ環境設定で使用されています。

---

## 4.7 Names.nsf 以外のデータベースの同期

ドライバを Notes ディレクトリ用のディレクトリ同期ドライバとしている場合でも、names.nsf 以外の Notes データベースを使用するようにドライバを設定できます。この場合、スキーママッピングポリシーがターゲットデータベースのスキーマに適合している必要があります。

## 4.8 スキーママッピングのタイプとフォーム

Notes の名前とアドレス帳では、各ドキュメントに [タイプ] フィールドと [フォーム] フィールドが含まれています。[タイプ] フィールドは、クラス名を指定することによって Notes 上で LDAP サーバをサポートします。[フォーム] フィールドは、ドキュメントの表示に使用される形式を示す、Notes の標準的なドキュメントフィールドです。フォーム項目は必須ではありません。フォームが存在しない場合、Notes クライアントはデフォルトのフォームを使用します。

Identity Manager では、複数のターゲットアプリケーションの属性に単一の DS 属性をマップすることはできません。つまり、スキーママッピングポリシーを使用して、オブジェクトクラスをフォームとタイプにマップできないということです。これに対処するため、ドライバ環境設定によって、ディレクトリデータベースが本当に Notes ディレクトリであるかどうかを確認されます。Notes ディレクトリである場合、DSEntry (Notes のネームスペースに変換されたもの) 上のクラス名が、タイプの値として使用されます。

DSAttribute オブジェクトの object-class 属性は、スキーママッピングポリシーで指定されている場合に、フォーム項目を更新するのに使用されます。これにより、タイプとフォー

ムに異なる値をマッピングをできるようにするほか、これらの属性の両方を設定できません。スキーママッピングポリシーには、eDirectory 属性とフォーム間のマッピングが含まれており、これは、eDirectory 属性のコンテンツを変換する場合に必要になります。この作業は出力変換ポリシーによって実行されます。逆にいえば、コンテンツを Notes ネームスペースから eDirectory ネームスペースに変換する場合には、入力変換ポリシーが使用されるということです。

ディレクトリソースが Notes ディレクトリでない場合、ドライバはタイプ項目を書き込まず、クラス名属性はフォーム項目に書き込まれます。フォーム項目がフィルタにある場合、ドライバおよび ndsrep はこれを無視します。

ドライバが Notes ディレクトリに対して設定されている場合、変換されたクラス名の値は Notes データベースのタイプ項目に書き込まれ、フォームはスキーママッピングポリシーに含められます。ドライバがディレクトリでない Notes データベースに対して設定されている場合、変換されたクラス名の値は Notes データベースのフォーム項目に書き込まれ、フォームはスキーママッピングポリシーに含められないおそれがあります。

## 4.9 移動 / 名前変更

移動と名前変更は、デフォルトの環境設定ではサポートされていないイベントです。ただし、デフォルトのスキーママップとデフォルトの発行者フィルタを変更して、ポリシーを追加した場合は、Notes 内の移動または名前変更のイベントを、発行者チャンネルを通じてアイデンティティボルトに同期させることができます。

また、Notes 6.0.3 以降を使用していて、AdminP サポートが有効で、必要な属性を提供するポリシーを追加した場合は、購読者チャンネルの移動または名前変更のイベントを同期させることができます。

- ◆ 79 ページのセクション 4.9.1 「購読者チャンネル」
- ◆ 81 ページのセクション 4.9.2 「発行者チャンネル」
- ◆ 81 ページのセクション 4.9.3 「AdminP を使用する場合の考慮事項」

### 4.9.1 購読者チャンネル

- ◆ 79 ページの 「ユーザの移動」
- ◆ 80 ページの 「eDirectory のユーザ名の変更 (Notes における名前変更イベント)」
- ◆ 80 ページの 「グループ名の変更」

#### ユーザの移動

- 1 Notes 6.0.3 以降を使用していることと、81 ページのセクション 4.9.3 「AdminP を使用する場合の考慮事項」の内容を確認します。
- 2 次のパラメータを、ドライバパラメータの購読者オプションに追加することにより、AdminP プロセスのサポートが有効になったことを確認します。

```
<allow-adminp-support display-name="Allow Domino AdminP Support">True</allow-adminp-support>
```

41 ページのセクション 4.4.2 「購読者オプション」の「Allow Domino AdminP Support」を参照してください。

3 次の属性を移動イベントに追加するためのドライバポリシーを作成します。

- ◆ Notes のターゲット証明者の名前。
- ◆ Notes のターゲット証明者の証明者 ID とパスワード ( ユーザの移動先の証明者 )
- ◆ Notes のソース証明者の古い証明者 ID とパスワード ( ユーザの移動元の証明者 )

ユーザを移動するドライバシムへのコマンド例は、[91 ページのセクション B.3 「ユーザの移動例」](#) で説明しています。

### eDirectory のユーザ名の変更 (Notes における名前変更イベント)

eDirectory でユーザの名前、ミドルイニシャル、または名字を変更すると、このイベントによって Lotus Notes のオブジェクトが名前変更されます。AdminP のサポートが有効になっている Notes 6.0.3 以降を使用している場合は、Notes で名前変更を実行できます。

- 1 Notes 6.0.3 以降を使用していることと、[81 ページのセクション 4.9.3 「AdminP を使用する場合の考慮事項」](#) の内容を確認してください。
- 2 次のパラメータを、ドライバパラメータの購読者オプションに追加することにより、AdminP プロセスのサポートが有効になったことを確認します。

```
<allow-adminp-support display-name="Allow Domino AdminP Support">True</allow-adminp-support>
```

[41 ページのセクション 4.4.2 「購読者オプション」](#) の「[Allow Domino AdminP Support](#)」を参照してください。

- 3 名前変更している Notes ユーザの正しい証明者とパスワードを提供するドライバポリシーを作成します。

証明者とパスワードがイベントに指定されていない場合、ドライバパラメータで指定されたデフォルトの証明者とパスワードが使用されます。

ユーザ名を変更するドライバシムへのコマンド例は、[90 ページのセクション B.2 「名前変更の例：ユーザの姓の変更」](#) で説明しています。

### グループ名の変更

AdminP のサポートが有効になっている Notes 6.0.3 以降を使用している場合は、グループ名を変更できます。eDirectory からのグループ名の変更イベントでは、ドライバポリシーを別に作成する必要はありません。

eDirectory からの名前変更イベントは、Notes 内のグループオブジェクトにのみ適用されます。(ユーザの場合は、[80 ページの「eDirectory のユーザ名の変更 \(Notes における名前変更イベント\)」](#) で説明されているように、ドライバシムが適切な変更イベントを使用することで、Notes 内のユーザ名を変更します)

- 1 Notes 6.0.3 以降を使用していることと、[81 ページのセクション 4.9.3 「AdminP を使用する場合の考慮事項」](#) の内容を確認してください。
- 2 次のパラメータを、ドライバパラメータの購読者オプションに追加することにより、AdminP プロセスのサポートが有効になったことを確認します。

```
<allow-adminp-support display-name="Allow Domino AdminP Support">True</allow-adminp-support>
```

41 ページのセクション 4.4.2 「購読者オプション」の「Allow Domino AdminP Support」を参照してください。

## 4.9.2 発行者チャネル

オブジェクト / 名前変更の同期を一方向で有効にするには、次の手順に従います。

- 1 スキーママッピングを変更して、eDirectory のフルネームを Notes の FullName にマップします
- 2 発行者フィルタのフルネーム属性を有効にします。
- 3 購読者フィルタのフルネーム属性が有効でないことを確認します。
- 4 ドライバ環境設定のパラメータで、パブリック / プライベート AB の設定が [はい] であることを確認します。
- 5 ドライバ環境設定で、35 ページのセクション 4.1 「Notes オブジェクトを移動したときの eDirectory オブジェクトの配置の決定」で説明されているようなポリシーを使用します。

これらの変更を行うと、ndsrep が FullName への変更を検出します。フルネームには名前と場所情報が 1 つの属性として格納されるため、ndsrep は移動と名前変更を区別できません。そのため、フルネームを変更すると、移動と名前変更の両方のイベントが開始され、eDirectory へ同期されます。

## 4.9.3 AdminP を使用する場合の考慮事項

AdminP はいくつかの新機能をサポートしていますが、これらを効果的に使用するには、次の点に注意する必要があります。

- ◆ AdminP と Notes 管理について理解する必要があります。
- ◆ AdminP の要求に関する成功メッセージがドライバに返されても、その要求が AdminP によって正常に受信されたことを示しているだけで、正常に完了したことを示しているわけではありません。
- ◆ ドライバによって実行された AdminP の要求は、AdminP がそのアクションを試みるまでは完了しません。このタイミングは、Notes 管理者がどのように管理プロセスを設定したか、Domino サーバネットワーク、および要求されたアクションの複雑さによって異なります。
- ◆ AdminP の要求の中には、その要求が完了する前に Notes 管理者による手動の承認が必要なものもあります。
- ◆ AdminP の要求には通常、Notes ユーザの FullName (またはグループの ListName) が含まれています。ドライバは、要求の開始時にユーザの FullName に基づいて要求を送信しますが、AdminP はその要求をただちに完了する必要はないため、同じユーザオブジェクトの FullName に影響を与える別の要求が処理を待っている場合があります。ユーザの FullName が要求によって変更されると、後に続く要求は、AdminP がそのユーザを検索できないためにエラーになるおそれがあります。

例として、次のシナリオを考えてみます。

- ◆ Notes ユーザの名を変更するため、ドライバから要求を送信し、AdminP 機能を使用してユーザオブジェクトの名前も変更します (FullName の変更)。
- ◆ 同じ Notes ユーザの姓を変更するため、ドライバから 2 つめの要求をすぐに送信し、ユーザオブジェクトの名前も変更します (FullName の変更)。

両方の要求が AdminP によって受信されます。2つの要求は同じ FullName を持つユーザに関するものです。夜間に、AdminP が要求の処理を開始します。最初の要求は成功しました。しかし、2つめの要求は失敗します。FullName が最初の要求で変更されたためです。

AdminP を効果的に使用するには、次の機能を役立ててください。

- ◆ ドライバから Domino コンソールにコマンドを直接送信することができます。たとえば、すべての AdminP の要求をただちに処理するコマンドを発行できます。49 ページのセクション 4.5 「カスタムドライバパラメータ」の 82 ページのセクション 4.10 「AdminP コマンドの指定」、および「Domino Console Command」を参照してください。
- ◆ AdminP のサポートは、各コマンドごとに有効または無効にできます。49 ページのセクション 4.5 「カスタムドライバパラメータ」の「Allow AdminP Support」を参照してください。

## 4.10 AdminP コマンドの指定

ドライバが Domino AdminP プロセスへの要求を発行しても、これらの要求を AdminP プロセスが完了するまでには時差があります。(管理プロセスの実行間隔については、Notes のマニュアルを参照してください)

必要に応じて、<tell-adminp-process> 属性をイベントに追加できます。実行する必要がある AdminP タスクがイベントに含まれる場合、指定したコマンドが Domino サーバのコンソールに送信されます。この属性については、49 ページのセクション 4.5 「カスタムドライバパラメータ」の「Domino Console Command」で説明されています。

たとえば、ユーザの移動イベントを送信する場合は、次の属性を移動イベントに含めます。

```
tell-adminp-process="tell adminp process new"
```

このコマンド例では、ドライバによって、AdminP プロセスが新しいタスクをすべて処理するように要求されます。これらのタスクには、そのイベントで要求された移動が含まれます。

tell-adminp-process コマンドを使用するには、次の手順に従います。

- 1 Notes 6.0.3 以降を使用していることを確認します。
- 2 次のパラメータを、ドライバパラメータの購読者オプションに追加することにより、AdminP プロセスのサポートが有効になったことを確認します。

```
<allow-adminp-support display-name="Allow Domino AdminP Support">True</allow-adminp-support>
```

41 ページのセクション 4.4.2 「購読者オプション」の「Allow Domino AdminP Support」を参照してください。

- 3 ドライバに対し、Notes ユーザが Domino サーバコンソールへコマンドを送信する権利を持っていることを確認します。
- 4 イベントに AdminP タスクが含まれていることを確認します。

tell-adminp-process コマンドは、AdminP タスクがイベントの一部として実行される必要がある場合にのみ送信されます。

**5** 正しいシンタックスを使用します。

tell-adminp-process コマンドの使用例は、**89 ページの付録 B 「新機能のサンプル」**で説明されています。

**6** AdminP の要求が正常に完了したかどうかを確認するには、Domino Administrator などの Lotus Notes ツールを使用します。

Notes ドライバシムによって AdminP の要求に関するコマンドが実施されても、そのコマンドが正常に完了したとは限りません。その要求が AdminP に実施されたということの意味しているにすぎません。

たとえば、ドライバがユーザの移動を AdminP へ要求したとします。そのイベントに正しい証明者が指定されていなければ、AdminP プロセスが移動を試みても失敗してしまいます。



# Movecfg.exe ユーティリティの使用

# A

movecfg.exe ユーティリティは Windows コンソールのコマンドラインユーティリティで、Lotus Notes 用 Identity Manager ドライバ 1.x をバージョン 2.2 へアップグレードする場合に使用します。Identity Manager のインストール時に、ユーティリティのインストールオプションを選択すると、インストールされます。

movecfg.exe ユーティリティは、Lotus Notes 用 Identity Manager ドライバ 1.x のパラメータを、Windows レジストリからアイデンティティボルトの Lotus Notes 用 Identity Manager ドライバ 2.2 のパラメータの場所へ移動するのに使用します。

複数の ndsrep インスタンスがある場合、-ndsrep パラメータを使用して、各インスタンスに対して movecfg.exe を実行する必要があります。

Lotus Notes 用 Identity Manager ドライバのバージョン 2.2 の場合は、ndsrep の Domino アドインプロセスが、Lotus Notes データベース (dsrepcfg.nsf) から環境設定パラメータを読み込みます。バージョン 2.0 以前では、これらのパラメータは Windows レジストリ (\HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\VRD\DOMINO) に格納されていました。

このユーティリティは、必要なパラメータを、Windows レジストリからアイデンティティボルト内の Lotus Notes ドライバオブジェクト (アップグレード対象) へ移動しようとしています。また、レジストリに格納された ndsrep の LastEventTimeStamp を、Lotus Notes データベース (dsrepcfg.nsf) へ配置しようとしています。LastEventTimeStamp はアイデンティティボルト内のドライバパラメータとしては保存されません。そのため、ndsrep 環境設定データベース (dsrepcfg.nsf) に直接配置されます。

86 ページのセクション A.2 「バッチファイルの使用例」で例示されているように、バッチファイルを使用することもできます。

- ◆ 85 ページのセクション A.1 「前提条件」
- ◆ 86 ページのセクション A.2 「バッチファイルの使用例」
- ◆ 87 ページのセクション A.3 「Movecfg.exe ユーティリティの使用」
- ◆ 88 ページのセクション A.4 「トラブルシューティング」

---

注：このユーティリティは、各国語にはローカライズされていません。ドライバにインポートされるパラメータは、すべて英語で説明されています。

---

## A.1 前提条件

- ◆ Identity Manager ユーティリティがインストールされている。movecfg.exe ユーティリティは、Identity Manager 3 のインストール時に [ユーティリティ] オプションを選択するとインストールされます。Identity Manager のインストール時にインストールしなかった場合は、Identity Manager のインストールプログラムに戻って、ユーティリティのインストールだけを選択するか、または movecfg.exe を Identity\_Manager\_3\_Linux\_NW\_Win.iso CD の Utilities ディレクトリからダウンロードします。

- ◆ movecfg.exe は Domino サーバから実行する。movecfg.exe ユーティリティは、ndsrep を実行するのと同じ Domino サーバから実行する必要があります。
- ◆ Domino サーバがアクティブである。Domino サーバが起動していて、サービスを実行中である必要があります。
- ◆ eDirectory に対し、LDAP によるアクセスが必要である。(LDAP 形式の) ユーザ名とパスワードがパラメータとして movecfg に渡される必要があります。パスワードが渡されない場合、movecfg により、入力が求められます。パスワードは暗号化されません。そのため、LDAP サーバがパスワードを受け入れるためにはクリアテキストで入力する必要があります。そうでない場合、LDAP サーバはバインドされません。
- ◆ Lotus Notes ID ファイルのパスワード。movecfg ユーティリティが ndsrep 環境設定データベース (dsrepcfg.nsf) を作成 (または更新) しようとするときは、このコンピュータから Domino サーバ (またはクライアント) へ最後にアクセスした Notes ID ファイルの Lotus Notes パスワードが求められます (Notes ID ファイルは notes.ini ファイルから参照されます)。このパスワードが正確に入力されると、ndsrep 環境設定データベース (dsrepcfg.nsf) が、レジストリ内の ndsrep 環境設定からコピーされた LastEventTimeStamp で適切に更新されます。movecfg.exe によって dsrepcfg.nsf が初期作成されるには、dsrepcfg.ntf (Lotus Notes 用 Identity Manager ドライバ 2.2 に付属) が Domino サーバ (c:\Lotus\Domino\Data\dsrepcfg.ntf) で使用できる必要があります。
- ◆ 複数の Lotus Notes ドライバインスタンス。同じ Domino サーバに接続された Lotus Notes ドライバが複数ある場合は、movecfg.exe を、変換対象の Lotus Notes ドライバの各インスタンスに対して 1 度ずつ実行する必要があります。デフォルトのドライバパラメータでない (2 つめ、3 つめ、4 つの Notes ドライバパラメータなど) Lotus Notes ドライバのパラメータを変換するには、-ndsrep パラメータを使用する必要があります。

## A.2 バッチファイルの使用例

movecfg.exe ユーティリティは、次に示すようなバッチファイルを使用して実行することができます。

```
@echo off REM
*****
***** REM REM Name:MoveCfg1to2.bat
REM Description:Sample batch file to demonstrate the usage and launch
parameters of movecfg.exeREM See movecfg.txt for descriptions of
movecfg.exe usage parametersREM
[XXX]REM Copyright (C) 2003-2004 Novell, Inc., All Rights
ReservedREMREM
*****
***** setlocal

REM echo on

REM SAMPLE CALL 1 call movecfg.exe -host server.acme.com -port 389 -
edir-dn cn=admin,o=acme -edir-pwd acmePass -driverDN
cn=NotesDriver,cn=DriverSet1,o=acme -noteSvr cn=Domino1/o=acme -
timeout 15

REM SAMPLE Call 2:When converting a second or third Notes driver on the
same machine, use the -ndsrep parameterREM call movecfg.exe -host
server.acme.com -port 389 -edir-dn cn=admin,o=acme -edir-pwd acmePass
-driverDN cn=Notes2Driver,cn=DriverSet1,o=acme -noteSvr cn=Domino1/
```

```
o=acme -timeout 15 -ndsrep Notes2Driver
```

## A.3 Movecfg.exe ユーティリティの使用

movecfg.exe ユーティリティでは、次のパラメータを使用できます。

```
movecfg -host <ldap host name/address> -port <port number> -edir-dn  
<login dn> -edir-pwd <password> -driverDN <driverDN> -noteSvr <Domino  
Server Name> [-ndsrep] <NDSREP instance name> [-timeout] <timeout> [-  
f] <ndsrep config db>
```

例：

```
movecfg -host ldapsvr.mycompany.com -port 389 -edir-dn  
cn=admin,o=MyOrg -edir-pwd secret -driverDN  
cn=myDriver,cn=MyOrgUnit,O=MyOrg -noteSvr CN=MyDomino/O=MyOrg
```

表 A-1 Movecfg ユーティリティのパラメータとその説明

パラメータ名	必須またはオプション	説明
-host <LDAP ホスト名 / アドレス >	必須	アイデンティティボールドサーバの LDAP ホストの DNS ホスト名、または IP アドレスです。
-port < ポート番号 >	オプション	-host パラメータで指定された LDAP ホストの LDAP ポートです。 デフォルト = 389
-edir-dn < ログイン DN >	必須	ドライバ設定を更新するアイデンティティボールドユーザの完全修飾された LDAP 識別名です。LDAP 形式で指定する必要があります。 例：cn=DirXMLAdmin,cn=eng,o=acme
-edir-pwd < パスワード >	オプション	-edir-dn ログインオブジェクトで指定されたユーザオブジェクトに一致するパスワードです。パスワードが指定されていない場合、パスワードの入力プロンプトが表示されます。
-driverDN < ドライバ DN >	必須	パラメータを更新する必要があるドライバの完全修飾された LDAP 識別名です。LDAP 形式で指定する必要があります。 例： cn=NotesDriver1,cn=DirXMLDriverSet,o=acme
-noteSvr < Domino サーバ名 >	必須	Domino サーバの名前です。 例：cn=NoteSrv/o=acme

パラメータ名	必須またはオプション	説明
<code>[-ndsrep] &lt;NDSREP インスタンス名 &gt;</code>	オプション	<code>ndsrep</code> 環境設定データベース ( <code>dsrepcfg.nsf</code> ) に保存されるドライバ環境設定インスタンスの名前です。デフォルトでは、ドライバ ( <code>NotesDriver1</code> など) の相対識別名に設定されます。
<code>[-timeout] &lt;タイムアウト値 &gt;</code>	オプション	LDAP ホストに接続して通信を試みる際のタイムアウト値です。
<code>[-f] &lt;ndsrep 環境設定データベース &gt;</code>	オプション	<code>ndsrep</code> 環境設定データベースの名前です。 デフォルト = <code>dsrepcfg.nsf</code>

## A.4 トラブルシューティング

`movecfg` ユーティリティで、古い Lotus Notes ドライバの設定を更新できなかった場合は、次のプロセスを手動で試してください。

- 1 `ndsrep` を実行する Domino サーバをシャットダウンします。
- 2 更新対象の Lotus Notes 用 Identity Manager ドライバをシャットダウンします。
- 3 次のテキストをこのマニュアルからコピーし、Lotus Notes ドライバ環境設定の `<publisher-options>` セクションに貼り付けます。

```
<publisher-options> <polling-interval display-name="Polling Interval (in seconds)">30</polling-interval> <loop-detect-flag display-name="Enable Loop Back Detection">Yes</loop-detect-flag> <schedule-units display-name="NDSREP Schedule Units">SECONDS</schedule-units> <schedule-value display-name="NDSREP Schedule Value">30</schedule-value> <dn-format display-name="DNFormat">SLASH</dn-format> <check-attrs-flag display-name="Check Attributes?">Yes</check-attrs-flag> <write-timestamps-flag display-name="Write Time Stamps?">No</write-timestamps-flag> </publisher-options>
```

- 4 Windows の `Regedit` ユーティリティを使用して、各 `ndsrep` 環境設定値を表示します。`regedit` のキー値は、`\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\VRD\DOMINO` にあります。  
新しい Lotus Notes ドライバの `publisher-options` の設定値を、Windows レジストリに格納された対応する値と一致するように更新します。
- 5 Lotus Notes ドライバと Domino サーバを起動します。

# 新機能のサンプル

本ドライバは、削除、移動および名前変更などの AdminP プロセスの使用に対応しています。これらの機能を使用するには、Notes 6.0.3 以降を使用していて、ドライバの AdminP サポートを有効にし、(41 ページのセクション 4.4.2 「購読者オプション」の「Allow Domino AdminP Support」を参照) ドライバポリシーを変更する必要があります。

本ドライバは Domino サーバコンソールへのコマンド送信もサポートしています。

この章では、メタディレクトリエンジンによって生成されたイベントの例、およびドライバシムに送信する必要があるコマンドについて示します。ポリシーのサンプルは示しませんが、これらの例には、イベントの変換方法、およびポリシーで指定する必要がある属性が示されています。

詳細については、79 ページのセクション 4.9 「移動 / 名前変更」 および 82 ページのセクション 4.10 「AdminP コマンドの指定」を参照してください。

- ◆ 89 ページのセクション B.1 「ユーザの追加例」
- ◆ 90 ページのセクション B.2 「名前変更の例: ユーザの姓の変更」
- ◆ 91 ページのセクション B.3 「ユーザの移動例」
- ◆ 92 ページのセクション B.4 「ユーザの削除例」
- ◆ 93 ページのセクション B.5 「Domino サーバコンソールへのコマンドの送信例」
- ◆ 94 ページのセクション B.6 「複製 (Rep) 属性タグ」
- ◆ 98 ページのセクション B.7 「ACL エントリタグの例」
- ◆ 101 ページのセクション B.8 「Lotus Notes のフィールドフラグの設定と変更」

## B.1 ユーザの追加例

この節では、アイデンティティボールドにユーザ John Doe を作成するときのイベントのサンプルを示します。

- ◆ 89 ページのセクション B.1.1 「メタディレクトリエンジンによって生成された追加イベント」
- ◆ 90 ページのセクション B.1.2 「Notes ドライバシムによって受信された追加イベント」

### B.1.1 メタディレクトリエンジンによって生成された追加イベント

```
<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product
version="2.0.5.38 ">DirXML</product> <contact>Novell, Inc.</contact>
</source> <input> <add class-name="User" event-id="MYSERVER-
NDS#20040603175534#1#1" qualified-src-
dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=sales\CN=John Doe" src-
dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\sales\John Doe" src-entry-id="38727">
<association state="pending"></association> <add-attr attr-name="CN">
<value naming="true" timestamp="1086285300#20" type="string">John
Doe</value> </add-attr> <add-attr attr-name="Surname"> <value
```

```
timestamp="1086285300#3" type="string">Doe</value> </add-attr> <add-attr attr-name="Given Name"> <value timestamp="1086285334#1" type="string">John</value> </add-attr> </add> </input> </nds>
```

## B.1.2 Notes ドライバシムによって受信された追加イベント

```
<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product version="2.0.5.38">Identity Manager</product> <contact>Novell, Inc.</contact> </source> <input> <add expire-term="5" certify-user="Yes" class-name="Person" create-mail="Yes" dest-dn="cn=John Doe/ou=sales/o=dirxml" drv-param-cert-id="sales-cert-id-file" drv-param-cert-pwd="sales-cert-id-password" enforce-unique-short-name="No" event-id="MYSERVER-NDS#20040603175534#1#1" internet-password-force-change="Yes" mail-acl-level="MANAGER" mail-acl-manager-name="CN=Notes Driver/O=dirxml" mail-file-quota="120000" mail-quota-warning-threshold="100000" notes-password-change-interval="100" notes-password-check-setting="PWD_CHK_CHECKPASSWORD" notes-password-grace-period="5" notes-policy-name="/EmployeePolicy" qualified-src-dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=sales\CN=John Doe" roaming-cleanup-period="90" roaming-cleanup-setting="REG_ROAMING_CLEANUP_EVERY_NDAYS" roaming-server="cn=myserver/o=dirxml" roaming-subdir="Roaming\JohnDoe" roaming-user="Yes" src-dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\sales\John Doe" src-entry-id="38727" sync-internet-password="Yes"> <add-attr attr-name="FullName"> <value naming="true" timestamp="1086285300#20" type="string">John Doe</value> </add-attr> <add-attr attr-name="LastName"> <value timestamp="1086285300#3" type="string">Doe</value> </add-attr> <add-attr attr-name="FirstName"> <value timestamp="1086285334#1" type="string">John</value> </add-attr> <add-attr attr-name="InternetAddress"> <value>John.Doe@dirxml.com</value> </add-attr> </add> </input> </nds>
```

## B.2 名前変更の例：ユーザの姓の変更

この節では、アイデンティティボールドのユーザの姓を、Doe から Doerr に変更するときのイベントのサンプルを示します。詳細については、「[79 ページのセクション 4.9 「移動/名前変更」](#)」を参照してください。

- ◆ [90 ページのセクション B.2.1 「メタディレクトリエンジンによって生成された変更イベント」](#)
- ◆ [91 ページのセクション B.2.2 「Notes ドライバシムによって受信された変更イベント」](#)

### B.2.1 メタディレクトリエンジンによって生成された変更イベント

```
<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product version="2.0.5.38 ">Identity Manager</product> <contact>Novell, Inc.</
```

```

contact> </source> <input> <modify class-name="User" event-
id="MYSERVER-NDS#20040603175500#1#3" qualified-src-
dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=sales\CN=John Doe" src-
dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\sales\John Doe" src-entry-id="38727"
timestamp="1086291578#2"> <association
state="associated">BB888BB0C35D13EC87256EA8006296CE</association>
<modify-attr attr-name="Surname"> <remove-value> <value
timestamp="1086285300#3" type="string">Doe</value> </remove-value>
<add-value> <value timestamp="1086291578#2" type="string">Doerr</
value> </add-value> </modify-attr> </modify> </input> </nds>

```

## B.2.2 Notes ドライバシムによって受信された変更イベント

```

<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product
version="2.0.5.38 ">Identity Manager</product> <contact>Novell, Inc.</
contact> </source> <input> <modify class-name="Person" drv-param-cert-
id="sales-cert-id-file"                drv-param-cert-pwd="sales-cert-
id-password" event-id="MYSERVER-NDS#20040603175500#1#3" qualified-
src-dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=sales\CN=John Doe" src-
dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\sales\John Doe" src-entry-id="38727"
tell-adminp-process="tell adminp process all"
timestamp="1086291578#2"> <association
state="associated">BB888BB0C35D13EC87256EA8006296CE</association>
<modify-attr attr-name="LastName"> <remove-value> <value
timestamp="1086285300#3" type="string">Doe</value> </remove-value>
<add-value> <value timestamp="1086291578#2" type="string">Doerr</
value> </add-value> </modify-attr> </modify> </input> </nds>

```

## B.3 ユーザの移動例

この節では、eDirectory™ 内の John Doerr を OU=sales から OU=mktg に移動するときのイベントのサンプルを示します。詳細については、「79 ページのセクション 4.9 「移動/名前変更」」を参照してください。

- ◆ 91 ページのセクション B.3.1 「メタディレクトリエンジンによって生成された移動イベント」
- ◆ 92 ページのセクション B.3.2 「Notes ドライバシムによって受信された移動イベント」

### B.3.1 メタディレクトリエンジンによって生成された移動イベント

```

<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product
version="2.0.5.38 ">Identity Manager</product> <contact>Novell, Inc.</
contact> </source> <input> <move class-name="User" event-
id="MYSERVER-NDS#20040603175500#1#1" old-src-
dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\sales\John Doerr"
qualified-old-src-

```

```
dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=sales\CN=John Doerr"
```

```
qualified-src-  
dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=mktg\CN=John Doerr" src-  
dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\mktg\John Doerr" src-entry-id="38727"  
timestamp="1086285300#1"> <association  
state="associated">BB888BB0C35D13EC87256EA8006296CE</association>  
<parent qualified-src-dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=mktg" src-  
dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\mktg" src-entry-id="36691"/> </move> </  
input> </nds>
```

### B.3.2 Notes ドライバシムによって受信された移動イベント

```
<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product  
version="2.0.5.38 ">Identity Manager</product> <contact>Novell, Inc.</  
contact> </source> <input> <move certifier-name="/mktg/dirxml"  
class-name="Person" drv-param-cert-id="mktg-cert-id-file"  
drv-param-cert-pwd="mktg-cert-id-password" drv-param-old-  
cert-id="sales-cert-id-file" drv-param-old-cert-pwd="sales-  
cert-id-password" event-id="MYSERVER-NDS#20040603175500#1#1" old-src-  
dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\sales\John Doerr" qualified-old-src-  
dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=sales\CN=John Doerr" qualified-src-  
dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=mktg\CN=John Doerr" src-  
dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\mktg\John Doerr" src-entry-id="38727"  
tell-adminp-process="tell adminp process all"  
timestamp="1086285300#1"> <association  
state="associated">BB888BB0C35D13EC87256EA8006296CE</association>  
<parent qualified-src-dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=mktg" src-  
dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\mktg" src-entry-id="36691"/> </move> </  
input> </nds>
```

## B.4 ユーザの削除例

この節では、eDirectory から John Doerr を削除するときのイベントのサンプルを示します。

- ◆ 92 ページのセクション B.4.1 「メタディレクトリエンジンによって生成された削除イベント」
- ◆ 93 ページのセクション B.4.2 「Notes ドライバシムによって受信された削除イベント」

### B.4.1 メタディレクトリエンジンによって生成された削除イベント

```
<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product  
version="2.0.5.38 ">Identity Manager</product> <contact>Novell, Inc.</  
contact> </source> <input> <delete class-name="User" event-  
id="MYSERVER-NDS#20040603195215#1#6" qualified-src-
```

```
dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=mktg\CN=John Doerr" src-  
dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\mktg\John Doerr" src-entry-id="38727"  
timestamp="1086292335#6"> <association  
state="associated">BB888BB0C35D13EC87256EA8006296CE</association> </  
delete> </input> </nds>
```

## B.4.2 Notes ドライバシムによって受信された削除イベント

```
<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product  
version="2.0.5.38 ">Identity Manager</product> <contact>Novell, Inc.</  
contact> </source> <input> <delete class-name="Person" delete-  
windows-user="false" deny-access-group-  
id="7EFB951A3574521F87256E540001F140" event-id="MYSERVER-  
NDS#20040603195215#1#6" immediate="true" mail-file-  
action="MAILFILE_DELETE_ALL" qualified-src-  
dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=mktg\CN=John Doerr" src-  
dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\mktg\John Doerr" src-entry-id="38727"  
tell-adminp-process="tell adminp process all"  
timestamp="1086292335#6"> <association  
state="associated">BB888BB0C35D13EC87256EA8006296CE</association> </  
delete> </input> </nds>
```

## B.5 Domino サーバコンソールへのコマンドの送信例

この節では、ドライバの機能を使用して、Domino サーバコンソールへコマンド送信して応答を受信する例を示します。

- ◆ 93 ページのセクション B.5.1「ドライバシムによって受信された Domino コンソールコマンド」
- ◆ 93 ページのセクション B.5.2「Notes ドライバシムによって返されたコマンド応答」

### B.5.1 ドライバシムによって受信された Domino コンソールコマンド

```
<nds dtdversion="1.0" ndsversion="8.5" xmlns:notes="http://  
www.novell.com/dirxml/notesdriver"> <input> <notes:domino-console-  
command event-id="0">show server -xml</notes:domino-console-command>  
</input> </nds>
```

### B.5.2 Notes ドライバシムによって返されたコマンド応答

応答が 32000 文字を超えると、超えた部分は切り捨てられます。

```
<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x" xmlns:notes="http://
```

```

www.novell.com/dirxml/notesdriver"> <source> <product
build="20040602_1644" instance="NotesDriver" version="2.1">Identity
Manager Driver for Lotus Notes</product> <contact>Novell, Inc.</
contact> </source> <output> <notes:domino-console-response event-
id="0"> <server platform="Windows/32" time="20040603T141140,48-06"
version="Release 6.5"> <name>myserver/dirxml</name> <title>MyServer
Domino Server</title> <directory>C:\Lotus\Domino\Data</directory>
<partition>C.Lotus.Domino.Data</partition> <uptime days="6" hours="1"
minutes="52" seconds="38"/> <transactions hour="80" minute="2"
peak="3614"/> <sessions peaknumber="5" peaktime="20040528T130914,23-
06"/> <transactions count="35797" maxconcurrent="20"/> <threadpool
threads="40"/> <availability index="100" state="AVAILABLE"/>
<mailtracking enabled="0" state="Not Enabled"/> <mailjournalling
enabled="0" state="Not Enabled"/> <sharedmail enabled="0" state="Not
Enabled"/> <mailboxes number="1"/> <mail dead="0" pending="0"/> <tasks
waiting="0"/> <transactionlogging enabled="0"/> <hosting enabled="0"/>
<faultrecovery enabled="0" state="Not Enabled"/> <activitylogging
enabled="0" state="Not Enabled"/> <controller enabled="0" state="Not
Enabled"/>

<diagnosticdirectory>C:\Lotus\Domino\Data\IBM_TECHNICAL_SUPPORT</
diagnosticdirectory> <consolelogging enabled="0" state="Not Enabled"/>

<consolelogfile>C:\Lotus\Domino\Data\IBM_TECHNICAL_SUPPORT\console.log
</consolelogfile> </server> </notes:domino-console-response> <status
event-id="0" level="success"/> </output> </nds>

```

## B.6 複製 (Rep) 属性タグ

- ◆ 94 ページのセクション B.6.1 「データベース複製の追加イベントのポリシールール」
- ◆ 95 ページのセクション B.6.2 「シムに送信されるときのメールファイルデータベースの複製属性タグ」
- ◆ 96 ページのセクション B.6.3 「変更イベントのポリシールール ( サンプル )」
- ◆ 97 ページのセクション B.6.4 「シムに送信されるときの変更イベントの属性タグ」

### B.6.1 データベース複製の追加イベントのポリシールール

次に示すのは、メールファイルを新規に作成する代わりに、データベースの複製パラメータを送信するための、追加イベントのポリシールール ( サンプル ) です。

```

<rule> <description>Add User E-Mail:Mail File Replication Settings</
description> <conditions> <and> <if-operation op="equal">add</if-
operation> <if-class-name mode="nocase" op="equal">User</if-class-
name> </and> </conditions> <actions> <do-set-xml-attr expression="../
add" name="mailfile-rep-new-server"> <arg-string> <token-text
xml:space="preserve">CN=server1/0=novell</token-text> </arg-string> </
do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add" name="mailfile-
rep-new-db-name"> <arg-string> <token-text>mail/daffyduck_rep1.nsf</
token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr
expression="../add" name="mailfile-rep-dest-server"> <arg-string>

```

```

<token-text xml:space="preserve">CN=server1/O=novell</token-text> </
arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add"
name="mailfile-rep-priority"> <arg-string> <token-text>LOW</token-
text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr
expression="../add" name="mailfile-rep-src-server"> <arg-string>
<token-text xml:space="preserve">CN=server2/O=novell</token-text> </
arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add"
name="mailfile-rep-include-acl"> <arg-string> <token-text>true</token-
text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr
expression="../add" name="mailfile-rep-include-agents"> <arg-string>
<token-text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-
set-xml-attr expression="../add" name="mailfile-rep-include-
documents"> <arg-string> <token-text>true</token-text> </arg-string>
</do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add"
name="mailfile-rep-include-forms"> <arg-string> <token-text>true</
token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr
expression="../add" name="mailfile-rep-include-formulas"> <arg-string>
<token-text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-
set-xml-attr expression="../add" name="mailfile-rep-view-list"> <arg-
string> <token-text
xml:space="preserve">Inbox;Sent;Calendar;Meetings</token-text> </arg-
string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add"
name="mailfile-rep-cutoff-interval"> <arg-string> <token-text>240</
token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr
expression="../add" name="mailfile-rep-dont-send-local-security-
updates"> <arg-string> <token-text>false</token-text> </arg-string> </
do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add" name="mailfile-
rep-abstract"> <arg-string> <token-text>false</token-text> </arg-
string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add"
name="mailfile-rep-cutoff-delete"> <arg-string> <token-text>false</
token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr
expression="../add" name="mailfile-rep-disabled"> <arg-string> <token-
text>false</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-
attr expression="../add" name="mailfile-rep-ignore-deletes"> <arg-
string> <token-text>false</token-text> </arg-string> </do-set-xml-
attr> <do-set-xml-attr expression="../add" name="mailfile-rep-ignore-
dest-deletes"> <arg-string> <token-text>false</token-text> </arg-
string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add"
name="mailfile-rep-clear-history"> <arg-string> <token-text>false</
token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr
expression="../add" name="mailfile-rep-entry-remove"> <arg-string>
<token-text>false</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-
set-xml-attr expression="../add" name="mailfile-rep-immediate"> <arg-
string> <token-text>CN=server1/O=novell</token-text> </arg-string> </
do-set-xml-attr> </actions> </rule>

```

## B.6.2 シムに送信されるときメールファイルデータベースの複製属性タグ

次に示すのは、メールファイルデータベースの複製属性タグが追加イベントに含まれた状態で、Notes ドライブシムに送信される場合の例です。このサンプルでは、新しい Notes

ユーザに作成されたメールファイルの複製設定を変更し、サーバ CN=server1/O=novell 上にレプリカも作成します。

```
<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product
version="2.0.8.20050127 ">Identity Manager</product> <contact>Novell,
Inc.</contact> </source> <input> <addcertify-user="true" class-
name="Person" create-mail="true" dest-dn="CN=DaffyDuck/OU=eng/
O=novell" drv-param-cert-id="eng-cert-id-file" drv-param-cert-
pwd="eng-cert-id-password" event-id="BLACKCAP-NDS#20050331215122#1#1"
mail-acl-manager-name="CN=Notes Driver/O=novell" mailfile-rep-
abstract="false" mailfile-rep-clear-history="false" mailfile-rep-
cutoff-delete="false" mailfile-rep-cutoff-interval="240" mailfile-rep-
dest-server="CN=server1/O=novell" mailfile-rep-disabled="false"
mailfile-rep-dont-send-local-security-updates="false" mailfile-rep-
entry-remove="false" mailfile-rep-ignore-deletes="false" mailfile-rep-
ignore-dest-deletes="false" mailfile-rep-immediate="CN=server1/
O=novell" mailfile-rep-include-acl="true" mailfile-rep-include-
agents="true" mailfile-rep-include-documents="true" mailfile-rep-
include-forms="true" mailfile-rep-include-formulas="true" mailfile-
rep-new-db-name="mail/daffyduck_rep1.nsf" mailfile-rep-new-
server="CN=server1/O=novell" mailfile-rep-priority="LOW" mailfile-rep-
src-server="CN=server2/O=novell" mailfile-rep-view-
list="Inbox;Sent;Calendar;Meetings" qualified-src-
dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=eng\CN=DaffyDuck" src-
dn="\novell_tree\DirXML\Notes\Users\eng\DaffyDuck" src-entry-
id="40729" timestamp="1112305882#22"> <add-attr attr-name="FullName">
<value timestamp="1112305882#22" type="string">DaffyDuck</value> </
add-attr> <add-attr attr-name="LastName"> <value
timestamp="1112305882#7" type="string">Duck</value> </add-attr> <add-
attr attr-name="FirstName"> <value timestamp="1112305882#5"
type="string">Daffy</value> </add-attr> <add-attr attr-
name="InternetAddress"> <value>DaffyDuck@novell.com</value> </add-
attr> </add> </input> </nds>
```

### B.6.3 変更イベントのポリシールール ( サンプル )

データベースの複製パラメータを送信する変更イベントのポリシールール ( サンプル ) です。

```
<rule> <description>Modify Group - Apply Database Replication
Parameters</description> <conditions> <and> <if-operation
op="equal">modify</if-operation> <if-class-name mode="nocase"
op="equal">Group</if-class-name> </and> </conditions> <actions> <do-
set-xml-attr expression="../modify" name="rep-dest-server"> <arg-
string> <token-text xml:space="preserve">CN=server1/O=novell</token-
text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr
expression="../modify" name="rep-priority"> <arg-string> <token-
text>HIGH</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-
attr expression="../modify" name="rep-src-server"> <arg-string>
<token-text xml:space="preserve">CN=server2/O=novell</token-text> </
arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../modify"
name="rep-include-acl"> <arg-string> <token-text>true</token-text> </
```

```

arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../modify"
name="rep-include-agents"> <arg-string> <token-text>>true</token-text>
</arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../
modify" name="rep-include-documents"> <arg-string> <token-text>>true</
token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr
expression="../modify" name="rep-include-forms"> <arg-string> <token-
text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-
attr expression="../modify" name="rep-include-formulas"> <arg-string>
<token-text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-
set-xml-attr expression="../modify" name="rep-view-list"> <arg-string>
<token-text xml:space="preserve">People;People By
Category;Groups;Groups By Category</token-text> </arg-string> </do-
set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../modify" name="rep-
cutoff-interval"> <arg-string> <token-text>240</token-text> </arg-
string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../modify"
name="rep-dont-send-local-security-updates"> <arg-string> <token-
text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-
attr expression="../modify" name="rep-abstract"> <arg-string> <token-
text>false</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-
attr expression="../modify" name="rep-cutoff-delete"> <arg-string>
<token-text>false</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-
set-xml-attr expression="../modify" name="rep-disabled"> <arg-string>
<token-text>false</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-
set-xml-attr expression="../modify" name="rep-ignore-deletes"> <arg-
string> <token-text>false</token-text> </arg-string> </do-set-xml-
attr> <do-set-xml-attr expression="../modify" name="rep-ignore-dest-
deletes"> <arg-string> <token-text>false</token-text> </arg-string> </
do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../modify" name="rep-
clear-history"> <arg-string> <token-text>false</token-text> </arg-
string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../modify"
name="rep-entry-remove"> <arg-string> <token-text>false</token-text>
</arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../
modify" name="rep-immediate"> <arg-string> <token-text>CN=server1/
O=novell</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> </actions> </
rule>

```

## B.6.4 シムに送信される時の変更イベントの属性タグ

データベースの複製属性タグが変更イベントに含まれた状態で、Notes ドライバシムに送信される場合の例です。このサンプルでは、同期対象の .nsf データベース (この場合は names.nsf) を変更します。

```

<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product
version="2.0.8.20050127 ">Identity Manager</product> <contact>Novell,
Inc.</contact> </source> <input> <modify class-name="Group" event-
id="BLACKCAP-NDS#20050401191642#1#1" qualified-src-
dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Groups\CN=Engineering" rep-abstract="false"
rep-clear-history="false" rep-cutoff-delete="false" rep-cutoff-
interval="240" rep-dest-server="CN=server1/O=novell" rep-
disabled="false" rep-dont-send-local-security-updates="true" rep-
entry-remove="false" rep-ignore-deletes="false" rep-ignore-dest-
deletes="false" rep-immediate="CN=server1/O=novell" rep-include-

```

```

acl="true" rep-include-agents="true" rep-include-documents="true" rep-include-forms="true" rep-include-formulas="true" rep-priority="HIGH" rep-src-server="CN=server2/O=novell" rep-view-list="People;People By Category;Groups;Groups By Category" src-dn="\novell_tree\DirXML\Notes\Groups\Engineering" src-entry-id="40743" timestamp="1112383002#1"> <association state="associated">3EEB6FC36CBE4D3687256FD60069C721</association> <modify-attr attr-name="ListDescription"> <add-value> <value timestamp="1112383002#1" type="string">Software Engineering Group</value> </add-value> </modify-attr> </modify> </input> </nds>

```

## B.7 ACL エントリタグの例

acl-entry-enable-role および acl-entry-disable-role のタグ値には、ACL レコードで定義された役割のリストが必要です。また、ACL レコードで定義されたすべての役割の使用を示す、[[ALL]] タグを受け入れます。

すべての役割を選択するには、文字列 acl-entry-enable-role="[[ALL]]" を使用します。これは、names.nsf に対する acl-entry-enable-role="[GroupCreator] [GroupModifier] [NetCreator] [NetModifier] [PolicyCreator] [PolicyModifier] [PolicyReader] [ServerCreator] [ServerModifier] [UserCreator] [UserModifier]" と同じです。

すべての役割を選択解除するには、文字列 acl-entry-disable-role="[[ALL]]" を使用します。これは、names.nsf に対する acl-entry-disable-role="[GroupCreator] [GroupModifier] [NetCreator] [NetModifier] [PolicyCreator] [PolicyModifier] [PolicyReader] [ServerCreator] [ServerModifier] [UserCreator] [UserModifier]" と同じです。

- ◆ 98 ページのセクション B.7.1 「ACLEntry パラメータを送信する追加イベントのポリシールール」
- ◆ 99 ページのセクション B.7.2 「Notes ドライバシムに送信される時の追加イベントのACLEntry タグ」
- ◆ 100 ページのセクション B.7.3 「変更イベントのポリシールール ( サンプル )」
- ◆ 100 ページのセクション B.7.4 「Notes ドライバシムに送信される時の変更イベント」

### B.7.1 ACLEntry パラメータを送信する追加イベントのポリシールール

ACLEntry パラメータを送信する追加イベントのポリシールール ( サンプル ) です。

```

<rule> <description>Apply ACL entry attributes to ADD events</description> <conditions> <or disabled="true"> <if-operation op="equal">add</if-operation> </or> </conditions> <actions> <do-set-xml-attr expression="../add" name="acl-entry-public-reader"> <arg-string> <token-text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add" name="acl-entry-public-writer"> <arg-string> <token-text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add" name="acl-entry-level"> <arg-string> <token-text>MANAGER</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add" name="acl-entry-user-type"> <arg-string> <token-text>PERSON</token-text> </arg-string> </

```

```

do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add" name="acl-entry-
enable-role"> <arg-string> <token-text>[[ALL]]</token-text> </arg-
string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add"
name="acl-entry-disable-role"> <arg-string> <token-text
xml:space="preserve">[NetCreator] [NetModifier]</token-text> </arg-
string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add"
name="acl-entry-can-create-documents"> <arg-string> <token-text>true</
token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr
expression="../add" name="acl-entry-can-create-ls-or-java-agent">
<arg-string> <token-text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-
attr> <do-set-xml-attr expression="../add" name="acl-entry-can-create-
personal-agent"> <arg-string> <token-text>true</token-text> </arg-
string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add"
name="acl-entry-can-create-personal-folder"> <arg-string> <token-
text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-
attr expression="../add" name="acl-entry-can-create-shared-folder">
<arg-string> <token-text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-
attr> <do-set-xml-attr expression="../add" name="acl-entry-can-delete-
documents"> <arg-string> <token-text>true</token-text> </arg-string>
</do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../add" name="acl-
entry-can-replicate-or-copy-documents"> <arg-string> <token-
text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> </actions> </
rule>

```

## B.7.2 Notes ドライバシムに送信されるときの追加イベントの ACLEntry タグ

ACLEntry タグが追加イベントに含まれた状態で、Notes ドライバシムに送信される場合の例です。

```

<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product
version="2.0.5.51 ">Identity Manager</product> <contact>Novell, Inc.</
contact> </source> <input> <add acl-entry-can-create-documents="true"
acl-entry-can-create-ls-or-java-agent="true" acl-entry-can-create-
personal-agent="true" acl-entry-can-create-personal-folder="true" acl-
entry-can-create-shared-folder="true" acl-entry-can-delete-
documents="true" acl-entry-can-replicate-or-copy-documents="true" acl-
entry-enable-role="[[ALL]]" acl-entry-level="MANAGER" acl-entry-
public-reader="true" acl-entry-public-writer="true" acl-entry-user-
type="PERSON" certify-user="true" class-name="Person" create-
mail="true" dest-dn="CN=DaffyDuck/OU=sales/O=novell" drv-param-cert-
id="sales-cert-id-file" drv-param-cert-pwd="sales-cert-id-password"
event-id="MYSERVER-NDS#20040920214955#1#1" expire-term="2" mail-acl-
manager-name="CN=Notes Driver/O=novell" qualified-src-
dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=sales\CN=DaffyDuck" src-
dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\sales\DaffyDuck" src-entry-id="39862">
<add-attr attr-name="FullName"> <value naming="true"
timestamp="1095716982#20" type="string">DaffyDuck</value> </add-attr>
<add-attr attr-name="LastName"> <value timestamp="1095716982#3"
type="string">Duck</value> </add-attr> <add-attr attr-
name="FirstName"> <value timestamp="1095716995#1"

```

```
type="string">Daffy</value> </add-attr> <add-attr attr-  
name="InternetAddress"> <value>DaffyDuck@novell.com</value> </add-  
attr> </add> </input> </nds>
```

### B.7.3 変更イベントのポリシールール ( サンプル )

次に示すのは、Notes ドライバシムに ACLEntry のパラメータを送信するための、変更イベントのポリシールール ( サンプル ) です。

```
<rule> <description>Apply ACL entry attributes to MODIFY events</  
description> <conditions> <or disabled="true"> <if-operation  
op="equal">modify</if-operation> </or> </conditions> <actions> <do-  
set-xml-attr expression="../modify" name="acl-entry-public-reader">  
<arg-string> <token-text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-  
attr> <do-set-xml-attr expression="../modify" name="acl-entry-public-  
writer"> <arg-string> <token-text>true</token-text> </arg-string> </  
do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../modify" name="acl-  
entry-level"> <arg-string> <token-text>MANAGER</token-text> </arg-  
string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../modify"  
name="acl-entry-user-type"> <arg-string> <token-text>PERSON</token-  
text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr  
expression="../modify" name="acl-entry-enable-role"> <arg-string>  
<token-text>[[ALL]]</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-  
set-xml-attr expression="../modify" name="acl-entry-disable-role">  
<arg-string> <token-text xml:space="preserve">[NetCreator]  
[NetModifier]</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-  
xml-attr expression="../modify" name="acl-entry-can-create-documents">  
<arg-string> <token-text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-  
attr> <do-set-xml-attr expression="../modify" name="acl-entry-can-  
create-ls-or-java-agent"> <arg-string> <token-text>true</token-text>  
</arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../  
modify" name="acl-entry-can-create-personal-agent"> <arg-string>  
<token-text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-  
set-xml-attr expression="../modify" name="acl-entry-can-create-  
personal-folder"> <arg-string> <token-text>true</token-text> </arg-  
string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../modify"  
name="acl-entry-can-create-shared-folder"> <arg-string> <token-  
text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-  
attr expression="../modify" name="acl-entry-can-delete-documents">  
<arg-string> <token-text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-  
attr> <do-set-xml-attr expression="../modify" name="acl-entry-can-  
replicate-or-copy-documents"> <arg-string> <token-text>true</token-  
text> </arg-string> </do-set-xml-attr> </actions> </rule>
```

### B.7.4 Notes ドライバシムに送信されるときの変更イベント

次の示すのは、ACLEntry タグが変更イベントに含まれた状態で、Notes ドライバシムに送信される場合の例です。

```
<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product
```

```

version="2.0.5.51 ">Identity Manager</product> <contact>Novell, Inc.</
contact> </source> <input> <modify acl-entry-can-create-
documents="true" acl-entry-can-create-ls-or-java-agent="true" acl-
entry-can-create-personal-agent="true" acl-entry-can-create-personal-
folder="true" acl-entry-can-create-shared-folder="true" acl-entry-can-
delete-documents="true" acl-entry-can-replicate-or-copy-
documents="true" acl-entry-disable-role="[NetCreator] [NetModifier]"
acl-entry-enable-role="[ALL]" acl-entry-level="MANAGER" acl-entry-
public-reader="true" acl-entry-public-writer="true" acl-entry-user-
type="PERSON" class-name="Person" event-id="MYSERVER-
NDS#20040920215410#1#1" qualified-src-
dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=sales\CN=DaffyDuck" src-
dn="\mytree\DirXML\Notes\Users\sales\DaffyDuck" src-entry-id="39862"
timestamp="1095717426#2"> <association
state="associated">BE64D2CAAB6EADD987256F150077EF7B</association>
<modify-attr attr-name="OfficePhoneNumber"> <remove-value> <value
timestamp="1095717250#1" type="teleNumber">444-4444</value> </remove-
value> <add-value> <value timestamp="1095717426#2"
type="teleNumber">555-1212</value> </add-value> </modify-attr> </
modify> </input> </nds>

```

## B.8 Lotus Notes のフィールドフラグの設定と変更

Notes ドライバ v2.1.1 以降では、同期対象の Lotus Notes データベース (.nsf) のドキュメント (レコード) で、Lotus Notes のフィールドフラグを設定 (追加) したり変更できます (購読者チャネルのみ)。ドライバが適切に設定できる Lotus Notes のフィールドフラグには、read-access、read/write-access、names、protected および summary があります。seal および sign フラグも有効または無効にできますが、十分な機能は期待できません。

各 Notes フィールドフラグは、対応する XML タグを使用して有効または無効に設定できます。次の表に、このマッピングを示します。

表 B-1 ドライバの属性タグおよび対応する Notes のフィールドフラグ

ドライバの属性フラグ	Notes のフィールドフラグ
authors-flag	READ/WRITE-ACCESS
encrypted-flag	SEAL
names-flag	NAMES
protected-flag	PROTECTED
readers-flag	READ-ACCESS
signed-flag	SIGN
summary-flag	SUMMARY

これらの XML タグ (ドライバの属性タグ) は、購読者チャネルの XDS ドキュメントに、<add-attr> または <modify-attr> 要素 (attr-name 属性の一部) の属性として挿入できます。フィールドフラグは、Lotus Notes のデータベーススキーマおよび設計ルールに従って、

適切に使用する必要があります。フィールドでフラグ (またはフラグの組み合わせ) を不適切に使用すると、ドキュメント (レコード) に予期せぬ結果が発生するおそれがあります。

たとえば、任意の属性フラグ (`readers-flag`、`authors-flag`) が、そのフラグを処理できないフィールド上に不適切に設定されている場合、Notes アドレス帳のビューから未認証のユーザが削除されることがあります。

`encrypted-flag` は、ドライバが必要な手順をとらずに正しい証明者を使用した暗号化メソッドを呼び出した場合でも、フィールドに設定されます。そのため、フィールドを SEAL として設定はできますが、コードの中には、適切なメソッドを呼び出してドキュメント内のフィールドを暗号化する必要があるものがあるか、または完全に密封 (暗号化) はされません。

- ◆ 102 ページのセクション B.8.1 「作成ポリシールール (サンプル)」
- ◆ 103 ページのセクション B.8.2 「変更ポリシールール (サンプル)」
- ◆ 103 ページのセクション B.8.3 「追加 XDS ドキュメントの例」
- ◆ 104 ページのセクション B.8.4 「変更 XDS ドキュメントの例」

## B.8.1 作成ポリシールール (サンプル)

次に示すのは、ポリシールールの作成でフィールドフラグを使用している例です。

```
<rule> <description>Add Shoe Size</description> <conditions> <and>
<if-operation op="equal">add</if-operation> </and> </conditions>
<actions> <do-add-dest-attr-value class-name="User" name="ShoeSize">
<arg-value type="string"> <token-text xml:space="preserve">9.5</token-
text> </arg-value> </do-add-dest-attr-value> </actions> </rule> <rule>
<description>Apply ShoeSize Field Flags</description> <conditions>
<and> <if-operation op="equal">add</if-operation> <if-class-name
mode="nocase" op="equal">User</if-class-name> </and> </conditions>
<actions> <do-set-xml-attr expression="../add[@class-name='User']/add-
attr[@attr-name='ShoeSize']" name="authors-flag"> <arg-string> <token-
text>>false</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-
attr expression="../add[@class-name='User']/add-attr[@attr-
name='ShoeSize']" name="readers-flag"> <arg-string> <token-
text>>false</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-
attr expression="../add[@class-name='User']/add-attr[@attr-
name='ShoeSize']" name="names-flag"> <arg-string> <token-text>>false</
token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr
expression="../add[@class-name='User']/add-attr[@attr-
name='ShoeSize']" name="protected-flag"> <arg-string> <token-
text>true</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-
attr expression="../add[@class-name='User']/add-attr[@attr-
name='ShoeSize']" name="summary-flag"> <arg-string> <token-text>true</
token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr
expression="../add[@class-name='User']/add-attr[@attr-
name='ShoeSize']" name="signed-flag"> <arg-string> <token-text>>false</
token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr
expression="../add[@class-name='User']/add-attr[@attr-
name='ShoeSize']" name="encrypted-flag"> <arg-string> <token-
text>>false</token-text> </arg-string> </do-set-xml-attr> </actions> </
```

rule>

## B.8.2 変更ポリシールール ( サンプル )

次に示すのは、コマンド変換における変更ポリシールールの例です。

```
<rule> <description>Apply User Telephone Number Field Flags</  
description> <conditions> <and> <if-class-name mode="nocase"  
op="equal">User</if-class-name> <if-operation op="equal">modify</if-  
operation> <if-op-attr name="Telephone Number" op="available"/> </and>  
</conditions> <actions> <do-set-xml-attr expression="../modify[@class-  
name='User']/modify-attr[@attr-name='Telephone Number']"  
name="authors-flag"> <arg-string> <token-text>>false</token-text> </  
arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../  
modify[@class-name='User']/modify-attr[@attr-name='Telephone Number']"  
name="readers-flag"> <arg-string> <token-text>>false</token-text> </  
arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../  
modify[@class-name='User']/modify-attr[@attr-name='Telephone Number']"  
name="names-flag"> <arg-string> <token-text>>false</token-text> </arg-  
string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../  
modify[@class-name='User']/modify-attr[@attr-name='Telephone Number']"  
name="protected-flag"> <arg-string> <token-text>>true</token-text> </  
arg-string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../  
modify[@class-name='User']/modify-attr[@attr-name='Telephone Number']"  
name="summary-flag"> <arg-string> <token-text>>true</token-text> </arg-  
string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../  
modify[@class-name='User']/modify-attr[@attr-name='Telephone Number']"  
name="signed-flag"> <arg-string> <token-text>>false</token-text> </arg-  
string> </do-set-xml-attr> <do-set-xml-attr expression="../  
modify[@class-name='User']/modify-attr[@attr-name='Telephone Number']"  
name="encrypted-flag"> <arg-string> <token-text>>false</token-text> </  
arg-string> </do-set-xml-attr> </actions> </rule>
```

## B.8.3 追加 XDS ドキュメントの例

次に示すのは、Notes ドライバシムに送信される前の追加 XDS ドキュメントの例です。

```
<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product  
version="2.0.5.51 ">Identity Manager</product> <contact>Novell, Inc.</  
contact> </source> <input> <add certify-user="true" class-  
name="Person" create-mail="true" dest-dn="CN=ErnieEngineer/OU=eng/  
O=novell" drv-param-cert-id="eng-cert-id-file" drv-param-cert-  
pwd="eng-cert-id-password" event-id="BLACKCAP-NDS#20040915163542#1#1"  
expire-term="22" internet-password-force-change="false" mail-acl-  
manager-name="CN=Notes Driver/O=novell" mail-file-inherit-flag="true"  
no-id-file="false" notes-password-change-interval="0" notes-password-  
check-setting="PWD_CHK_CHECKPASSWORD" notes-password-grace-period="0"  
qualified-src-dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=eng\CN=ErnieEngineer"  
roaming-cleanup-period="90" roaming-cleanup-  
setting="REG_ROAMING_CLEANUP_EVERY_NDAYS" roaming-server="CN=blackcap/
```

```
O=novell" roaming-subdir="Roaming\ErnieEngineer" roaming-user="false"
src-dn="\raspberry\DirXML\Notes\Users\eng\ErnieEngineer" src-entry-
id="39853" store-useridfile-in-ab="true" sync-internet-
password="true"> <add-attr attr-name="FullName"> <value naming="true"
timestamp="1095266118#20" type="string">ErnieEngineer</value> </add-
attr> <add-attr attr-name="LastName"> <value timestamp="1095266118#3"
type="string">Engineer</value> </add-attr> <add-attr attr-
name="FirstName"> <value timestamp="1095266142#1"
type="string">Ernie</value> </add-attr> <add-attr attr-
name="InternetAddress"> <value>ErnieEngineer@novell.com</value> </add-
attr> <add-attr attr-name="ShoeSize" authors-flag="false" encrypted-
flag="false" names-flag="false" protected-flag="true" readers-
flag="false" signed-flag="false" summary-flag="true"> <value
type="string">9.5</value> </add-attr> </add> </input> </nds>
```

## B.8.4 変更 XDS ドキュメントの例

次に示すのは、Notes ドライバシムに送信される前の変更 XDS ドキュメントの例です。

```
<nds dtdversion="2.0" ndsversion="8.x"> <source> <product
version="2.0.5.51 ">Identity Manager</product> <contact>Novell, Inc.</
contact> </source> <input> <modify class-name="Person" event-
id="BLACKCAP-NDS#20040915164613#1#1" qualified-src-
dn="O=DirXML\OU=Notes\OU=Users\OU=eng\CN=ErnieEngineer" src-
dn="\raspberry\DirXML\Notes\Users\eng\ErnieEngineer" src-entry-
id="39853" tell-adminp-process="tell adminp process all"
timestamp="1095267005#2"> <association
state="associated">A4C23EE8273577AF87256F10005B2BF9</association>
<modify-attr attr-name="OfficePhoneNumber" authors-flag="false"
encrypted-flag="false" names-flag="false" protected-flag="true"
readers-flag="false" signed-flag="false" summary-flag="true"> <remove-
value> <value timestamp="1095266773#1" type="teleNumber">222-2222</
value> </remove-value> <add-value> <value timestamp="1095267005#2"
type="teleNumber">222-2221</value> </add-value> </modify-attr> </
modify> </input> </nds>
```